

全国異常気象概況

平成24年

(2012年)

平成25年3月

気象庁

—— 目 次 ——

1	平成24年(2012年)の気象災害.....	1
1-1	気象の特徴	1
1-2	主な気象災害.....	1
	資料1-2-1 平成24年(2012年)激甚災害指定状況一覧表	23
2	平成24年(2012年) 台風の概要	25
2-1	平成24年(2012年)に発生した台風.....	25
	資料2-1-1 台風発生数一覧表	26
	資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表.....	27
	資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表.....	28
	資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表	29
	資料2-1-5 平成24年(2012年)に発生した台風の一覧表.....	30
2-2	平成24年(2012年)に日本に影響した主な台風	31
	資料2-2-1 平成24年(2012年)に日本に影響した台風の概要表....	35
	資料2-2-2 平成24年(2012年)に発生した台風の経路図.....	36
3	平成24年(2012年)の天気概況.....	41

本資料は、人的被害や社会活動に大きな影響のあった主な気象災害の概況や台風などについて、気象庁予報部において取りまとめたものである。

1 平成 24 年(2012 年)の気象災害

1-1 気象の特徴

○ 全国的に年平均気温は平年並で、多雨傾向

北日本から西日本にかけては、寒候期が低温傾向、暖候期が高温傾向と季節のメリハリがはっきりとした年となり、年平均気温は平年並だった。年降水量は全国的に平年を上回った所が多かった。特に沖縄・奄美では、年降水量がかなり多く、年間日照時間がかなり少なかった。

○ 北日本、東日本、西日本は寒冬

冬型の気圧配置が続いたため、平成 23 年 12 月から平成 24 年 2 月にかけて 3 か月連続して月平均気温が低く、冬の平均気温も低かった。日本海側では「平成 18 年豪雪」に次ぐ積雪となった。

○ 北日本、東日本、西日本は暑夏、西日本と沖縄・奄美は雨の多い夏

梅雨明け以降太平洋高気圧に覆われることが多く、夏の平均気温は沖縄・奄美を除き高かった。梅雨前線や台風等の影響により、夏の降水量は西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多く、西日本日本海側も含めてたびたび大雨となった。7 月 11 日から 14 日には「平成 24 年 7 月九州北部豪雨」が発生した。

○ 9 月の北日本は記録的高温

勢力の強い太平洋高気圧が日本の東海上から張り出したため、北日本では平年の盛夏期を上回るような高温が続いた。このため、北日本の 9 月の平均気温はかなり高くなり、統計を開始した 1946 年以降最も高い値を大幅に更新した(平年差+3.7℃、これまでの記録は 1961 年の+1.8℃)。

1-2 主な気象災害

ここでは、平成 24 年(2012 年)に発生し、人的被害や社会活動に大きな影響があった主な気象災害の概況について、おおむね発生期日順に災害番号(括弧内番号)を付けて記述した。また、災害番号に続けて、災害期日：地域、()内に災害の種類、< >内に気圧配置などの気象状況を記した。災害の種類別(大雨、大雪、暴風、突風、高波など)の一覧表を表 1. 1 に示す。

被害の具体的な数値は、総務省消防庁、国土交通省の資料および地方気象台等が国や都道府県の防災機関等から入手し気象庁観測部情報管理室が取りまとめた資料による。また、地方気象台等が行った竜巻の被害状況等調査報告等も参考にした。

表 1.1 災害の種類別の番号一覧表

災害名	災害番号
大雨(豪雨を含む)	(2)、(3)、(5)、(6)、(7)、(8)、(9)、(10)、(11)、(12)、(13)、(14)、(15)、(16)、(17)、(18)、(20)、(21)
大雪	(1)、(25)
暴風	(1)、(2)、(5)、(7)、(8)、(10)、(11)、(12)、(13)、(15)、(16)、(17)、(18)、(20)、(21)、(24)
突風(竜巻を含む)	(4)、(8)、(16)、(19)、(22)、(23)
高波	(15)、(17)
その他	(24)

(1) 2月1日～2月2日：北日本（大雪、暴風）＜冬型＞

低気圧が日本海中部から三陸沖へ進んだあと、強い冬型の気圧配置となり、東北地方の一部で大雪、九州から東北地方にかけての一部で暴風となった。

このため、秋田県などで死者が5名となったほか、住家被害や浸水害、交通障害、電力障害が発生した。

（被害の状況は気象庁調べ）

[主な最大風速]

2月1日	山形県酒田市飛島(トビシマ)	29.0	メートル	西	[19:20]
	北海道えりも町えりも岬(エリモシ)	25.5	メートル	北北東	[23:52]
	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	22.0	メートル	西北西	[21:29]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトシ)	21.3	メートル	西北西	[18:42]
	新潟県佐渡市相川(アイカ)	20.3	メートル	西北西	[15:56]
	秋田県秋田市秋田(アキタ)	20.1	メートル	西南西	[18:26]
2月2日	北海道えりも町えりも岬(エリモシ)	25.0	メートル	北北東	[00:01]
	青森県八戸市八戸(ハチハ)	23.6	メートル	北北東	[00:35]
	鹿児島県西之表市種子島(タネシマ)	20.3	メートル	北西	[16:51]
	山形県酒田市浜中(ハマナカ)	20.1	メートル	西	[00:04]
	新潟県佐渡市弾崎(ハジキサキ)	20.0	メートル	北北西	[12:59]

[主な日降雪量]

2月1日	青森県大間町大間(オオマ)	51.0	センチ
2月2日	山形県西川町大井沢(オオイワ)	51.0	センチ

(2) 4月3日～4月5日：全国（大雨、暴風）＜低気圧＞

4月2日低気圧が華北から黄海に進み、この低気圧は3日に急速に発達しながら日本海を東北東に進んだ。低気圧の中心気圧は2日21時の1006hPaから3日21時の964hPaへと、24時間で42hPa低下し、また、この低気圧からのびる寒冷前線が西日本から北日本を通過した。その後、4日に低気圧は北日本を通過してオホーツク海に達した。このため、西日本から北日本の広い範囲で記録的な暴風となり、海上では大しけとなった。また、前線の通過に伴い局地的に非常に激しい雨が降った。

このため、新潟県などで死者・行方不明者12名となったほか、住家被害、土砂災害、交通障害、電力障害などが発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

[主な日降水量]

4月3日	鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	156.0	ミリ	高知県香美市繁藤(シゲトウ)	120.5	ミリ
	山梨県山中湖村山中(ヤマナカ)	113.0	ミリ	静岡県伊豆市天城山(アマギザン)	101.0	ミリ
4月5日	新潟県阿賀町室谷(ムロヤ)	58.0	ミリ			

[主な最大風速]

4月3日	山形県酒田市飛島(トビシマ)	34.3	メートル	西南西	[24:00]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	32.2	メートル	南南東	[13:38]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトシ)	30.6	メートル	西南西	[14:08]
	東京都三宅村三宅坪田(ミヤケボタ)	28.2	メートル	南	[18:30]
	兵庫県明石市明石(アカシ)	28.0	メートル	西	[15:20]
	島根県隠岐の島町西郷岬(サイゴウシマキ)	27.1	メートル	南西	[14:00]

	新潟県佐渡市両津(リョウツ)	26.2	メートル	西南西	[21:16]
	福井県坂井市三国(ミタニ)	25.8	メートル	南南東	[13:22]
	大阪府田尻町関空島(カンクジマ)	24.7	メートル	南	[13:46]
	青森県青森市青森大谷(アオモリオオタニ)	23.7	メートル	南南西	[23:53]
	富山県砺波市砺波(トナミ)	23.1	メートル	南南東	[14:38]
	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	23.0	メートル	南南東	[07:02]
	鳥取県鳥取市湖山(コヤマ)	22.9	メートル	西	[16:23]
	石川県輪島市三井(ミイ)	22.8	メートル	西南西	[18:24]
	広島県呉市呉(クル)	22.8	メートル	西南西	[15:22]
	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	22.2	メートル	西	[18:18]
	長崎県対馬市鱒浦(ワニウラ)	22.0	メートル	西	[11:39]
	鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	21.7	メートル	北西	[14:57]
	香川県高松市香南(コウナン)	21.3	メートル	西	[15:54]
	千葉県中央区千葉(チハ)	21.0	メートル	南南東	[18:16]
	岡山県北区岡山(カヤマ)	20.8	メートル	南西	[15:04]
	宮崎県宮崎市赤江(アカエ)	20.8	メートル	西	[13:17]
	北海道釧路市釧路(クシロ)	20.3	メートル	南東	[23:22]
	秋田県由利本荘市本荘(ホリゾウ)	20.3	メートル	南西	[23:44]
	静岡県南伊豆町石廊崎(イソウサキ)	20.3	メートル	南南西	[18:07]
4月4日	山形県酒田市飛島(トビシマ)	39.7	メートル	西	[02:43]
	新潟県佐渡市両津(リョウツ)	32.1	メートル	西南西	[01:10]
	秋田県秋田市秋田(アキタ)	28.9	メートル	西南西	[04:20]
	北海道稚内市宗谷岬(ソウヤミサキ)	28.7	メートル	北西	[12:40]
	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	27.5	メートル	西	[11:57]
	青森県八戸市八戸(ハチノヘ)	25.9	メートル	西南西	[07:31]
	宮城県青葉区新川(ニッカリ)	25.9	メートル	西	[10:41]
	栃木県日光市奥日光(オクニッコウ)	23.5	メートル	西	[04:48]
	北海道釧路市釧路(クシロ)	23.1	メートル	南西	[05:24]
	東京都神津島村神津島(コウヅシマ)	22.2	メートル	西北西	[00:01]
	北海道留萌市留萌(ルモイ)	20.9	メートル	西北西	[12:54]
	北海道奥尻町米岡(ヨネカ)	20.8	メートル	北西	[10:37]
4月5日	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	23.4	メートル	西	[00:45]
	北海道稚内市宗谷岬(ソウヤミサキ)	20.6	メートル	西北西	[00:52]

(3) 5月2日～5月4日：西日本から北日本(大雨) <低気圧>

5月2日から5日にかけて、低気圧が九州の南部付近から三陸沖へゆっくりと進んだ。全国的に大雨や暴風となったところがあった。

このため、愛知県で死者2名となったほか、住家被害、浸水害、土砂災害、交通障害、電力障害などが発生した。(被害の状況は気象庁調べ)

[主な日降水量]

5月2日	静岡県伊豆市天城山(アマキサン)	566.5	ミリ	三重県尾鷲市尾鷲(ウセ)	384.0	ミリ
	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	298.0	ミリ	東京都大島町大島(オシマ)	218.0	ミリ
	和歌山県那智勝浦町色川(イロカ)	206.5	ミリ	沖縄県本部町本部(モトブ)	167.5	ミリ
	徳島県上勝町福原旭(フクハラヒ)	158.5	ミリ	埼玉県ときがわ町ときがわ(トキガワ)	142.5	ミリ
	高知県四万十町窪川(クボカ)	127.5	ミリ	奈良県上北山村上北山(カキヤマ)	110	ミリ
	山梨県南部町南部(ナフ)	109.5	ミリ	沖縄県北大東村北大東(キタダイト)	105.5	ミリ
5月3日	茨城県北茨城市花園(ハナヅノ)	324.5	ミリ	福島県福島市鷲倉(ウシクラ)	255.0	ミリ
	栃木県那須町那須(ナス)	231.5	ミリ	岩手県釜石市釜石(カマシ)	221.5	ミリ
	宮城県泉区泉ヶ岳(イヅミガタケ)	211.5	ミリ	東京都大島町大島(オシマ)	170.5	ミリ
	静岡県伊豆市天城山(アマキサン)	143.5	ミリ	埼玉県ときがわ町ときがわ(トキガワ)	140.5	ミリ
	神奈川県港北区日吉(ヒヨシ)	130.5	ミリ	群馬県館林市館林(タテバヤシ)	104.5	ミリ
5月4日	北海道登別市カルルス(カルルス)	285.0	ミリ	北海道広尾町広尾(ヒロオ)	248.5	ミリ
	北海道えりも町目黒(メグロ)	240.5	ミリ	北海道釧路市阿寒(アカン)	186.5	ミリ
	岩手県山田町山田(ヤマダ)	178.5	ミリ	北海道千歳市支笏湖畔(シヨツコハン)	145.5	ミリ
	北海道斜里町宇登呂(ウトロ)	139.0	ミリ	北海道標津町糸櫛別(イトシベツ)	106.0	ミリ
	北海道黒松内町黒松内(クロマツナイ)	104.0	ミリ			

[主な最大風速]

5月2日	静岡県南伊豆町石廊崎(イロザキ)	18.3	メートル	東北東	[18:24]
	東京都神津島村神津島(コヅシマ)	17.9	メートル	東南東	[21:30]
	兵庫県中央区神戸空港(コトヘクウコウ)	16.2	メートル	東北東	[15:30]
5月3日	千葉県銚子市銚子(チヨウシ)	19.6	メートル	東南東	[04:27]
	宮城県石巻市石巻(イシノキ)	16.4	メートル	東南東	[20:05]
	山形県酒田市浜中(ハマナカ)	15.9	メートル	東	[10:33]
5月4日	北海道釧路市釧路(クシロ)	17.6	メートル	東南東	[17:38]
	北海道えりも町えりも岬(エリモシ)	17.2	メートル	北東	[08:24]
	北海道函館市高松(タカマツ)	17.2	メートル	東	[07:14]
	北海道根室市納沙布(ナツブ)	17.1	メートル	東南東	[19:41]
	北海道稚内市宗谷岬(ソウヤシ)	17.0	メートル	東	[23:05]
	静岡県牧之原市静岡空港(シズカクウコウ)	16.0	メートル	西北西	[22:32]
	東京都三宅村三宅坪田(ミヤケホダ)	15.5	メートル	西	[23:37]
	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	15.1	メートル	北西	[20:35]

(4) 5月6日：茨城県、栃木県(竜巻) <気圧の谷、寒気の移流>

5月6日は日本の上空5500メートルにおいて、氷点下21度以下の強い寒気が流れ込んだ。一方、同日9時には日本海に低気圧があって、東日本から東北地方の太平洋側を中心に、この低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ。さらに、日射の影響で地上の気温が上昇したことから、関東甲信地方は大気の状態が非常に不安定となり、落雷や突風、降ひょうを伴う発達した積乱雲が発生し、茨城県、栃木県で竜

巻が発生した。

このため、茨城県で死者1名となったほか、家屋の損壊などが発生した。

(5) 5月25日～5月27日：伊豆諸島、小笠原諸島（大雨、暴風）＜台風第2号＞

5月22日15時にグアム島の北西海上で発生した台風第2号は、徐々に進路を北へ変え、25日3時に硫黄島の南西海上で勢力が最大となった。台風第2号は北東へ進路を変えた後、28日3時に小笠原諸島の東で温帯低気圧に変わった。

[主な日降水量]

5月26日	鹿児島県十島村中之島(カバマ)	74.5	ミリ
5月27日	沖縄県与那国町所野(トコロ)	55.5	ミリ

[主な最大風速]

5月27日	鹿児島県奄美市笠利(カサ)	11.5	メートル	東北東	[11:05]
	沖縄県与那国町与那国島(ヨグニジマ)	10.4	メートル	北東	[23:27]

(6) 5月29日～5月30日：東日本（大雨）＜上空の寒気＞

5月29日から30日にかけて、上空の寒気の影響で、東日本の一部で大雨となった。

このため、住家被害や浸水害、電力障害などが発生した。(被害の状況は気象庁調べ)

[主な日降水量]

5月29日	茨城県水戸市水戸(ミ)	110.0	ミリ	静岡県藤枝市高根山(カサ)	105.5	ミリ
-------	-------------	-------	----	---------------	-------	----

(7) 6月4日～6月6日：沖縄・奄美（大雨、暴風）＜台風第3号＞

6月2日3時にルソン島の東海上で発生した台風第3号は、北西へ進んだ後転向して北北東へ進み、4日3時に沖縄の南海上で勢力が最大となった。台風第3号はその後も北東へ進み、6日15時に八丈島の東海上で温帯低気圧に変わった。このため、沖縄・奄美の一部で大雨となった。

[主な日降水量]

6月4日	鹿児島県十島村中之島(カバマ)	154.0	ミリ
6月5日	沖縄県南大東村南大東(ナミダイト)	150.0	ミリ
6月6日	東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ)	63.5	ミリ

[主な最大風速]

6月5日	沖縄県南大東村南大東(ナミダイト)	25.9	メートル	南	[10:18]
6月6日	東京都八丈町八重見ヶ原(ヤシガハラ)	20.8	メートル	東北東	[07:54]

(8) 6月8日～7月10日：沖縄・奄美（大雨、暴風、竜巻）＜梅雨前線、台風第4号＞

6月8日から14日にかけて、梅雨前線が九州の南海上に停滞した。沖縄・奄美地方、九州地方、四国地方、伊豆諸島南部を中心に大雨となった。

6月15日から17日にかけて、梅雨前線が九州の南海上に停滞し、この前線上の低気圧が九州の西海上から山陰沖へ進んだ。九州地方、四国地方、近畿地方、東海地方、甲信地方を中心に大雨となった。

6月18日から20日にかけて、梅雨前線が九州に停滞した。また、沖縄の南海上の台風第4号が四国沖へ進んで、19日17時過ぎに和歌山県南部に上陸し、東海地方、関東地方を通過して、20日9時に三陸沖で温帯低気圧へと変わった。このため、沖縄・奄美地方、九州地方、四国地方、中国地方、近畿地方、東海地方、関東地方、東北地方を中心に大雨となった。また、沖縄・奄美地方、四国地方、近畿地方、東海地方、関東地方、伊豆諸島南部、東北地方、北海道で暴風となった。このため、静岡県で死者1名となったほか、住家被害、浸水害、土砂災害、交通障害、電力障害などが発生した。（被害の状況は平成24年8月16日19時00分現在内閣府調べ）

6月21日から22日にかけて、梅雨前線が奄美地方に停滞し、前線上の低気圧が西日本を通過して関東の東海上へ進んだ。沖縄・奄美地方、九州地方、四国地方、近畿地方、東海地方、関東地方を中心に大雨となった。このため、高知県で死者1名となったほか、住家被害、浸水害、土砂災害、交通障害、電力障害が発生した（被害の状況は気象庁調べ）

6月23日から24日にかけて、梅雨前線が本州南岸に停滞し、前線上の低気圧が九州の西海上から本州南岸へ進んだ。九州地方を中心に大雨となった。

6月25日から28日にかけて、梅雨前線が九州を通過して本州南岸に停滞した。九州地方を中心に大雨となった。

6月29日から7月1日にかけて、梅雨前線上に発生した華北の低気圧が日本海西部へ進んだ。九州地方を中心に大雨となった。

7月2日から4日にかけて、梅雨前線が本州付近に停滞し、九州地方、東海地方、関東地方を中心に大雨となった。

7月5日から7日にかけて、梅雨前線上に発生した黄海の低気圧が関東の東海上へ進んだ。九州地方、中国地方、近畿地方、北陸地方、甲信地方、東北地方を中心に大雨となった。また、5日には青森県で竜巻が発生した。このため、滋賀県と大分県で死者2名となったほか、住家被害、浸水害、土砂災害、交通障害、電力障害などが発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

7月8日から10日にかけて、梅雨前線が九州の南海上から関東の東海上に停滞した。奄美地方を中心に大雨となった。

[主な日降水量]

6月18日	長崎県平戸市平戸(ヒト)	207.0	ミリ	宮崎県延岡市延岡(ハバカ)	140.5	ミリ
	大分県佐伯市宇目(ウメ)	135.0	ミリ			
6月19日	三重県大台町宮川(ミヤガワ)	405.5	ミリ	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	357.0	ミリ
	山梨県山中湖村山中(ヤマナカ)	285.5	ミリ	徳島県上勝町福原旭(フクハラアサヒ)	266.0	ミリ
	栃木県日光市奥日光(オクニッコウ)	259.0	ミリ	奈良県上北山村上北山(カキキヤマ)	241.5	ミリ
	愛知県豊田市阿蔵(アツウ)	238.0	ミリ	神奈川県山北町丹沢湖(タニザワコ)	237.0	ミリ
	茨城県北茨城市花園(ハヅノ)	226.0	ミリ	高知県仁淀川町鳥形山(トリガタヤマ)	225.0	ミリ
	和歌山県古座川町西川(ニシガワ)	212.5	ミリ	兵庫県朝来市生野(イクノ)	210.5	ミリ
	岐阜県大垣市上石津(カミイヅツ)	200.0	ミリ	沖縄県渡嘉敷村渡嘉敷(トカシキ)	193.0	ミリ
	愛媛県四国中央市富郷(トミコ)	187.5	ミリ	埼玉県ときがわ町ときがわ(トキガワ)	173.0	ミリ
	群馬県高崎市榛名山(ハルナサン)	156.0	ミリ	福島県福島市鷺倉(ウヅクラ)	141.0	ミリ
	滋賀県高島市朽木平良(クツキヘラ)	139.5	ミリ	東京都奥多摩町小河内(オコウチ)	133.5	ミリ
	香川県東かがわ市引田(ヒキタ)	131.5	ミリ	長野県阿智村浪合(ナアイ)	129.5	ミリ
	京都府福知山市三岳(ミタケ)	117.5	ミリ	島根県海士町海士(アマ)	111.0	ミリ
	大分県佐伯市宇目(ウメ)	109.5	ミリ	長崎県対馬市厳原(イツハラ)	108.0	ミリ

	岡山県吉備中央町吉備中央(キヅウウチ)	107.0	ミリ	千葉県大多喜町大多喜(オチ)	102.0	ミリ
	鳥取県鳥取市佐治(サヅ)	101.5	ミリ	宮城県青葉区新川(ニッカリ)	100.5	ミリ
6月20日	鹿児島県奄美市笠利(カサリ)	176.0	ミリ	宮城県石巻市雄勝(オホツ)	152.0	ミリ
	岩手県釜石市釜石(カマシ)	110.5	ミリ	北海道広尾町広尾(ヒロオ)	102.5	ミリ
6月21日	高知県土佐清水市清水(シミス)	289.0	ミリ	宮崎県日南市油津(アブラツ)	241.5	ミリ
	徳島県那賀町木頭(キトウ)	227.5	ミリ	鹿児島県霧島市溝辺(ミヅベ)	217.5	ミリ
	熊本県球磨村一勝地(イツショウチ)	207.5	ミリ	愛媛県愛南町御荘(シヨウ)	179.0	ミリ
	兵庫県洲本市洲本(スエト)	135.0	ミリ	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	126.0	ミリ
	大分県佐伯市宇目(ウメ)	119.0	ミリ	沖縄県竹富町波照間(ハテルマ)	112.5	ミリ
	大阪府田尻町閑空島(カンクウシマ)	108.5	ミリ	香川県東かがわ市引田(ヒキタ)	108.0	ミリ
6月22日	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	109.0	ミリ	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	104.5	ミリ
6月23日	鹿児島県屋久島町尾之間(オノアイダ)	127.0	ミリ			
6月24日	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	305.0	ミリ	宮崎県西米良村西米良(ニシメラ)	304.5	ミリ
	熊本県山都町山都(ヤマト)	292.5	ミリ	鹿児島県霧島市霧島牧園(キリシマキヅノ)	203.5	ミリ
	大分県由布市湯布院(ユフイン)	198.0	ミリ	佐賀県嬉野市嬉野(ウレシ)	182.0	ミリ
	福岡県大牟田市大牟田(オムタ)	158.5	ミリ			
6月25日	鹿児島県錦江町田代(タシロ)	121.5	ミリ			
6月26日	鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	110.0	ミリ			
6月27日	鹿児島県肝付町内之浦(ウチウラ)	371.0	ミリ	宮崎県都農町都農(ツノ)	244.0	ミリ
	熊本県球磨村一勝地(イツショウチ)	136.5	ミリ	長崎県長崎市長浦岳(カウラダケ)	114.0	ミリ
6月28日	和歌山県串本町潮岬(シノミサキ)	85.5	ミリ	三重県尾鷲市尾鷲(オレ)	85.0	ミリ
6月29日	宮崎県日南市深瀬(フカセ)	55.5	ミリ			
6月30日	熊本県南小国町南小国(ミナミオクニ)	112.0	ミリ			
7月1日	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	158.5	ミリ	鹿児島県霧島市霧島牧園(キリシマキヅノ)	134.5	ミリ
	福岡県久留米市耳納山(ミノウサン)	113.5	ミリ	熊本県山都町山都(ヤマト)	113.5	ミリ
	大分県玖珠町玖珠(クス)	108.5	ミリ			
7月2日	熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	150.5	ミリ	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	142.0	ミリ
7月3日	大分県中津市耶馬溪(ヤマケイ)	250.5	ミリ	福岡県添田町英彦山(ヒコサン)	174.0	ミリ
	千葉県鴨川市鴨川(カモガワ)	135.0	ミリ	静岡県熱海市網代(アジノ)	133.0	ミリ
	佐賀県佐賀市北山(ホクサン)	111.0	ミリ			
7月4日	福岡県八女市黒木(クロギ)	97.0	ミリ			
7月5日	島根県江津市桜江(サクラエ)	139.5	ミリ	山形県真室川町差首鍋(サスナベ)	126.5	ミリ
	岩手県西和賀町湯田(ユダ)	109.0	ミリ			
7月6日	富山県朝日町泊(トマリ)	137.0	ミリ	島根県出雲市佐田(サダ)	126.5	ミリ
	石川県金沢市金沢(カナザワ)	122.0	ミリ	兵庫県宍粟市一宮(イチノミヤ)	121.0	ミリ
	広島県庄原市高野(タカノ)	117.5	ミリ	長野県王滝村御嶽山(オウタケサン)	114.5	ミリ
	鳥取県日南町茶屋(チャヤ)	102.0	ミリ			
7月7日	宮崎県都城市山田(ヤマダ)	156.5	ミリ	富山県黒部市宇奈月(ウナヅキ)	145.0	ミリ
	新潟県阿賀町室谷(ムロヤ)	139.0	ミリ	宮城県泉区泉ヶ岳(イズミガタケ)	119.0	ミリ
	岡山県和气町和气(ワケ)	112.0	ミリ			
7月8日	鹿児島県瀬戸内町古仁屋(コニヤ)	139.5	ミリ			

7月9日	鹿児島県与論町与論島(ヨンジマ)	122.5	ミリ
7月10日	鹿児島県十島村中之島(カハシマ)	77.0	ミリ

[主な最大風速]

6月18日	沖縄県北大東村北大東(キタダイトウ)	21.8	メートル	南南東	[23:25]
6月19日	東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	29.3	メートル	南南西	[21:52]
	静岡県御前崎市御前崎(オマエザキ)	27.1	メートル	南南西	[21:16]
	沖縄県南大東村南大東(ミナミダイトウ)	26.2	メートル	南南東	[01:09]
	神奈川県藤沢市辻堂(ツジトウ)	25.2	メートル	南南西	[23:14]
	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	23.6	メートル	西	[18:15]
	和歌山県串本町潮岬(シロミサキ)	23.5	メートル	西	[18:20]
	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	22.2	メートル	東	[18:42]
	三重県津市津(ツ)	21.2	メートル	東	[18:23]
6月20日	東京都江戸川区江戸川臨海(エドガワリカイ)	26.1	メートル	南南西	[00:21]
	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	24.1	メートル	北北東	[17:24]
	宮城県石巻市石巻(イシノミ)	22.4	メートル	東	[02:29]
	千葉県中央区千葉(チバ)	22.2	メートル	南南西	[00:32]
6月21日	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	23.5	メートル	北東	[08:35]
	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	22.5	メートル	北東	[00:03]
6月22日	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	23.4	メートル	南南西	[00:05]
7月3日	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	25.2	メートル	西南西	[13:08]
7月6日	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	20.8	メートル	西南西	[19:58]
7月7日	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	22.7	メートル	西北西	[07:16]

(9) 7月11日～7月14日：九州北部（大雨）＜梅雨前線＞

7月11日から14日にかけて、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、九州北部を中心に大雨となった。熊本県阿蘇市阿蘇乙姫(アソトヒメ)では、11日0時から14日24時までに観測された最大1時間降水量が108.0ミリ、最大24時間降水量が507.5ミリとなり、それぞれ観測史上1位の値を更新した。これらを含め、統計期間が10年以上の観測地点のうち、最大1時間降水量で計7地点、最大24時間降水量で計8地点が観測史上1位の値を更新した。

この大雨により、河川のはん濫や土石流が発生し、熊本県、大分県、福岡県で死者30名、行方不明者2名となったほか、九州北部を中心に住家損壊、土砂災害、浸水害等が発生した。また、停電被害、交通障害等が発生した。(被害状況は、平成24年8月16日19時00分現在の内閣府の情報による)

この11日から14日にかけて災害をもたらした大雨について、気象庁は「平成24年7月九州北部豪雨」と命名した。

[主な日降水量]

7月11日	鹿児島県南種子町上中(カミナ)	244.5	ミリ	福岡県久留米市耳納山(ミノウサン)	115.0	ミリ
7月12日	熊本県阿蘇市阿蘇乙姫(アソトヒメ)	493.0	ミリ	高知県馬路村魚梁瀬(イサセ)	332.5	ミリ
	大分県竹田市竹田(タケタ)	251.0	ミリ	鹿児島県志布志市志布志(シブシ)	224.0	ミリ
	徳島県美波町日和佐(ヒワサ)	216.0	ミリ	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンサン)	211.0	ミリ
	長野県王滝村御嶽山(オウタケサン)	210.5	ミリ	静岡県葵区井川(イガワ)	201.0	ミリ
	岐阜県関市関市板取(キキイタトリ)	201.0	ミリ	愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	190.0	ミリ

	宮崎県椎葉村椎葉(シバ)	160.0	ミリ	三重県紀北町紀伊長島(キイガシマ)	146.0	ミリ
	北海道登別市カルルス(カルルス)	120.0	ミリ	北海道利尻富士町本泊(モトノマリ)	105.0	ミリ
	北海道浜中町榊町(サカキ)	102.5	ミリ	北海道根室市根室(ネロ)	101.5	ミリ
7月13日	佐賀県白石町白石(シロイシ)	258.5	ミリ	鹿児島県霧島市溝辺(ミヅノヘ)	238.0	ミリ
	福岡県久留米市耳納山(ミノウチ)	232.0	ミリ	熊本県南小国町南小国(ミナモト)	172.5	ミリ
	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキノハ)	144.5	ミリ	長崎県対馬市厳原(イツハラ)	119.0	ミリ
	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	104.5	ミリ			
7月14日	福岡県八女市黒木(クロギ)	415.0	ミリ	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキノハ)	368.5	ミリ
	熊本県山鹿市鹿北(カキ)	225.5	ミリ	神奈川県山北町丹沢湖(タマガワ)	190.5	ミリ
	山口県下関市下関(シモノセキ)	174.0	ミリ	佐賀県佐賀市川副(カサヘ)	137.0	ミリ
	静岡県葵区井川(イワ)	122.5	ミリ			

(10) 7月15日～7月23日：全国(大雨、暴風) <梅雨前線>

7月15日から17日にかけて、梅雨前線が対馬海峡から東北地方に停滞した。沖縄・奄美地方、九州地方、近畿地方、北陸地方、東海地方、東北地方を中心に大雨となった。また、17日には栃木県でダウンバーストが発生した。このため、長野県で死者1名となったほか、住家被害、土砂災害、電力障害が発生した。(被害の状況は気象庁調べ)

7月18日から23日にかけて、日本付近はオホーツク海高気圧と太平洋高気圧に挟まれた気圧の鞍部となり、西から暖かく湿った空気が流入した。九州地方、四国地方、近畿地方、北陸地方の多いところで日雨量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

7月15日	岐阜県下呂市萩原(ハギワラ)	200.0	ミリ	新潟県佐渡市秋津(アキツ)	149.5	ミリ
	京都府中京区京都(キョウト)	117.5	ミリ			
7月16日	秋田県藤里町藤里(フジノ)	160.0	ミリ	青森県深浦町深浦(フカウラ)	153.5	ミリ
	大分県日田市日田(ヒタ)	119.5	ミリ	岩手県雫石町葛根田(カクコノダ)	112.5	ミリ
7月17日	鹿児島県和泊町沖永良部(キノエラブ)	117.0	ミリ	沖縄県北大東村北大東(キタダイト)	107.0	ミリ
7月18日	宮崎県日之影町日之影(ヒノカゲ)	140.0	ミリ			
7月19日	鹿児島県鹿児島市鹿児島(カゴシマ)	134.5	ミリ	長崎県新上五島町有川(アリカ)	103.0	ミリ
7月20日	福岡県朝倉市朝倉(アサクラ)	136.0	ミリ	和歌山県古座川町西川(ニシカ)	133.0	ミリ
	兵庫県宍粟市一宮(イチノミヤ)	130.0	ミリ	鹿児島県出水市出水(イズミ)	125.5	ミリ
	佐賀県鳥栖市鳥栖(トス)	124.0	ミリ	熊本県上天草市松島(マツシマ)	103.5	ミリ
7月21日	石川県加賀市栢野(カノ)	137.0	ミリ	福井県福井市美山(ミヤマ)	122.5	ミリ
	徳島県海陽町海陽(カイヨウ)	116.5	ミリ	富山県高岡市伏木(フシキ)	103.0	ミリ
7月22日	徳島県海陽町海陽(カイヨウ)	209.5	ミリ	宮崎県都城市都城(ミヤコノジヨウ)	108.0	ミリ
7月23日	熊本県山江村山江(ヤマエ)	60.5	ミリ	徳島県美波町日和佐(ヒワサ)	53.0	ミリ

(11) 7月29日～8月3日：沖縄・奄美から西日本(大雨、暴風) <台風第9号、台風第10号>

7月28日09時にフィリピンの東海上で発生した台風第9号は8月1日15時に沖縄の南海上で勢力が最大となった。台風第9号は台湾付近で反時計回りに円を描くように進んだ後、速度を上げながら北西へ進んで3日09時前に中国の東海岸に上陸し、同日15時に熱帯低気圧へ変わった。

7月28日21時に南鳥島の西海上で発生した台風第10号は南西へ進んだ後西北西へ進み、8月1日15時過ぎ、鹿児島県屋久島付近を通過した。その後北西へ進んだ台風第10号は、2日15時に黄海で勢力が最大となった。台風第10号は、山東半島付近に上陸した後、北北東へ進み、3日21時にボツ海で熱帯低気圧に変わった。

これらの台風の影響で、交通障害や電力障害などが発生した。(被害の状況は気象庁調べ)

[主な日降水量]

8月1日 沖縄県与那国町与那国島(ヨナグニジマ) 182.5 ミリ

[主な最大風速]

8月1日 沖縄県与那国町与那国島(ヨナグニジマ) 32.1 メートル 東南東 [23:25]

鹿児島県中種子町中種子(ナカネ) 24.2 メートル 東南東 [14:20]

8月2日 沖縄県与那国町与那国島(ヨナグニジマ) 31.9 メートル 東南東 [00:08]

(12) 8月3日～8月8日：沖縄・奄美(大雨、暴風)＜台風第11号＞

8月3日09時に硫黄島の南海上で発生した台風第11号は、西北西へ進んだ後、東シナ海をゆっくり西へ進み、7日21時に同海上で勢力が最大となった。その後台風第11号は、北西に進み、同日遅くに華中に上陸した後、9日21時に熱帯低気圧に変わった。

この台風の影響で、土砂災害や交通障害などが発生した。(被害の状況は気象庁調べ)

[主な日降水量]

8月3日 沖縄県うるま市宮城島(ミヤギジマ) 86.5 ミリ

8月4日 沖縄県南大東村南大東(ミナトイトウ) 81.5 ミリ

8月5日 沖縄県渡嘉敷村渡嘉敷(トカシキ) 181.0 ミリ 高知県馬路村魚梁瀬(イサヒ) 118.5 ミリ

宮崎県美郷町神門(ミナト) 112.5 ミリ 鹿児島県和泊町沖永良部(チノエラブ) 105.0 ミリ

8月6日 沖縄県久米島町久米島(クミジマ) 269 ミリ 沖縄県多良間村仲筋(ナカヅメ) 158.0 ミリ

東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ) 137.5 ミリ 青森県平川市碓ヶ関(イカリガセキ) 127.0 ミリ

秋田県仙北市鐙畑(ヨコハタ) 122.0 ミリ

8月7日 沖縄県宮古島市城辺(クスカベ) 67.0 ミリ

8月8日 大分県日田市日田(ヒタ) 127.5 ミリ

[主な最大風速]

8月3日 沖縄県与那国町与那国島(ヨナグニジマ) 16.3 メートル 南 [04:01]

8月4日 鹿児島県奄美市笠利(カサリ) 17.1 メートル 北東 [22:01]

8月5日 沖縄県那覇市安次嶺(アジネ) 19.0 メートル 南南西 [23:49]

鹿児島県与論町与論島(ヨロジマ) 17.9 メートル 南南東 [23:42]

沖縄県北大東村北大東(キタイトウ) 16.3 メートル 南 [05:54]

8月6日 沖縄県久米島町北原(キハラ) 25.3 メートル 南 [11:08]

新潟県西蒲区巻(マキ) 24.7 メートル 北北西 [11:48]

沖縄県宮古島市下地(シジ) 21.2 メートル 西南西 [12:35]

8月7日 沖縄県久米島町北原(キハラ) 19.9 メートル 南南東 [00:38]

沖縄県宮古島市下地(シジ) 17.7 メートル 南西 [00:26]

8月8日 沖縄県石垣市石垣島(イガキジマ) 12.8 メートル 南 [05:09]

沖縄県久米島町北原(キハラ) 12.7 メートル 南南東 [00:37]

沖縄県宮古島市下地(シジ) 12.1 メートル 南 [09:16]

(13) 8月10日：北日本（大雨、暴風）＜台風第12号＞

8月6日21時にウェーク島の北西の海上で発生した台風第12号は、北西に進み、ゆっくり発達して、9日15時に日本の東海上で勢力が最大となった。台風第12号は、10日15時に北海道の東海上で温帯低気圧に変わった。

[主な日降水量]

8月10日	北海道浦幌町浦幌(ウホ)	98.0	ミリ	北海道釧路市二俣(フタタ)	72.0	ミリ
	北海道深川市深川(フカガ)	70.0	ミリ			

[主な最大風速]

8月10日	北海道えりも町えりも岬(エリミサ)	14.8	メートル	北東	[00:01]
	北海道釧路市釧路(クロ)	11.1	メートル	南西	[19:55]

(14) 8月13日～14日：西日本（大雨）＜停滞前線＞

8月13日から14日にかけて、朝鮮半島から日本海中部へのびる前線がゆっくりと南下し、本州付近に達した。前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、近畿中部を中心に大雨となり、局地的に猛烈な雨が降った。

13日0時から14日24時まで観測された最大1時間降水量が、大阪府枚方市枚方(ヒラカタ)では91.0ミリ、京都府京田辺市京田辺(キョウタナベ)では78.0ミリとなり、それぞれ観測史上1位の値を更新した。これらを含め、統計期間が10年以上の観測地点のうち、最大1時間降水量で計3地点、最大3時間降水量で計2地点が観測史上1位の値を更新した。また、解析雨量によると、大阪府高槻市で1時間に約110ミリの猛烈な雨を解析し、京都府宇治市では3時間に約190ミリの雨を解析した。

この大雨により、河川の増水や住宅の浸水が発生し、大阪府と京都府で死者2名、京都府で行方不明者1名となったほか、がけ崩れ、交通障害などが発生した。(被害状況は、平成24年8月17日19時30分現在の内閣府の情報による)

[主な日降水量]

8月13日	京都府長岡京市長岡京(カ`カキョウ)	94.0	ミリ	大阪府茨木市茨木(イバラキ)	63.0	ミリ
8月14日	京都府京田辺市京田辺(キョウタナベ)	143.5	ミリ	大阪府枚方市枚方(ヒラカタ)	125.0	ミリ

(15) 8月24日～30日：沖縄・奄美から西日本（大雨、暴風、高波）＜台風第14号、台風第15号＞

8月19日15時にルソン島の東海上で発生した台風第14号は、北に進み、20日21時に同海上で勢力が最大となった。台風第14号は、次第に西に向きを変え、23日09時に先島諸島の南海上で再び勢力が最大となった。台風第14号は、台湾の南部を通過した後、反時計回りに円を描くように進み、28日21時に先島諸島の北海上に達した。台風第14号は、その後、北北東へ進み、朝鮮半島に上陸した後、30日21時に温帯低気圧に変わった。

20日15時にマリアナ諸島の西海上で発生した台風第15号は、西北西に進み、25日21時に南大東島の南海上で、勢力が最大となった。台風第15号は、26日21時頃に沖縄本島を通過した後、東シナ海と黄海を北北西に進みながら、ゆっくりと勢力を弱め、28日遅くに朝鮮半島北部に上陸した。その後、北東に進み、29日15時に中国東北区で温帯低気圧に変わった。

これらの台風の影響で、神奈川県や和歌山県などで死者・行方不明者が10名となったほか、住家被害や土砂災害、交通障害、電力障害が発生した。(被害の状況は気象庁調べ)

[主な日降水量]

8月25日	沖縄県南大東村南大東(ミミダイトウ)	88.0	ミリ		
8月26日	鹿児島県和泊町沖永良部(サキエラブ)	210.5	ミリ	沖縄県東村東(ヒカシ)	180.0
	沖縄県南大東村南大東(ミミダイトウ)	179.0	ミリ	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	139.0
8月27日	鹿児島県伊仙町伊仙(イセン)	414.5	ミリ	沖縄県国頭村奥(オク)	400.0
	宮崎県美郷町神門(ミト)	322.5	ミリ	熊本県湯前町湯前横谷(ユノアエヨコタニ)	194.5
	高知県仁淀川町鳥形山(トリカクヤマ)	157.0	ミリ	大分県佐伯市宇目(ウメ)	104.5
8月28日	高知県仁淀川町鳥形山(トリカクヤマ)	226.0	ミリ	徳島県那賀町木頭(キトウ)	185.0
	宮崎県日南市深瀬(フカセ)	169.0	ミリ	愛媛県西条市成就社(ジヨウジユシヤ)	127.5
	大分県佐伯市宇目(ウメ)	106.0	ミリ		
8月29日	大分県佐伯市宇目(ウメ)	127.5	ミリ	高知県香美市繁藤(シゲトウ)	123.0
8月30日	石川県羽咋市羽咋(ウヰ)	58.5	ミリ	福井県福井市越廼(コソノ)	51.0

[主な最大風速]

8月24日	沖縄県北大東村北大東(キタイトウ)	16.7	メートル	東北東	[23:05]
8月25日	沖縄県南大東村南大東(ミミダイトウ)	23.8	メートル	東北東	[20:29]
8月26日	鹿児島県和泊町沖永良部(サキエラブ)	30.5	メートル	東南東	[23:51]
	沖縄県うるま市宮城島(ミヤギジマ)	27.4	メートル	西南西	[21:03]
	沖縄県南大東村南大東(ミミダイトウ)	27.2	メートル	東	[02:28]
8月27日	鹿児島県和泊町沖永良部(サキエラブ)	29.4	メートル	南南東	[06:01]
	沖縄県伊是名村伊是名(イセンナ)	27.3	メートル	南東	[00:13]
8月28日	沖縄県竹富町西表島(イロモテジマ)	23.1	メートル	南	[18:07]
	長崎県新上五島町頭ヶ島(カシカシマ)	22.5	メートル	南南東	[05:14]
8月29日	沖縄県宮古島市下地(シモジ)	15.4	メートル	南	[01:00]
8月30日	北海道稚内市声間(コトイ)	17.6	メートル	南西	[07:44]
	北海道幌町焼尻(ヤキシ)	15.3	メートル	南西	[08:20]

(16) 9月14日～19日：沖縄・奄美から東日本（大雨、暴風、竜巻）＜台風第16号、前線＞

9月11日09時にカロリン諸島近海で発生した台風第16号は、北西へ進みながら、急速に発達し、進路を北へ変えた後、14日03時にフィリピンの東海上で勢力が最大となった。台風第16号はその後も北へ進み、16日07時半頃沖縄本島付近を通過し、さらに北へ進んで東シナ海へ進み、17日に朝鮮半島へ上陸した。台風第16号は朝鮮半島を越えて日本海を進み、18日09時に沿海州で温帯低気圧に変わった。この台風から変わった低気圧に伴う前線が北海道から日本海沿岸にのびた。

このため、南海上から暖かく湿った空気が流れ込んだため、東日本は大気の状態が非常に不安定となり、17日には三重県でF0の竜巻、18日には静岡県でF1の竜巻を観測した。

また、和歌山県や沖縄県で死者・行方不明者2名となったほか、住家被害や土砂災害、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

[主な日降水量]

9月14日	高知県室戸市佐喜浜(サキハマ)	411.5	ミリ	徳島県海陽町海陽(カイヨウ)	167.5
9月15日	高知県四万十町大正(タイヨウ)	141.5	ミリ	長崎県新上五島町有川(アリカ)	112.5
	沖縄県座間味村慶良間(ケラマ)	107.0	ミリ	宮崎県宮崎市宮崎(ミヤザキ)	105.5

	鹿児島県鹿屋市鹿屋(カハ)	101.0	ミリ			
9月16日	宮崎県日之影町日之影(ヒノカゲ)	284.5	ミリ	大分県佐伯市宇目(ウメ)	237.0	ミリ
	高知県いの町本川(ホノガリ)	203.5	ミリ	沖縄県国頭村国頭(クニガミ)	199.0	ミリ
	熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	198.0	ミリ	鹿児島県天城町天城(アマギ)	168.0	ミリ
	徳島県那賀町木頭(キトウ)	132.5	ミリ	北海道積丹町美国(ヒクニ)	108.5	ミリ
	愛媛県西条市成就社(シヨウジユシヤ)	102.0	ミリ			
9月17日	高知県仁淀川町鳥形山(トリカクヤマ)	300.5	ミリ	三重県大台町宮川(ミヤガリ)	294.0	ミリ
	徳島県那賀町木頭(キトウ)	278.5	ミリ	愛媛県西条市成就社(シヨウジユシヤ)	266.5	ミリ
	奈良県上北山村上北山(カキキヤマ)	134.0	ミリ	岐阜県関ケ原町関ケ原(セキガハラ)	115.5	ミリ
9月18日	岐阜県関ケ原町関ケ原(セキガハラ)	265.0	ミリ	三重県大台町宮川(ミヤガリ)	253.0	ミリ
	奈良県上北山村上北山(カキキヤマ)	230.5	ミリ	和歌山県田辺市本宮(ホノミヤ)	191.5	ミリ
	滋賀県米原市米原(マイハラ)	188.0	ミリ	静岡県藤枝市高根山(タカネサン)	110.5	ミリ
	鳥取県岩美町岩井(イワイ)	100.5	ミリ			
9月19日	静岡県富士宮市白糸(シライト)	138.0	ミリ	岐阜県下呂市萩原(ハギワラ)	111.5	ミリ
	北海道稚内市沼川(ヌマガリ)	106.0	ミリ			

[主な最大風速]

9月15日	沖縄県うるま市宮城島(ミヤギジマ)	22.5	メートル	東北東	[21:48]
9月16日	鹿児島県与論町与論島(ヨロジマ)	42.1	メートル	東南東	[08:20]
	沖縄県うるま市宮城島(ミヤギジマ)	40.5	メートル	北北東	[05:15]
9月17日	長崎県長崎市野母崎(ノボキ)	31.8	メートル	南東	[04:53]
	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	25.5	メートル	南	[08:03]
	高知県室戸市室戸岬(ムトミサキ)	24.8	メートル	南	[16:26]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	21.7	メートル	南	[19:55]
	鹿児島県枕崎市枕崎(マクラサキ)	21.1	メートル	南東	[00:40]
	山口県宇部市宇部(ウベ)	20.3	メートル	東南東	[01:59]
9月18日	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	17.0	メートル	南	[02:54]
	北海道稚内市宗谷岬(ソウヤミサキ)	16.9	メートル	東北東	[00:31]

(17) 9月28日～10月1日：沖縄・奄美から東日本（大雨、暴風、高波）＜台風第17号、台風第18号＞

9月21日03時にフィリピンの東海上で発生した台風第17号は、25日03時に同海上で勢力が最大となった。台風第17号は28日09時に石垣島の南海上で進路を北東へ変え、速度を速めながら進み、30日15時頃に和歌山県潮岬付近を通過し、17時半頃三重県志摩半島付近を通過、そして19時頃に愛知県東部に上陸した。上陸後は、台風第17号は勢力を急速に弱め、10月1日21時に千島列島の東海上で温帯低気圧に変わった。

24日21時に沖ノ島島の東海上で発生した台風第18号は進路を北東へ変え、26日15時に父島の南西海上で勢力が最大となった後、北へ進み、28日早くまで八丈島の南東海上にほとんど停滞した。その後、台風第18号は再び北東へ進み、30日09時に北海道の東海上で温帯低気圧に変わった。

これらの台風により、三重県で死者1名となったほか、住家被害や土砂災害、交通障害、電力障害が発生した。
(被害の状況は気象庁調べ)

[主な日降水量]

9月28日	沖縄県多良間村仲筋(カスジ)	471.0	ミリ	沖縄県石垣市川平(カハラ)	371.5	ミリ
9月29日	鹿児島県瀬戸内町古仁屋(コニヤ)	393.0	ミリ	沖縄県久米島町久米島(クジマ)	336.0	ミリ
	沖縄県多良間村仲筋(カスジ)	105.0	ミリ	宮崎県宮崎市青島(アオマ)	104.0	ミリ
9月30日	和歌山県田辺市本宮(ホノグウ)	273.0	ミリ	三重県大台町宮川(ミヤカリ)	267.5	ミリ
	奈良県上北山村上北山(カキタヤマ)	257.0	ミリ	岐阜県大垣市上石津(カミツツ)	187.5	ミリ
	静岡県葵区井川(イカリ)	183.0	ミリ	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	172.5	ミリ
	愛知県蟹江町蟹江(カニエ)	163.0	ミリ	滋賀県甲賀市土山(ツチヤマ)	162.5	ミリ
	山梨県山中湖村山中(ヤマナカ)	160.5	ミリ	栃木県日光市奥日光(オクニッコウ)	158.0	ミリ
	徳島県阿南市蒲生田(カモウダ)	154.0	ミリ	香川県東かがわ市引田(ヒキタ)	151.0	ミリ
	新潟県糸魚川市能生(ノウ)	126.5	ミリ	福井県おおい町大飯(オオイ)	123.5	ミリ
	兵庫県南あわじ市南淡(ナグタン)	117.0	ミリ	神奈川県緑区相模湖(サマコ)	114.5	ミリ
	大阪府河内市長野市河内長野(カワチガノ)	114.0	ミリ	群馬県高崎市榛名山(ハルサン)	109.5	ミリ
	長野県上田市鹿教湯(カキユ)	106.0	ミリ	富山県南砺市南砺高宮(ナトタカミヤ)	102.0	ミリ
10月1日	岩手県普代村普代(フダイ)	127.0	ミリ	北海道釧路町知方学(チホフマシ)	114.5	ミリ
	北海道様似町幌満(ホマン)	102.0	ミリ			

[主な最大風速]

9月28日	沖縄県多良間村仲筋(カスジ)	38.8	メートル	北北西	[23:43]
	沖縄県石垣市石垣島(イガキシマ)	32.8	メートル	北北西	[21:45]
	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	21.3	メートル	北北東	[01:17]
9月29日	沖縄県久米島町北原(キハラ)	43.6	メートル	北北西	[09:47]
	鹿児島県天城町天城(アマギ)	41.9	メートル	北北西	[18:11]
	沖縄県宮古島市下地(シモジ)	38.9	メートル	北北西	[02:31]
	沖縄県石垣市石垣島(イガキシマ)	24.6	メートル	北北西	[00:05]
9月30日	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	25.3	メートル	北北西	[19:01]
	東京都三宅村三宅坪田(ミヤケホウダ)	25.1	メートル	南	[17:36]
	静岡県御前崎市御前崎(オマエサキ)	23.4	メートル	南	[19:08]
	鹿児島県喜界町喜界島(キカイジマ)	23.1	メートル	北北西	[00:11]
	兵庫県中央区神戸(コウベ)	22.9	メートル	北	[14:36]
	和歌山県串本町潮岬(シオミサキ)	21.3	メートル	西北西	[16:20]
	神奈川県藤沢市辻堂(ツヅタ)	20.3	メートル	南南西	[21:22]
10月1日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	25.9	メートル	北北東	[08:01]
	北海道釧路市釧路(クシロ)	22.9	メートル	北東	[10:00]
	東京都江戸川区江戸川臨海(エドガワリソカイ)	20.9	メートル	南南西	[00:10]

(18) 10月3日～10月4日：東日本(大雨、暴風) <台風第19号>

10月1日15時にマリアナ諸島周辺で発生した台風第19号は、北西に進んだ後、3日09時に硫黄島の近くで勢力が最大となった後、北北東へ進行方向を変えた。その後も、台風第19号は、勢力を保ちながら北東へ進み、4日15時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。

[主な日降水量]

10月3日	東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ)	283.0	ミリ		
10月4日	岩手県久慈市下戸鎖(シモトクリ)	74.0	ミリ	福井県おおい町大飯(材)	72.5
	千葉県勝浦市勝浦(カツウラ)	72.0	ミリ		

[主な最大風速]

10月3日	東京都八丈町八重見ヶ原(ヤエミガハラ)	21.0	メートル	東北東	[22:48]
10月4日	千葉県銚子市銚子(チウシ)	20.7	メートル	北	[09:18]
	宮城県女川町江ノ島(エノシマ)	20.1	メートル	北北東	[09:06]
	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	20.0	メートル	北東	[12:03]

(19) 10月5日：秋田県（竜巻）＜気圧の谷、上空の寒気＞

寒気を伴った気圧の谷が北日本を通過中で、大気の状態が不安定となっていた。秋田県では所々で雷雨となり、にかほ市金浦付近ではF0の竜巻が発生した。

(20) 10月14日～10月18日：沖縄・奄美と伊豆諸島（大雨、暴風）＜台風第21号＞

10月7日21時にフィリピンの東海上で発生した台風第21号は、西へ進み、11日21時に同海上で勢力が最大となった後、北東に進路を変え、15日に南大東島の南海上に達すると、南西に進路を急に変えた。台風第21号が沖縄の南海上に達すると、16日に北に向きを変え、17日にはさらに北東に向きを変えた。その後、速度を速めて北東へ進み、19日21時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。

この台風の影響により、静岡県で死者1名となったほか、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

[主な日降水量]

10月15日	沖縄県南大東村旧東(キョウトウ)	119.0	ミリ		
10月16日	東京都小笠原村父島(チジマ)	93.5	ミリ		
10月17日	宮崎県日向市日向(ヒュウカ)	298.0	ミリ	大分県佐伯市蒲江(カマエ)	215.0
	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	144.5	ミリ	高知県南国市南国日章(ナノクニシヨウ)	144.0
	徳島県海陽町海陽(カイヨウ)	137.0	ミリ	鹿児島県喜界町喜界島(キカイジマ)	128.0
	沖縄県国頭村国頭(クニガミ)	126.5	ミリ	兵庫県南あわじ市南淡(ナダシ)	106.5
10月18日	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	142.5	ミリ	鹿児島県喜界町喜界島(キカイジマ)	123.0

[主な最大風速]

10月14日	沖縄県北大東村北大東(キタダイトウ)	15.5	メートル	北東	[23:23]
10月15日	沖縄県北大東村北大東(キタダイトウ)	19.0	メートル	北東	[05:47]
	北海道稚内市宗谷岬(ソウヤサキ)	18.0	メートル	西	[21:25]
	鹿児島県和泊町沖永良部(サキノエラブ)	16.7	メートル	北東	[20:33]
	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	16.5	メートル	西	[19:47]
	北海道増毛町増毛(マシケ)	15.4	メートル	西南西	[19:26]
	沖縄県宮古島市下地(シメジ)	15.2	メートル	北	[14:10]
10月16日	鹿児島県和泊町沖永良部(サキノエラブ)	15.2	メートル	北東	[00:24]

	沖縄県宮古島市下地(シヅ)	15.2	メートル	北	[19:39]
10月17日	沖縄県那覇市安次嶺(アツネ)	23.4	メートル	北	[22:15]
	鹿児島県和泊町沖永良部(オホエラブ)	22.7	メートル	北	[23:35]
	沖縄県宮古島市下地(シヅ)	22.1	メートル	北	[17:23]
	沖縄県北大東村北大東(キタダイトウ)	20.9	メートル	南東	[23:00]
10月18日	沖縄県那覇市安次嶺(アツネ)	22.6	メートル	北北西	[00:15]
	鹿児島県和泊町沖永良部(オホエラブ)	22.1	メートル	北北西	[03:20]
	沖縄県南大東村南大東(ミナダイトウ)	20.3	メートル	南南東	[01:51]
	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	20.1	メートル	北北東	[23:45]

(21) 10月15日～10月17日：伊豆諸島（大雨、暴風）＜台風第22号＞

10月14日15時に北マリアナ諸島の西海上で発生した台風第22号は、北西へ進み、15日09時に同海上で勢力が最大となった。台風第22号は、その後北へ進み、さらに東北東へ進路を変えた後、19日09時に日本のはるか東海上で熱帯低気圧に変わった。

[主な日降水量]

10月16日	東京都小笠原村父島(チジマ)	93.5	ミリ
10月18日	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	142.5	ミリ

[主な最大風速]

10月17日	東京都大島町大島北ノ山(オシマキリヤマ)	16.7	メートル	南南西	[23:07]
10月18日	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	20.1	メートル	北北東	[23:45]

(22) 10月25日：北海道（突風）＜低気圧＞

10月25日は、低気圧が沿海州から北海道へ進んだ影響で、北海道で突風が発生した。この突風により、北海道で住家被害が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(23) 11月13日：熊本県（突風）＜低気圧、寒気の移流＞

11月13日は、九州付近は強い寒気を伴った気圧の谷が通過中で、大気の状態が非常に不安定となり、発達した積乱雲が発生し13日昼前から昼過ぎにかけて熊本県を通過した。このため、熊本県で突風が発生した。この突風により、熊本県で負傷者1名が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(24) 11月27日：北海道（暴風、その他）＜低気圧、寒気の移流＞

11月27日は、日本海北部の低気圧が北海道を通過して千島近海に達した。低気圧通過後には、湿った雪を伴って非常に強い西よりの風が吹いた。このため、北海道では登別市にある送電線の鉄塔が倒壊し、胆振・日高地方を中心に約5万6千戸が停電となった。（被害の状況は気象庁調べ）

[主な最大風速]

11月27日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	32.9	メートル	西	[09:49]
	北海道室蘭市室蘭(ムロラン)	29.9	メートル	西	[06:44]
	北海道浦河町浦河(ウカリ)	29.0	メートル	西	[08:52]

北海道奥尻町米岡(ヨネカ)	28.0	メートル	西北西	[03:14]
北海道奥尻町奥尻(オクリ)	26.5	メートル	西	[03:34]
北海道せたな町せたな(セタ)	22.6	メートル	西	[04:18]
北海道江差町江差(エサ)	21.9	メートル	西北西	[05:22]

(25) 12月8日から10日：北陸から東北地方（大雪）＜冬型＞

日本海中部の低気圧が釧路沖へ進んだ後、冬型の気圧配置となり、山陰から東北地方にかけての日本海側、および北海道で雪や雨が降り、北陸から東北地方にかけての一部で大雪となった。

この大雪の影響で、長野県と岩手県で死者3名となったほか、住家被害、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

[主な日降雪量]

12月8日	北海道本別町本別(ホベツ)	47	センチ	秋田県湯沢市湯の岱(ユタイ)	40	センチ
	北海道白糠町白糠(シラカ)	33	センチ	岩手県一関市祭時(マツルベ)	33	センチ
	北海道新篠津村新篠津(シシヅ)	32	センチ	宮城県栗原市駒ノ湯(コマネ)	32	センチ
	岐阜県郡上市長滝(カガタ)	32	センチ	福井県大野市九頭竜(クスリユ)	32	センチ
12月9日	北海道西興部村西興部(ニシキョウベ)	88	センチ	福島県只見町只見(タガミ)	80	センチ
	北海道上川町上川(カミカ)	78	センチ	新潟県魚沼市入広瀬(イヒロセ)	72	センチ
	北海道枝幸町歌登(ウタノボリ)	68	センチ	岐阜県郡上市長滝(カガタ)	62	センチ
	山形県大蔵村肘折(ヒジマ)	56	センチ	群馬県みなかみ町藤原(フジワラ)	54	センチ
	福井県大野市九頭竜(クスリユ)	51	センチ	北海道羽幌町羽幌(ハボロ)	50	センチ
12月10日	福島県檜枝岐村桧枝岐(ヒノエマタ)	68	センチ	群馬県みなかみ町藤原(フジワラ)	58	センチ

■平成24年に発生した主な竜巻等の突風

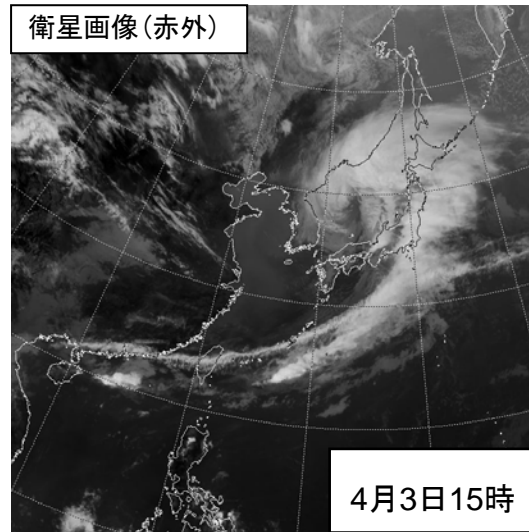
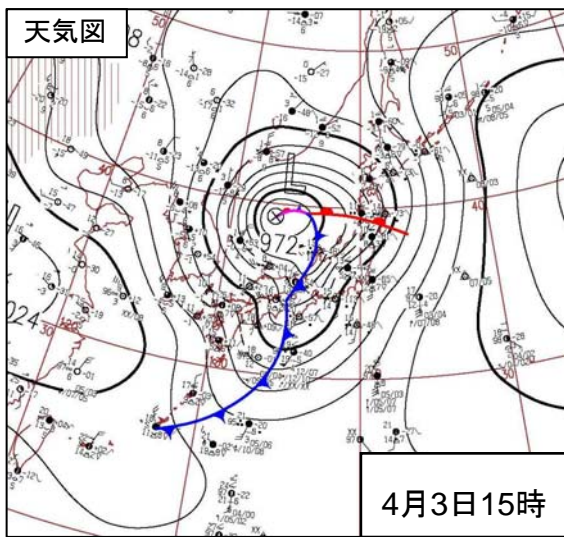
発生日時	現象区別	発生場所	主な被害状況	藤田 スケール	気象状況
5月6日 12時30分頃	竜巻	茨城県 筑西市	負傷者3名、住家半壊1棟	F1	気圧の谷、 寒気の移流
5月6日 12時35分頃	竜巻	茨城県 常総市	死者1名、負傷者37名、 住家全壊76棟、住家半壊1 58棟	F3	気圧の谷、 寒気の移流
5月6日 12時40分頃	竜巻	栃木県 真岡市	負傷者12名、住家全壊13 棟、住家半壊35棟	F1～F2	気圧の谷、 寒気の移流
7月5日 17時頃	竜巻	青森県 弘前市	負傷者1名、住家半壊5棟	F1	寒気の移流
7月17日 16時30分頃	ダウンバースト	栃木県 栃木市	負傷者1名	F0	暖気の移流
8月6日 11時30分頃	ガストフロント	新潟県 新潟市	負傷者5名、住家半壊1棟	F1	気圧の谷、 寒気の移流
8月6日 15時30分頃	ガストフロント	愛知県 春日井市	負傷者2名	F0	気圧の谷、 寒気の移流
9月17日 14時過ぎ	竜巻	三重県 鈴鹿市	負傷者1名	F1	暖気の移流
9月18日 19時頃	竜巻	静岡県 磐田市	負傷者1名	F1	暖気の移流
10月5日 8時15分頃	竜巻	秋田県 にかほ市	負傷者1名	F0	気圧の谷、 寒気の移流
10月25日 18時10分頃	その他 (不明を含む)	北海道 二海郡八雲町	住家半壊2棟	F0	日本海低気圧、 寒気の移流
11月23日 12時20分頃	その他 (不明を含む)	熊本県 上益城郡益城町	負傷者1名	F0	寒気の移流

※被害(死者、負傷者、住家全壊、住家半壊)が発生したもの

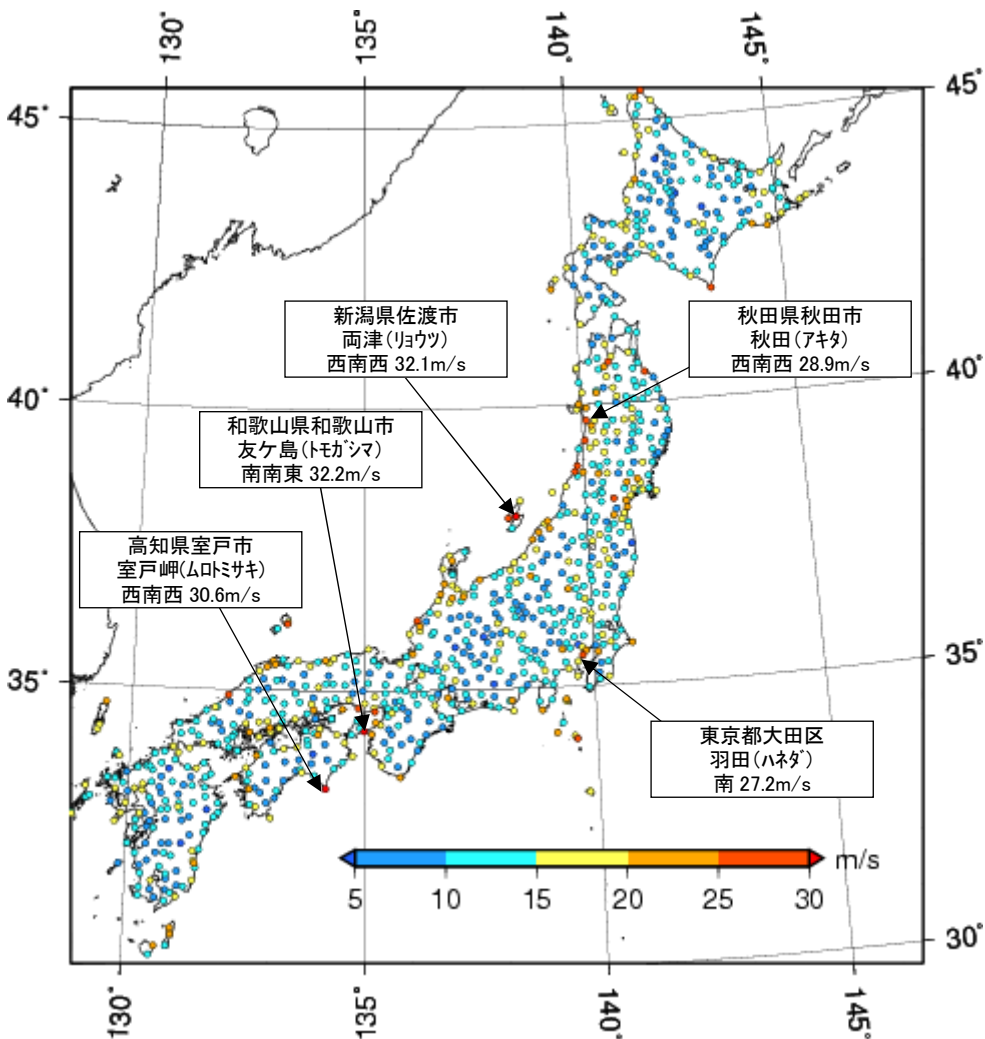
詳しくは、気象庁ホームページに「竜巻等の突風データベース」を掲載していますのでご参照ください。
(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/index.html>)

災害番号（2）

天気図等

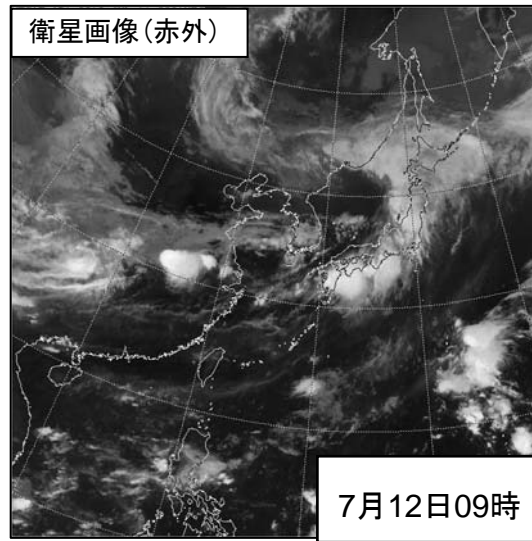
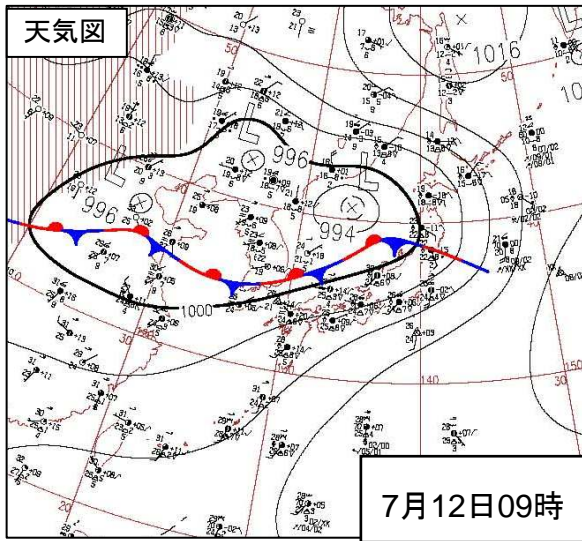


期間最大風速の状況 [期間：4月3日～4月5日9時]

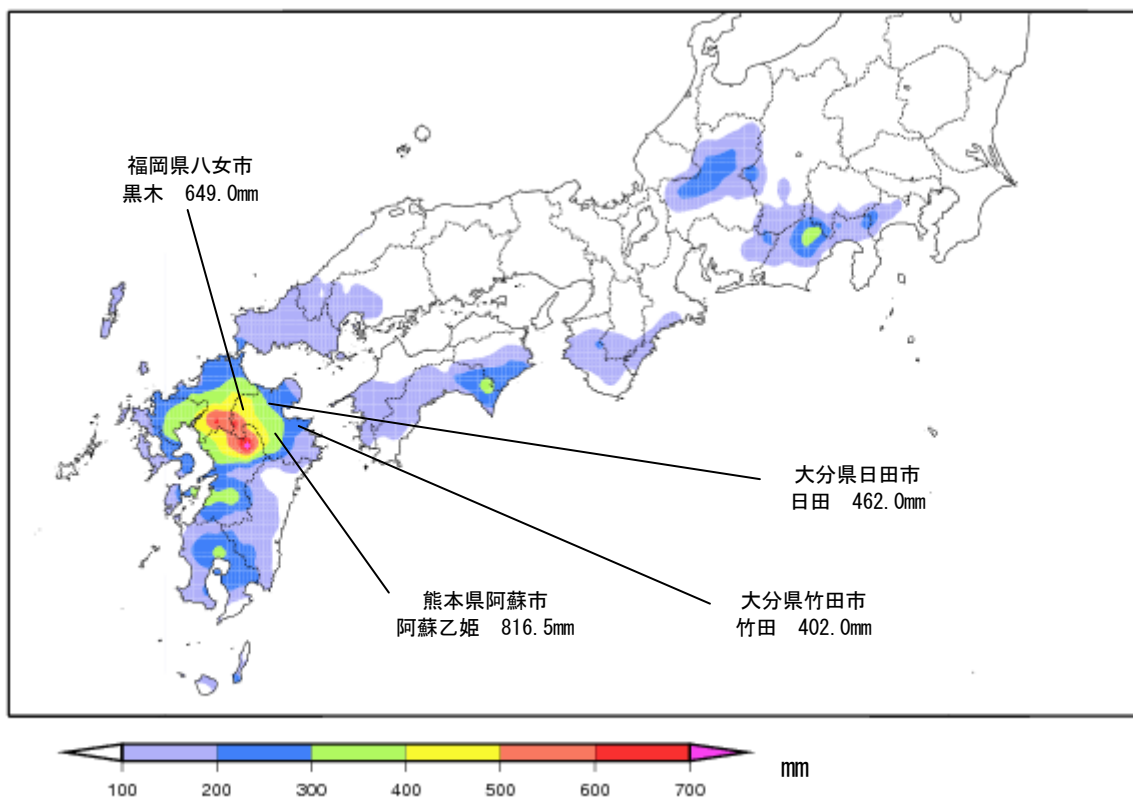


災害番号 (9)

天気図等

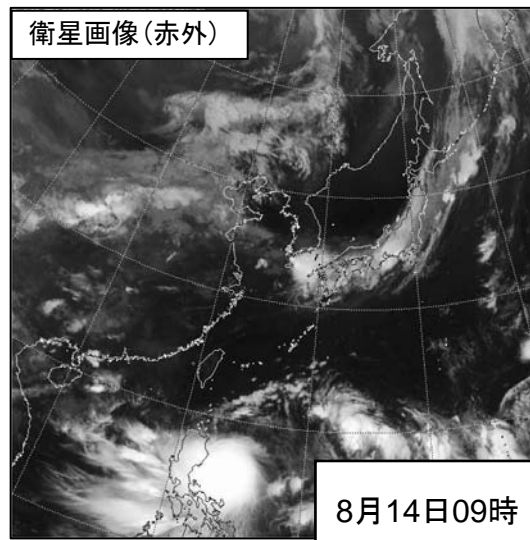
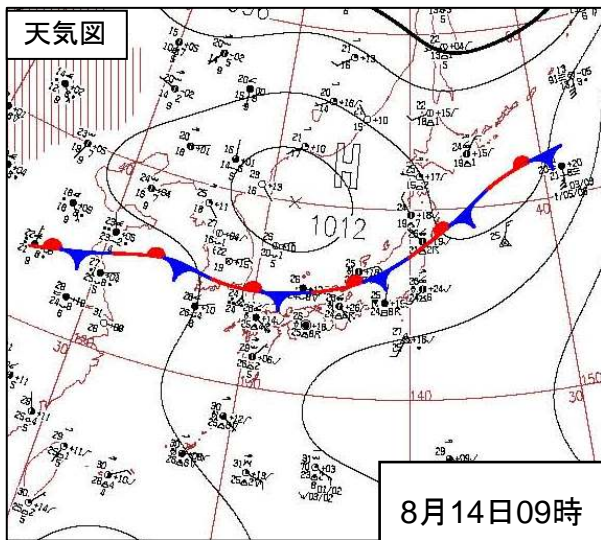


総降水量分布図 [期間：7月11日～7月14日]

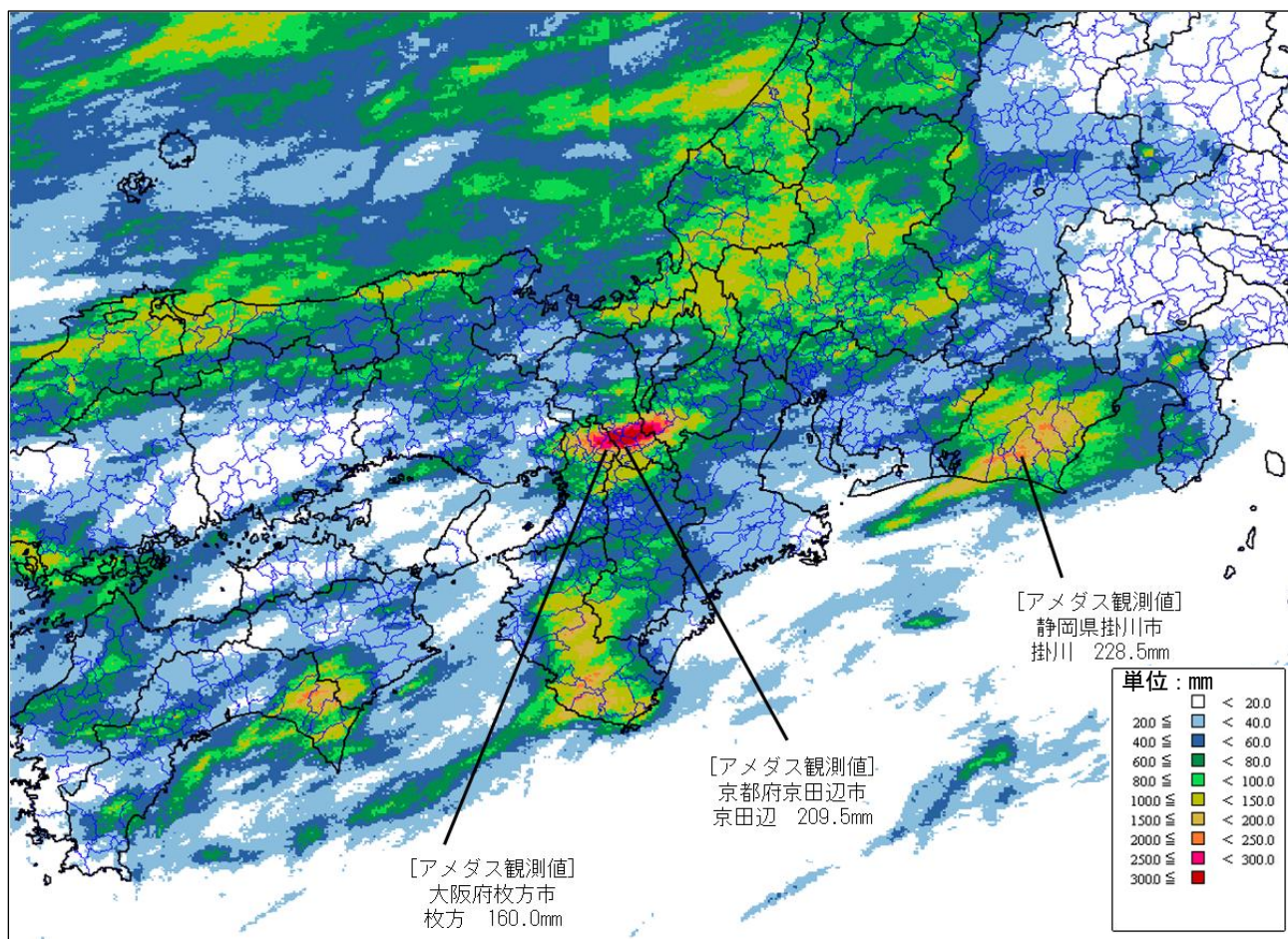


災害番号（14）

天気図等



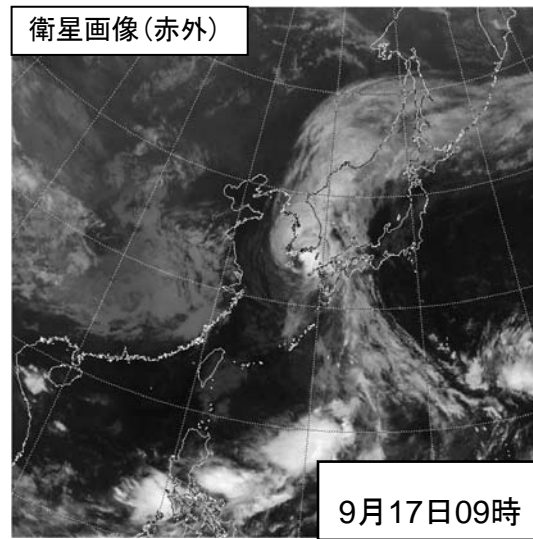
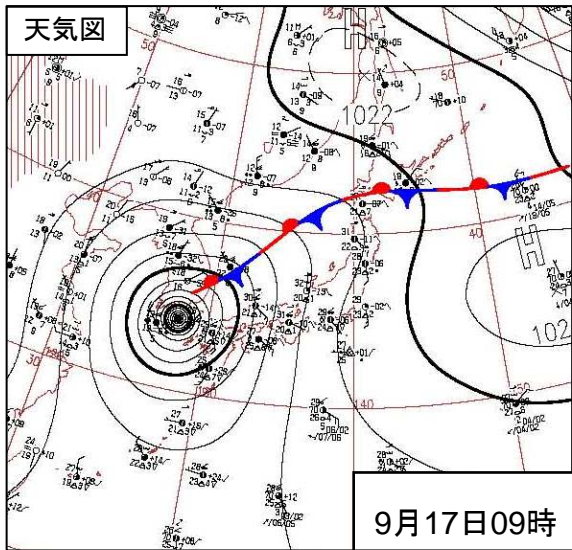
総降水量分布図（解析雨量による [期間：8月13日～8月14日]



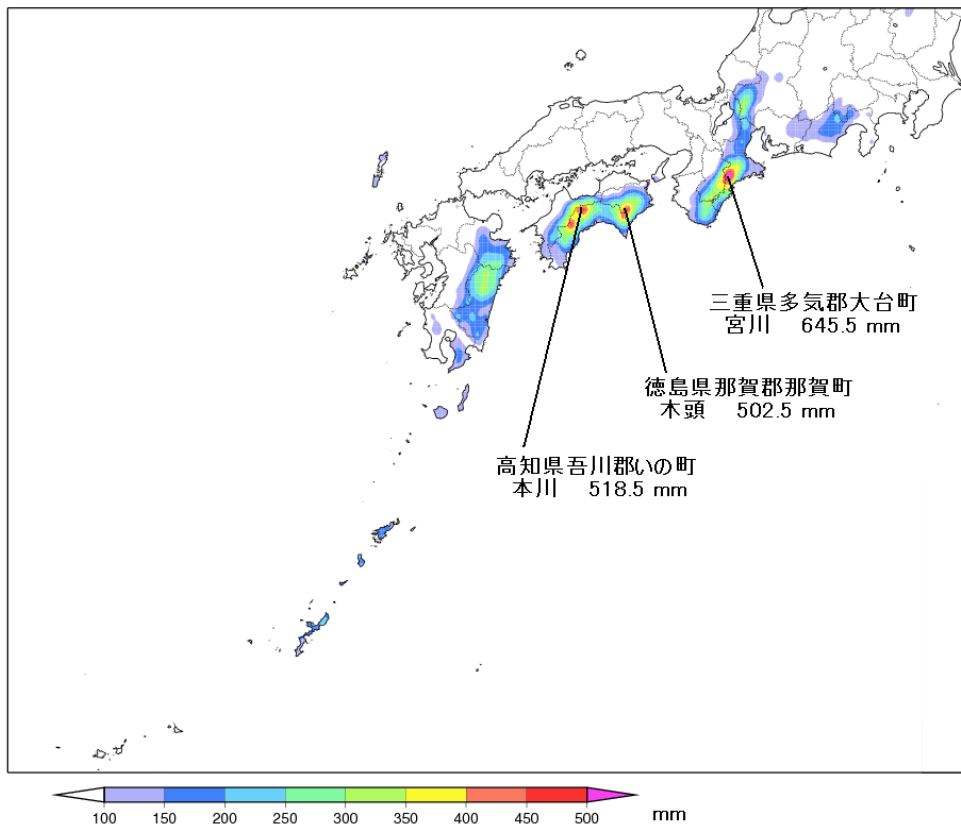
※解析雨量とは、気象レーダーと、アメダス等の雨量計を組み合わせ、雨量分布を1km四方の細かさで解析したもの。

災害番号 (16)

天気図等



総降水量分布図 [期間：9月15日～9月19日]



資料 1-2-1 平成 24 年（2012 年）激甚災害指定状況一覧表（地すべり、地震、火山を除く）

■激甚災害(本激：地域を特定せず、災害そのものを指定)

<内閣府作成資料等から引用>

期間	災害原因	気象要因
6/8～7/23	豪雨、暴風雨	梅雨前線、台風第 4 号

※本激は農地等

■局地激甚災害(局激：市町村単位で災害を指定)

期間	災害原因	気象要因	対象地区	
			都道府県	市町村
平成 23 年 12/15 平成 24 年 ～ 3/31	低温	冬型	青森県	三戸町
			岩手県	八幡平市、葛巻町、岩泉町、一戸町
			宮城県	蔵王町、七ヶ宿町、丸森町
			山形県	金山町、真室川町、大蔵村、鮭川村
			福島県	会津美里町
8/13～8/14	豪雨	前線	京都府	宇治市、宇治田原町
			奈良県	生駒市
8/24～8/29	暴風雨	台風第15号	鹿児島県	大和村、宇検村、奄美市、瀬戸内町、徳之島町
			沖縄県	国頭村、大宜味村、伊平屋村
			高知県	仁淀川町
9/14～9/19	暴風雨、豪雨	台風第16号	岐阜県	大垣市、揖斐川町
			高知県	室戸市、仁淀川町、檜原町
9/28～10/1	暴風雨	台風第17号	鹿児島県	大和村、和泊町、宇検村、瀬戸内町、奄美市
			山梨県	身延町
			奈良県	山添村、野迫川村
			和歌山県	白浜町

※本激は農地等、局激は公共土木、中小企業

(注)激甚災害および局地激甚災害は「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき指定された政令により公布される。

(参考) 激甚災害について

<内閣府HP、激甚災害制度の手引き(災害対策制度研究会/編著)から引用>

1 激甚災害制度の概要

激甚災害制度は、「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき、国民経済に著しい影響を及ぼす災害に対して、「地方財政の負担の緩和」、「被災者に対する特別の助成」を行うことが特に必要であると認められる場合に、その災害を激甚災害として政令で指定し、あわせてその災害に対して適用すべき特例措置を指定するものです。

その結果、一般の災害復旧事業補助・災害復旧貸付等の支援措置に加えて、激甚災害法に基づき、公共土木施設、公立学校、公営住宅、農地等の災害復旧事業等の財政援助等の様々な特例措置が適用されることとなります。

激甚災害法により、激甚災害を指定する政令の制定にあたっては、あらかじめ中央防災会議の意見を聴くこととされており、中央防災会議では、その指定基準として、現在、激甚災害指定基準(本激)と局地激甚災害指定基準(局激)の2つを決定しています。

2 本激と局激の違い局地激甚災害について

激甚災害指定基準(本激)では、全国を単位として積み上げられた被害額を基準としているため、激甚災害制度の創設(昭和37年)当初は、ある特定地域に激甚な被害を及ぼした災害であっても、全国レベルで見ればさほどの被害とはならず、指定基準を越えられない(激甚災害として指定されない)という状況が生じていました。

そこで、市町村単位の被害額を基準とする局地激甚災害指定基準を昭和43年に創設し、限られた地域内で多大な被害を被った地域に対して各種の特例措置が適用されることとしました。

激甚災害指定基準による指定、いわゆる「本激」が地域を特定せず、災害そのものを指定するのに対し、局地激甚災害指定基準による指定、いわゆる「局激」は市町村単位で災害を指定します。ただし、激甚災害に指定されても、被害を受けた地方公共団体等のすべてが特例措置を受けられるわけではなく、被害の大きさが一定規模以上の地方公共団体等に限って特例措置が適用されます。

(参考) 激甚災害について

<内閣府HP、激甚災害制度の手引き(災害対策制度研究会/編著)から引用>

1 激甚災害制度の概要

激甚災害制度は、「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき、国民経済に著しい影響を及ぼす災害に対して、「地方財政の負担の緩和」、「被災者に対する特別の助成」を行うことが特に必要であると認められる場合に、その災害を激甚災害として政令で指定し、あわせてその災害に対して適用すべき特例措置を指定するものです。

その結果、一般の災害復旧事業補助・災害復旧貸付等の支援措置に加えて、激甚災害法に基づき、公共土木施設、公立学校、公営住宅、農地等の災害復旧事業等の財政援助等の様々な特例措置が適用されることとなります。

激甚災害法により、激甚災害を指定する政令の制定にあたっては、あらかじめ中央防災会議の意見を聴くこととされており、中央防災会議では、その指定基準として、現在、激甚災害指定基準(本激)と局地激甚災害指定基準(局激)の2つを決定しています。

2 本激と局激の違い局地激甚災害について

激甚災害指定基準(本激)では、全国を単位として積み上げられた被害額を基準としているため、激甚災害制度の創設(昭和37年)当初は、ある特定地域に激甚な被害を及ぼした災害であっても、全国レベルで見ればさほどの被害とはならず、指定基準を越えられない(激甚災害として指定されない)という状況が生じていました。

そこで、市町村単位の被害額を基準とする局地激甚災害指定基準を昭和43年に創設し、限られた地域内で多大な被害を被った地域に対して各種の特例措置が適用されることとしました。

激甚災害指定基準による指定、いわゆる「本激」が地域を特定せず、災害そのものを指定するのに対し、局地激甚災害指定基準による指定、いわゆる「局激」は市町村単位で災害を指定します。ただし、激甚災害に指定されても、被害を受けた地方公共団体等のすべてが特例措置を受けられるわけではなく、被害の大きさが一定規模以上の地方公共団体等に限って特例措置が適用されます。

2 平成 24 年(2012 年)台風の概要

2-1 平成 24 年(2012 年)に発生した台風

台風の発生数は 25 個(平年値 25.6 個)で平年並でしたが、日本への接近数は 1951 年以降で 4 番目に多い 17 個でした(表 2.1)。接近した台風のうち第 15 号、第 16 号、第 17 号は、3 個連続して非常に強い勢力を保ったまま沖縄本島周辺を通過しました。

表 2.1 平成 24 年(2012 年)の台風発生数、日本への上陸数^{*1}、日本への接近数^{*2}と平年値及び平成 23 年(2011 年)との比較

項目		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
平年値	発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6	
	接近数				0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4	
	上陸数					0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7	
平成 23 年 (2011 年)	発生数					2	3	4	3	7	1		1	21	
	上陸数							1		2				3	
	接近数					2	1	1	2	4				9	
平成 24 年 (2012 年)	発生数			1		1	4	4	5	3	5	1	1	25	
	上陸数						1			1				2	
	接近数					1	3	3	6	3	4			17	

(注)・平年値は、昭和 56 年(1981 年)～平成 22 年(2010 年)の 30 年平均。

- ・日本への接近は 2 か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸^{*1} 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

接近^{*2} 台風の中心が、日本から概ね 300km 以内に入った場合を「接近」という。

資料2-1-1 台風発生数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	1	1	2	1	1	3	3	2	4	1	2	21 (-)
52 27	0	0	0	0	0	3	3	5	3	6	3	4	27 (0)
53 28	0	1	0	0	1	2	1	6	3	5	3	1	23 (-)
54 29	0	0	1	0	1	0	1	5	5	4	3	1	21 (-)
55 30	1	1	1	1	0	2	7	6	4	3	1	1	28 (0)
56 31	0	0	1	2	0	1	2	5	6	1	4	1	23 (-)
57 32	2	0	0	1	1	1	1	4	5	4	3	0	22 (-)
58 33	1	0	0	1	1	4	7	5	5	3	2	2	31 (+)
59 34	0	1	1	1	0	0	2	5	5	4	2	2	23 (-)
60 35	0	0	0	1	1	3	3	10	3	4	1	1	27 (0)
1961 36	1	0	1	0	2	3	4	6	6	4	1	1	29 (+)
62 37	0	1	0	1	2	0	5	8	4	5	3	1	30 (+)
63 38	0	0	0	1	0	4	4	3	5	4	0	3	24 (0)
64 39	0	0	0	0	2	2	7	5	6	5	6	1	34 (+)
65 40	2	1	1	1	2	3	5	5	8	2	2	0	32 (+)
66 41	0	0	0	1	2	1	4	10	9	4	3	1	35 (+)
67 42	0	1	2	1	1	1	7	9	9	4	3	1	39 (+)
68 43	0	0	0	1	1	1	3	8	3	5	5	0	27 (0)
69 44	1	0	1	1	0	0	3	4	3	3	2	1	19 (-)
70 45	0	1	0	0	0	2	3	6	5	5	4	0	26 (0)
1971 46	1	0	1	3	4	2	8	5	6	4	2	0	36 (+)
72 47	1	0	0	0	1	3	6	5	5	5	3	2	31 (+)
73 48	0	0	0	0	0	0	7	5	2	4	3	0	21 (-)
74 49	1	0	1	1	1	4	4	5	5	4	4	2	32 (+)
75 50	1	0	0	0	0	0	2	4	5	5	3	1	21 (-)
76 51	1	1	0	2	2	2	4	4	5	1	1	2	25 (0)
77 52	0	0	1	0	0	1	3	3	5	5	1	2	21 (-)
78 53	1	0	0	1	0	3	4	8	5	4	4	0	30 (+)
79 54	1	0	1	1	2	0	4	2	6	3	2	2	24 (0)
80 55	0	0	0	1	4	1	4	2	6	4	1	1	24 (0)
1981 56	0	0	1	2	0	3	4	8	4	2	3	2	29 (+)
82 57	0	0	3	0	1	3	3	5	5	3	1	1	25 (0)
83 58	0	0	0	0	0	1	3	5	2	5	5	2	23 (-)
84 59	0	0	0	0	0	2	5	5	4	7	3	1	27 (0)
85 60	2	0	0	0	1	3	1	8	5	4	1	2	27 (0)
86 61	0	1	0	1	2	2	3	5	3	5	4	3	29 (+)
87 62	1	0	0	1	0	2	4	4	6	2	2	1	23 (-)
88 63	1	0	0	0	1	3	2	8	8	5	2	1	31 (+)
89 H. 1	1	0	0	1	2	2	7	5	6	4	3	1	32 (+)
90 2	1	0	0	1	1	3	4	6	4	4	4	1	29 (+)
1991 3	0	0	2	1	1	1	4	5	6	3	6	0	29 (+)
92 4	1	1	0	0	0	2	4	8	5	7	3	0	31 (+)
93 5	0	0	1	0	0	1	4	7	5	5	2	3	28 (0)
94 6	0	0	0	1	1	2	7	9	8	6	0	2	36 (+)
95 7	0	0	0	1	0	1	2	6	5	6	1	1	23 (-)
96 8	0	1	0	1	2	0	5	6	6	2	2	1	26 (0)
97 9	0	0	0	2	3	3	4	6	4	3	2	1	28 (0)
98 10	0	0	0	0	0	0	1	3	5	2	3	2	16 (-)
99 11	0	0	0	2	0	1	4	6	6	2	1	0	22 (-)
2000 12	0	0	0	0	2	0	5	6	5	2	2	1	23 (-)
01 13	0	0	0	0	1	2	5	6	5	3	1	3	26 (0)
02 14	1	1	0	0	1	3	5	6	4	2	2	1	26 (0)
03 15	1	0	0	1	2	2	2	5	3	3	2	0	21 (-)
04 16	0	0	0	1	2	5	2	8	3	3	3	2	29 (+)
05 17	1	0	1	1	1	0	5	5	5	2	2	0	23 (-)
06 18	0	0	0	0	1	1	3	7	3	4	2	2	23 (-)
07 19	0	0	0	1	1	0	3	4	5	6	4	0	24 (0)
08 20	0	0	0	1	4	1	2	4	4	2	3	1	22 (-)
09 21	0	0	0	0	2	2	2	5	7	3	1	0	22 (-)
2010 22	0	0	1	0	0	0	2	5	4	2	0	0	14 (-)
11 23	0	0	0	0	2	3	4	3	7	1	0	1	21 (-)
12 24	0	0	1	0	1	4	4	5	3	5	1	1	25 (0)
平年値 1981-2010	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6

台風の発生月：熱帯低気圧が台風(風速およそ17m/s以上)となった月とする。
合計の(-)は24個未満、(0)は24個以上29個未満、(+)は29個以上を示す。

資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
52 27	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
53 28	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
54 29	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	5
55 30	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	4
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
57 32	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
58 33	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
60 35	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
1961 36	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
62 37	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	5
63 38	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
64 39	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
65 40	0	0	0	0	1	0	0	2	2	0	0	0	5
66 41	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	5
67 42	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
68 43	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
70 45	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	4
72 47	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3
73 48	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
74 49	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
75 50	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
76 51	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
77 52	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
78 53	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
79 54	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
80 55	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
82 57	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	4
83 58	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
84 59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
85 60	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
86 61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
87 62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
88 63	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
89 H. 1	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	5
90 2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	6
1991 3	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
92 4	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
93 5	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	6
94 6	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
95 7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
96 8	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
97 9	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	4
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
99 11	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
2000 12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2001 13	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
02 14	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
03 15	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
04 16	0	0	0	0	0	2	1	3	2	2	0	0	10
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
06 18	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
08 20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
09 21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
11 23	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
12 24	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
平年値 1981-2010	-	-	-	-	0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0	-	2.7

台風の日本への上陸:台風の中心が北海道・本州・四国・九州の海岸線に達した場合をいう。
小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過とする。

資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	1	1	3	1	1	2	0	0	8
52 27	0	0	0	0	0	1	2	3	2	2	3	0	12
53 28	0	0	0	0	0	1	2	4	1	3	0	0	10
54 29	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	1	0	10
55 30	0	0	0	1	0	0	7	3	1	4	0	1	16
56 31	0	0	0	1	0	0	1	3	6	0	0	0	10
57 32	0	0	0	0	0	1	0	3	3	2	2	0	10
58 33	0	0	0	0	0	4	5	2	3	0	1	0	15
59 34	0	0	0	1	0	0	1	3	3	3	2	0	13
60 35	0	0	0	0	0	3	2	11	1	2	0	1	19
1961 36	0	0	0	0	1	2	2	4	4	3	0	0	15
62 37	0	0	0	0	1	0	4	6	2	1	1	0	14
63 38	0	0	0	0	0	3	2	2	2	3	0	0	12
64 39	0	0	0	0	0	0	3	3	1	1	0	0	8
65 40	0	0	0	0	1	3	1	4	4	1	1	0	15
66 41	0	0	0	0	2	2	1	7	8	1	0	0	19
67 42	0	0	0	1	0	0	3	4	3	2	1	0	13
68 43	0	0	0	0	0	1	2	2	4	1	0	0	10
69 44	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	2	0	8
70 45	0	0	0	0	0	0	2	4	3	0	0	0	9
1971 46	0	0	0	1	1	0	2	3	5	1	1	0	13
72 47	0	0	0	0	0	0	3	3	2	3	0	0	11
73 48	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4
74 49	0	0	0	0	0	1	3	4	3	0	0	0	10
75 50	0	0	0	0	0	0	1	4	1	2	2	0	9
76 51	0	0	0	1	2	2	5	2	1	0	2	0	13
77 52	0	0	0	0	0	0	1	4	2	0	0	0	6
78 53	0	0	0	0	0	2	3	6	3	1	1	0	14
79 54	0	0	0	0	1	0	0	2	2	3	0	0	7
80 55	0	0	0	0	1	0	0	2	3	2	1	0	9
1981 56	0	0	0	0	0	2	3	3	2	2	1	0	11
82 57	0	0	0	0	1	2	3	4	3	1	0	0	13
83 58	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	1	0	7
84 59	0	0	0	0	0	1	2	2	1	1	1	1	9
85 60	0	0	0	0	1	1	2	7	2	2	0	0	12
86 61	0	0	0	0	1	1	2	3	3	1	1	0	12
87 62	0	0	0	0	0	1	5	2	1	2	0	0	10
88 63	0	0	0	0	0	2	1	4	4	2	0	0	13
89 H. 1	0	0	0	0	0	1	3	4	3	1	0	0	11
90 2	0	0	0	0	1	1	1	5	3	1	1	1	14
1991 3	0	0	0	0	1	0	1	4	5	2	1	0	14
92 4	0	0	0	0	0	1	1	5	3	2	3	0	14
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	2	0	0	9
94 6	0	0	0	0	1	0	4	6	3	2	2	0	15
95 7	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
96 8	0	0	0	0	2	0	3	2	3	1	1	0	10
97 9	0	0	0	1	1	3	1	3	3	2	1	0	15
98 10	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	0	0	8
99 11	0	0	0	1	0	0	3	4	3	0	1	0	11
2000 12	0	0	0	0	2	0	4	4	3	1	1	0	15
01 13	0	0	0	0	1	0	2	2	4	2	0	0	11
02 14	0	0	0	0	0	1	6	2	3	1	1	0	13
03 15	0	0	0	1	1	2	0	2	3	1	1	1	12
04 16	0	0	0	1	1	3	3	6	3	3	0	1	19
05 17	0	0	0	1	0	1	2	3	4	2	0	0	12
06 18	0	0	0	0	0	0	3	4	2	1	0	0	10
07 19	0	0	0	0	1	0	1	4	3	3	0	0	12
08 20	0	0	0	0	3	1	2	1	2	1	0	0	9
09 21	0	0	0	0	1	0	0	3	3	2	0	0	8
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	3	4	1	0	0	7
11 23	0	0	0	0	2	1	1	2	4	0	0	0	9
12 24	0	0	0	0	1	3	3	6	3	4	0	0	17
平年値 1981-2010	-	-	-	0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4

台風の接近：台風が日本から概ね300km以内に入った場合をいう。

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	4
52 27	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	1	0	7
53 28	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
54 29	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	6
55 30	0	0	0	0	0	0	5	1	1	4	0	0	10
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	5
57 32	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	5
58 33	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	5
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	6
60 35	0	0	0	0	0	1	0	5	1	0	0	0	7
1961 36	0	0	0	0	0	1	2	3	1	1	0	0	7
62 37	0	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0	0	8
63 38	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	0	6
64 39	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
65 40	0	0	0	0	1	1	0	2	4	0	1	0	9
66 41	0	0	0	0	1	2	0	2	4	1	0	0	9
67 42	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	5
68 43	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	5
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
70 45	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	5
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	6
72 47	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	0	6
73 48	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
74 49	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	4
75 50	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	4
76 51	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4
77 52	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
78 53	0	0	0	0	0	1	1	3	1	1	0	0	7
79 54	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	5
80 55	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	0	0	6
82 57	0	0	0	0	0	1	0	2	2	1	0	0	6
83 58	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
84 59	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
85 60	0	0	0	0	0	1	1	4	2	1	0	0	6
86 61	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	5
87 62	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	5
88 63	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	6
89 H. 1	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	0	7
90 2	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	1	0	8
1991 3	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	0	0	9
92 4	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	0	0	5
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	1	0	0	8
94 6	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	6
95 7	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
96 8	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
97 9	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	0	0	6
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	6
99 11	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
2000 12	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	5
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	4
02 14	0	0	0	0	0	1	4	2	0	1	0	0	8
03 15	0	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	6
04 16	0	0	0	0	1	2	1	4	2	3	0	0	12
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
06 18	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	5
08 20	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
09 21	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	4
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
11 23	0	0	0	0	2	0	1	0	2	0	0	0	5
12 24	0	0	0	0	0	1	0	3	2	1	0	0	6
平年値 1981-2010	-	-	-	0.0	0.1	0.4	1.0	1.7	1.7	0.7	0.0	-	5.5

台風の北海道・本州・四国・九州への接近：台風が中心が北海道・本州・四国・九州から概ね300km以内に入った場合をいう。

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-5 平成24年(2012年)に発生した台風の一覧表

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生				台風の発生				台風期間中の最低(大)値				熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置				消滅前の最後確認された日時と位置、又は域外で最初に確認され					
		北緯		東経		北緯		東経		海面気圧		風速		強風		風半徑		月日時		北緯		東経	
		月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	月日時	東経	月日時	hPa	月日時	m/s	月日時	km	月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	月日時	北緯
1	PAKHAR	3 26 09	9.5	115.7	3 29 21	9.7	111.8	4 1 09	998	4 1 15	20	4 1 09	220	4 2 09	11.5	106.5	TD	4 2 15	12.0	106.1			
2	SANVU	5 21 03	10.5	148.5	5 22 15	13.8	143.3	5 26 15	975	5 26 15	30	5 26 15	E:310 W:240	5 28 03	29.5	150.0	L	5 30 21	35.5	170.6			
3	MAWAR	6 1 03	13.9	127.3	6 2 03	16.0	124.8	6 4 21	960	6 4 15	40	6 4 15	SE:560 NW:310	6 6 15	33.3	145.5	L	6 13 09	55.1	168.2			
4	GUCHOL	6 10 21	7.2	148.6	6 13 21	10.7	138.0	6 17 15	930	6 17 15	50	6 20 06	SE:560 NW:330	6 20 09	38.0	143.0	L	6 22 15	42.7	146.9			
5	TALIM	6 16 15	19.0	112.1	6 17 15	18.8	111.2	6 20 03	985	6 20 03	25	6 20 03	SE:560 NW:260	6 21 03	24.7	121.4	TD	6 21 03	24.7	121.4			
6	DOKSURI	6 25 09	11.2	135.3	6 27 03	15.3	128.9	6 29 15	992	6 29 15	20	6 29 03	E:440 W:280	6 30 09	22.3	112.0	TD	6 30 15	22.9	110.2			
7	KHANUN	7 15 03	19.3	143.5	7 16 15	24.1	136.2	7 18 09	985	7 18 09	25	7 18 00	NE:500 SW:280	7 19 09	38.0	128.0	TD	7 20 09	40.4	129.3			
8	VICENTE	7 18 21	15.0	128.6	7 21 21	18.8	116.6	7 24 03	950	7 24 03	40	7 23 15	SE:560 NW:390	7 25 03	23.1	107.1	TD	7 25 15	22.6	104.3			
9	SAOLA	7 27 03	10.6	130.5	7 28 09	14.5	126.8	8 2 00	960	8 2 03	35	8 1 12	750	8 3 15	27.7	118.7	TD	8 5 09	25.5	111.4			
10	DAMREY	7 27 15	24.7	148.8	7 28 21	26.0	147.1	8 2 15	965	8 2 15	35	7 31 06	NE:500 SW:330	8 3 21	37.6	118.2	TD	8 4 09	39.6	119.5			
11	HAIKUI	8 1 21	22.4	146.5	8 3 09	22.9	141.3	8 8 03	965	8 8 03	35	8 5 00	N:600 S:330	8 9 21	30.8	117.3	TD	8 11 15	30.0	117.3			
12	KIROGI	8 3 15	24.0	161.8	8 6 21	27.7	162.6	8 9 15	990	8 9 15	25	8 8 03	NE:560 SW:390	8 10 15	43.7	148.3	L	8 12 15		域外			
13	KAI-TAK	8 12 09	16.8	132.0	8 13 09	16.6	128.2	8 17 09	970	8 17 09	35	8 17 03	390	8 18 15	22.6	103.2	TD	8 18 21	23.2	101.8			
14	TEMBIN	8 17 15	21.4	125.9	8 19 15	17.4	124.8	8 23 21	950	8 23 21	40	8 24 03	S:330 N:190	8 30 21	36.5	129.4	L	9 1 09	39.2	132.2			
15	BOLAVEN	8 19 15	14.1	142.1	8 20 15	17.4	141.4	8 25 21	910	8 25 21	50	8 27 21	E:700 W:560	8 29 15	46.0	130.0	L	9 2 03		域外			
16	SANBA	9 10 09	8.7	134.7	9 11 09	10.0	134.1	9 14 15	900	9 14 15	55	9 17 06	600	9 18 09	43.6	132.9	L	9 19 03	48.0	135.1			
17	JELAWAT	9 20 09	13.7	134.8	9 21 03	13.3	131.5	9 26 21	905	9 26 21	55	9 28 12	N:650 S:440	10 1 21	46.0	155.0	L	10 3 09		域外			
18	EWINIAR	9 23 15	15.6	140.5	9 24 21	20.3	138.5	9 29 03	985	9 29 03	25	9 28 09	440	9 30 09	40.8	154.1	L	10 1 03	43.0	167.2			
19	MALIKSI	9 29 21	12.8	151.0	10 1 15	17.9	146.2	10 4 09	985	10 4 09	25	10 4 09	NE:700 SW:560	10 4 15	37.0	146.0	L	10 7 03		域外			
20	GAPMI	9 29 09	13.0	112.4	10 1 21	17.2	115.0	10 3 21	990	10 3 21	25	10 6 09	280	10 6 21	13.1	108.8	TD	10 7 21	12.9	104.0			
21	PRAPIROON	10 5 09	14.5	144.5	10 7 21	17.8	136.6	10 12 21	940	10 12 21	45	10 19 15	560	10 19 21	34.0	149.0	L	10 24 03		域外			
22	MARIA	10 13 03	16.1	147.2	10 14 15	17.5	143.7	10 16 03	990	10 16 03	25	10 18 21	SE:330 NW:220	10 19 09	31.5	157.4	TD	10 20 09	32.2	161.1			
23	SON-TINH	10 21 21	6.4	135.0	10 23 21	8.3	128.1	10 27 21	945	10 27 21	45	10 28 09	390	10 29 15	21.5	107.1	TD	10 29 21	21.8	107.6			
24	BOPHA	11 26 03	3.4	156.9	11 27 03	4.1	156.3	12 4 03	930	12 4 03	50	12 4 09	390	12 9 15	17.8	119.5	TD	12 9 15	17.8	119.5			
25	WUKONG	12 24 09	7.8	132.6	12 25 09	10.1	128.8	12 26 03	1000	12 26 03	20	12 26 21	220	12 28 15	8.7	111.0	TD	12 29 21	7.1	104.9			

表中の日時はすべて日本時(JST)。
「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。
(但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算しているため必ずしもこれに当てはまらない事がある。)
強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。
種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。
域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。

2-2 平成 24 年(2012 年)に日本に影響した主な台風

日本に影響*した主な台風について以下に概要を示す。

*台風の中心が日本から概ね500kmに入った場合を本稿では「日本に影響した台風」とした。

(1) 台風第2号(1202 SANVU)

5月21日03時にカロリン諸島の北海上で発生した熱帯低気圧は、北西へ進み、22日15時にグアム島の北西海上で台風第2号となった。台風第2号は、徐々に進路を北へ変え、25日03時に硫黄島の南西海上で勢力が最大となった。台風第2号は北東へ進路を変えた後、28日03時に小笠原諸島の東で温帯低気圧に変わり、東北東へ進んで、31日03時に日本のはるか東海上で消滅した。

(2) 台風第3号(1203 MAWAR)

6月1日03時にルソン島の東海上で発生した熱帯低気圧は、北西へ進み、2日03時に同海上で台風第3号となった。台風第3号は、その後北北東へ進み、4日03時に沖縄の南海上で勢力が最大となった。台風第3号はその後北東へ進み、6日15時に八丈島の東海上で温帯低気圧に変わり、13日15時にカムチャツカ半島の東海上で消滅した。

(3) 台風第4号(1204 GUCHOL)

6月10日21時にカロリン諸島近海で発生した熱帯低気圧は、北北西へ進んだ後西へ進み、13日21時にフィリピンの東海上で台風第4号となった。台風第4号は、進路を北北西へ変え、16日21時には同海上で勢力が最大となった。台風第4号は北東へ進み、19日17時過ぎに和歌山県南部に上陸し、19日20時過ぎ愛知県東部に再上陸してさらに北東へ進み、20日09時に日本の東海上で温帯低気圧に変わり、22日21時に同海上で消滅した。

(4) 台風第5号(1205 TALIM)

6月16日15時にハイナン島の東海上で発生した熱帯低気圧は、反時計周りに回り、17日15時に同海上で台風第5号となった。台風第5号は東北東へ進み、19日15時に勢力が最大となった。台風第5号は20日遅くに台湾に上陸した後、21日03時に熱帯低気圧に変わり、同日09時に消滅した。

(5) 台風第7号(1207 KHANUN)

7月15日03時にマリアナ諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は、北西へ進み、16日15時に硫黄島の西海上で台風第7号となった。台風第7号はさらに北西へ進み、18日03時に東シナ海で勢力が最大となった後、北へ進路を変えた。台風第7号は、チェジュ島を通過した後、朝鮮半島に上陸し、19日09時に熱帯低気圧に変わり、20日03時には温帯低気圧に変わって、同日15時に消滅した。

(6) 台風第9号(1209 SAOLA)

7月27日03時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は、北北西へ進み、28日09時に台風第9号となった。台風第9号は8月1日15時に沖縄の南海上で勢力が最大となった。台風第9号は台湾付近で反時計回りに円を描くように進んだ後、速度を上げながら北西へ進んで3日09時前に中国の東海岸に上陸し、同日15時に熱帯低気圧へ変わって、5日15時に華南で消滅した。

(7) 台風第10号(1210 DAMREY)

7月27日15時に南鳥島の西海上で発生した熱帯低気圧は、北西へ進み、28日21時に同海上で台風第10号となった。台風第10号は南西へ進んだ後西北西へ進み、8月1日15時過ぎ、鹿児島県屋久島付近を通過した。その後北西へ進んだ台風第10号は、2日15時に黄海で勢力が最大となった。台風第10号は、山東半島付近に上陸した後、北北東へ進み、3日21時にボツ海で熱帯低気圧に変わり、4日15時に消滅した。

(8) 台風第11号(1211 HAIKUI)

8月1日21時に北マリアナ諸島の北の海上で発生した熱帯低気圧は、西へ進み、3日09時に硫黄島の南海上で台風第11号となった。台風第11号は西北西へ進んだ後、東シナ海をゆっくり西へ進み、7日21時に同海上で勢力が最大となった。その後台風第11号は、北西に進み、同日遅くに華中に上陸した。9日21時に熱帯低気圧に変わり、ほとんど停滞した後11日21時に消滅した。

(9) 台風第12号(1212 KIROGI)

8月3日15時にウェーク島の北西の海上で発生した熱帯低気圧は、ゆっくり南東に進んだ後、南西に進んだ。5日に北へ進路を変えた後、6日21時に同海上で台風第12号となった。台風第12号は次第に北西に進路を変えながら、ゆっくり発達して、9日15時に日本の東海上で勢力が最大となった。台風第12号は、10日15時に北海道の東海上で温帯低気圧に変わり、北に進み、オホーツク海を縦断して、12日15時前に北緯60度を越えた。

(10) 台風第14号(1214 TEMBIN)

8月17日15時に沖縄の南海上で発生した熱帯低気圧は南に進み、19日15時にルソン島の東海上で台風第14号となった。台風第14号は、急激に北に進路を変え、20日21時に同海上で勢力が最大となった。台風第14号は、次第に西に向きを変え、23日09時に先島諸島の南海上で再び勢力が最大となった。台風第14号は、台湾の南部を通過した後、反時計回りに円を描くように進み、28日21時に先島諸島の北海上に達した。台風第14号は、その後、北北東へ進み、朝鮮半島に上陸した後、30日21時に温帯低気圧に変わり、9月1日15時に日本海で消滅した。

(11) 台風第15号(1215 BOLAVEN)

8月19日15時にマリアナ諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は、同海上で20日15時に台風第15号となった。台風第15号は西北西に進み、25日21時に南大東島の南海上で、勢力が最大となった。台風第15号は、26日21時頃に沖縄本島を通過した後、東シナ海と黄海を北北西に進みながら、ゆっくりと勢力を弱め、28日遅くに朝鮮半島北部に上陸した。その後、北東に進み、29日15時に中国東北区で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は、オホーツク海からカムチャツカ半島を通り、9月2日03時前にベーリング海で経度180度を越えた。

(12) 台風第16号(1216 SANBA)

9月10日09時にパラオ諸島の北海上で発生した熱帯低気圧は、ゆっくり北へ進んで11日09時に同海上で台風第16号となり、北西へ進んだ。台風第16号は急速に発達し、進路を北へ変えた後、14日03時にフィリピンの東海上で勢力が最大となった。台風第16号はその後も北へ進み、16日07時半頃沖縄本島付近を通過し、さらに北へ進んで東シナ海へ進み、17日朝鮮半島へ上陸した。台風第16号は朝鮮半島を越えて日本海へ入り、沿海州に上陸した後、18日09時に温帯低気圧に変わり、19日09時に消滅した。

(13) 台風第17号(1217 JERAWAT)

9月20日09時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は、西へ進み、21日03時に同海上で台風第17号となった。その後北へ進んだ台風第17号は、25日03時に同海上で勢力が最大となった。台風第17号は28日09時に石垣島の南海上で進路を北東へ変え、速度を速めながら進み、30日15時頃に和歌山県潮岬付近を通過し、17時半頃三重県志摩半島付近を通過、そして19時頃に愛知県東部に上陸した。上陸後は、台風第17号は勢力を急速に弱め、10月1日21時に千島列島の東海上で温帯低気圧に変わり、東へ進んで、3日09時前にアリューシャン列島の南海上で経度180度を越えた。

(14) 台風第18号(1218 EWINIAR)

9月23日15時に北マリアナ諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は、北北西へ進み、24日21時に沖ノ島島の東海上で台風第18号となった。台風第18号は進路を北東へ変え、26日15時に父島の南西海上で勢力が最大となった後、北へ進み、28日早くまで八丈島の南東海上にほとんど停滞した。その後、台風第18号は再び北東へ進み、30日09時に北海道の東海上で温帯低気圧に変わり、10月1日09時に千島の東海上で消滅した。

(15) 台風第19号(1219 MALIKSI)

9月29日21時にマリアナ諸島の東海上で発生した熱帯低気圧は、北西へ進み、マリアナ諸島周辺で10月1日15時に台風第19号となった。台風第19号は北西に進んだ後、3日09時に硫黄島の近くで勢力が最大となった後、北北東へ進行方向を変えた。その後も、台風第19号は、勢力を保ちながら北東へ

進み、4日15時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。この温帯低気圧は、カムチャツカ半島の南海上で、進行方向を東に変え、7日03時前にアリューシャン列島の南海上で、経度180度を越えた。

(16) 台風第21号(1221 PRAPIROON)

10月5日09時にマリアナ諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は、ゆっくり西へ進み、7日21時にフィリピンの東海上で台風第21号となった。台風第21号は、その後も西へ進み、11日21時に同海上で勢力が最大となった後、北東に進路を変え、15日に南大東島の南海上に達すると、南西に進路を急に変えた。台風第21号が沖縄の南海上に達すると、16日に北に向きを変え、17日にはさらに北東に向きを変えた。その後、速度を速めて北東へ進み、19日21時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧に変わった後、東へ進んだが、21日には北に向きを変え、24日03時前に、アリューシャン列島付近で経度180度を越えた。

(17) 台風第22号(1222 MARIA)

10月13日03時に北マリアナ諸島の東海上で発生した熱帯低気圧は、西北西へ進み、14日15時に北マリアナ諸島の西海上で台風第22号となった。台風第22号は、北西へ進み、15日09時に同海上で勢力が最大となった。台風第22号は、その後北へ進み、さらに東北東へ進路を変えた後、19日09時に日本のはるか東海上で熱帯低気圧に変わり、20日15時に同海上で消滅した。

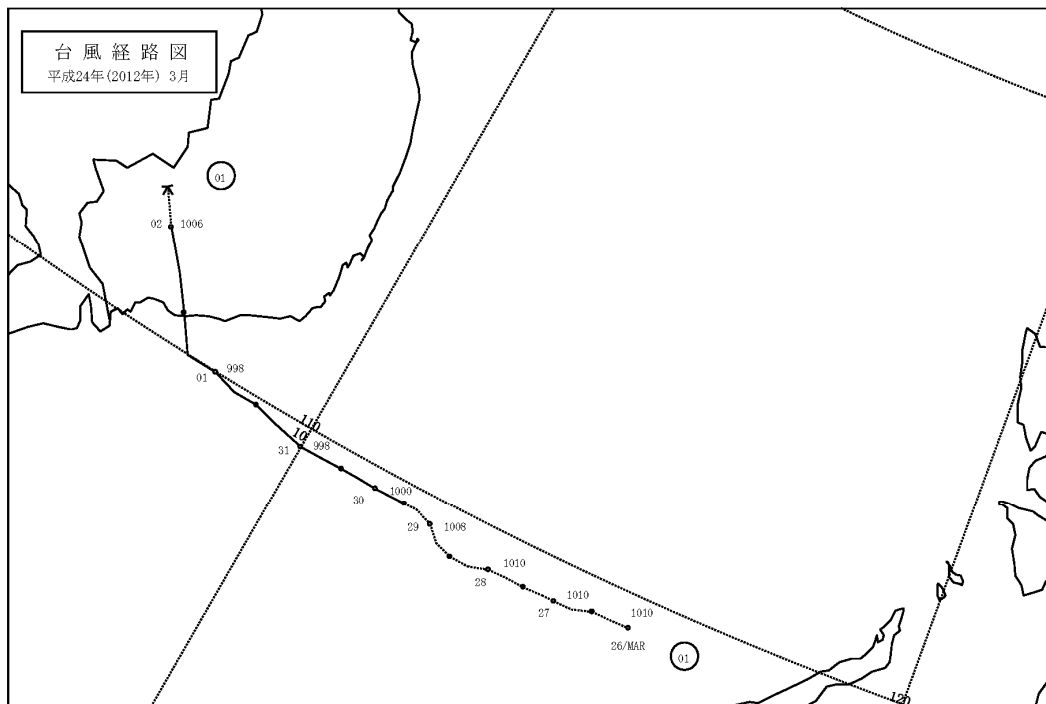
資料2-2-1 平成24年(2012年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧、温帯低気圧の期間は除く)

台風 番号	日本への影響 (台風が中心が日本から概ね500km以内に入った場合)			日本への接近 (台風が中心が日本から概ね300km以内に入った場合)			上陸、通過
	月日		地 域	月日		地 域	
	始	終		始	終		
2	5/25	5/27	伊豆諸島・小笠原諸島	5/26	5/27	伊豆諸島・小笠原諸島	上陸または通過せず。
3	6/3	6/6	沖縄・奄美、九州南部、四国、近畿、東海地方、関東甲信、伊豆諸島・小笠原諸島	6/4	6/6	沖縄・奄美、伊豆諸島・小笠原諸島	上陸または通過せず。
4	6/18	6/20	全国	6/18	6/20	沖縄・奄美、西日本、東日本、東北	6月19日17時過ぎ、和歌山県南部に上陸した。 6月19日20時過ぎ、愛知県東部に再上陸した。
5	6/20	6/21	沖縄	6/20	6/21	沖縄	上陸または通過せず。
7	7/16	7/19	沖縄・奄美、九州南部、九州北部、中国地方	7/16	7/19	沖縄・奄美、九州北部	上陸または通過せず。
9	7/30	8/3	沖縄	7/31	8/3	沖縄	上陸または通過せず。
10	7/28	8/2	沖縄・奄美、西日本、伊豆諸島・小笠原諸島	7/30	8/2	奄美、九州南部、九州北部、四国、伊豆諸島・小笠原諸島	8月1日15時過ぎ、鹿児島県屋久島付近を通過した。
11	8/3	8/8	沖縄・奄美、九州南部、伊豆諸島・小笠原諸島	8/4	8/7	沖縄・奄美	上陸または通過せず。
12	8/10	8/10	北海道	8/10	8/10	北海道	上陸または通過せず。
14	8/21	8/30	沖縄・奄美、九州南部、九州北部、四国、中国地方	8/21	8/30	沖縄、九州北部	上陸または通過せず。
15	8/24	8/28	沖縄・奄美、九州南部、九州北部	8/25	8/27	沖縄・奄美	8月26日21時頃、沖縄県沖縄本島付近を通過した。
16	9/15	9/18	沖縄・奄美、九州南部、九州北部、四国、中国地方	9/15	9/17	沖縄・奄美、九州南部、九州北部	9月16日07時半頃、沖縄県沖縄本島付近を通過した。
17	9/27	10/1	全国	9/28	10/1	全国	9月30日15時頃、和歌山県潮岬付近を通過した。 9月30日17時半頃、三重県志摩半島付近を通過した。 9月30日19時頃、愛知県東部に上陸した。
18	9/25	9/29	東海地方、関東甲信、伊豆諸島・小笠原諸島	9/26	9/28	伊豆諸島・小笠原諸島	上陸または通過せず。
19	10/3	10/4	東海地方、関東甲信、伊豆諸島・小笠原諸島、東北地方	10/3	10/4	伊豆諸島・小笠原諸島	上陸または通過せず。
21	10/14	10/19	沖縄・奄美、九州南部、四国、近畿、東海地方、関東甲信、伊豆諸島・小笠原諸島	10/17	10/19	沖縄・奄美、伊豆諸島・小笠原諸島	上陸または通過せず。
22	10/15	10/17	伊豆諸島・小笠原諸島	10/16	10/17	伊豆諸島・小笠原諸島	上陸または通過せず。

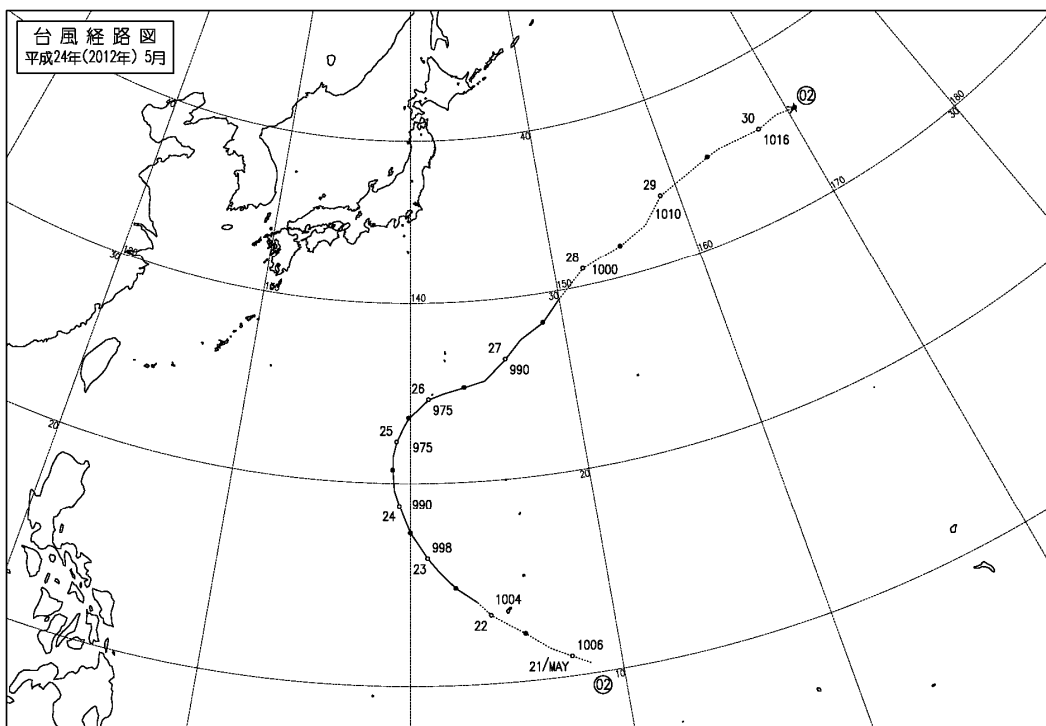
台風が中心が日本から概ね300km以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。

台風が中心が日本から概ね500km以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。

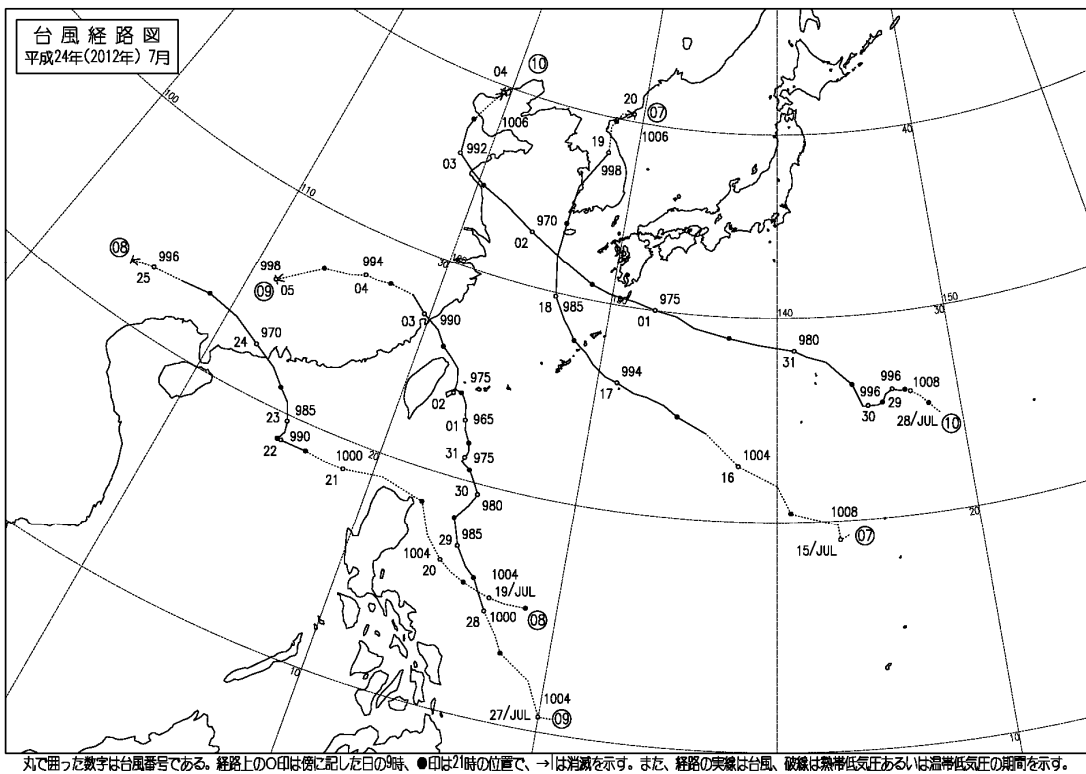
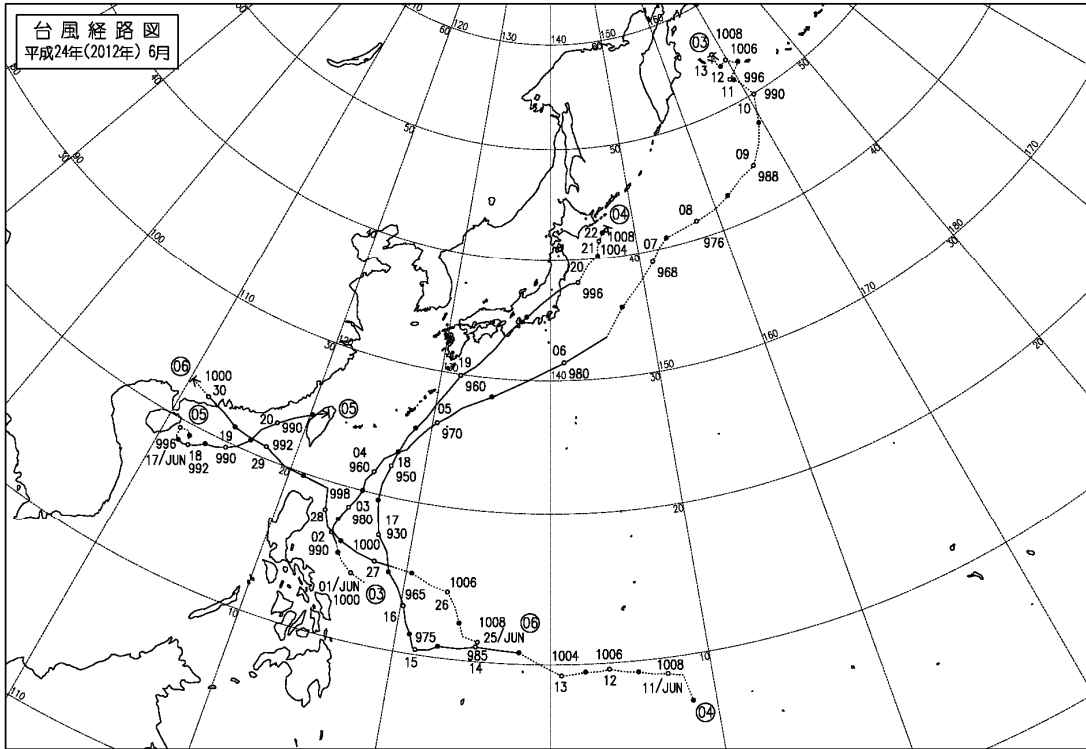
資料 2-2-2 平成 24 年 (2012 年) に発生した台風の経路図

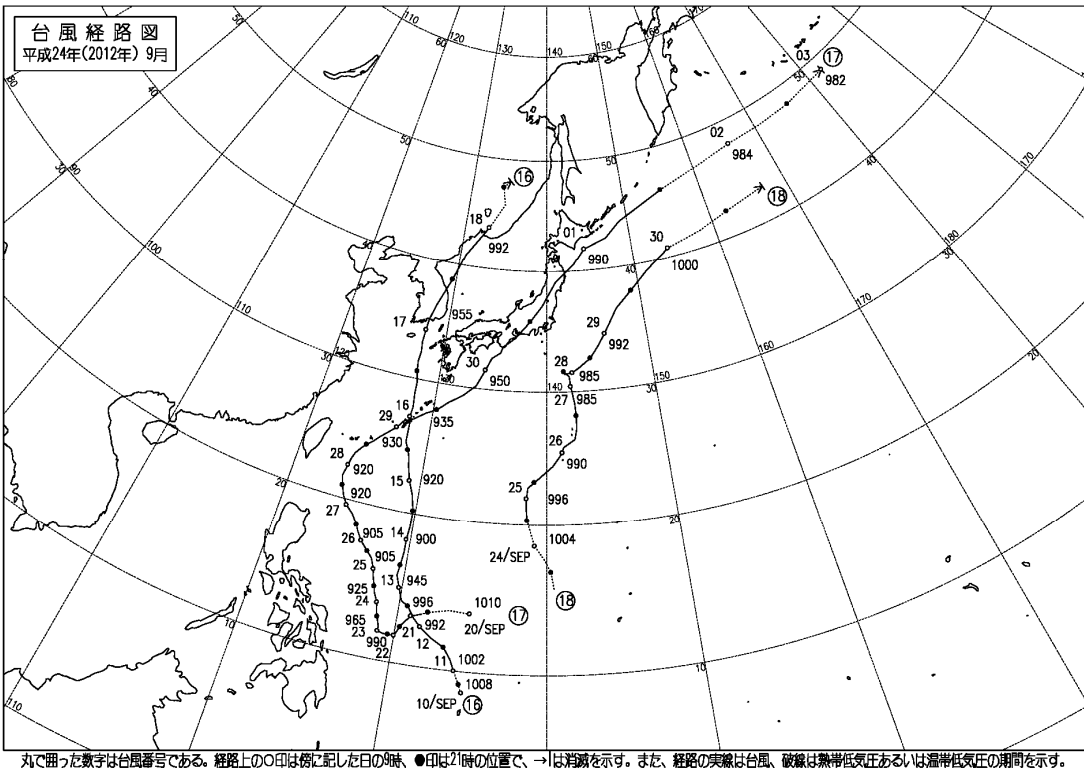
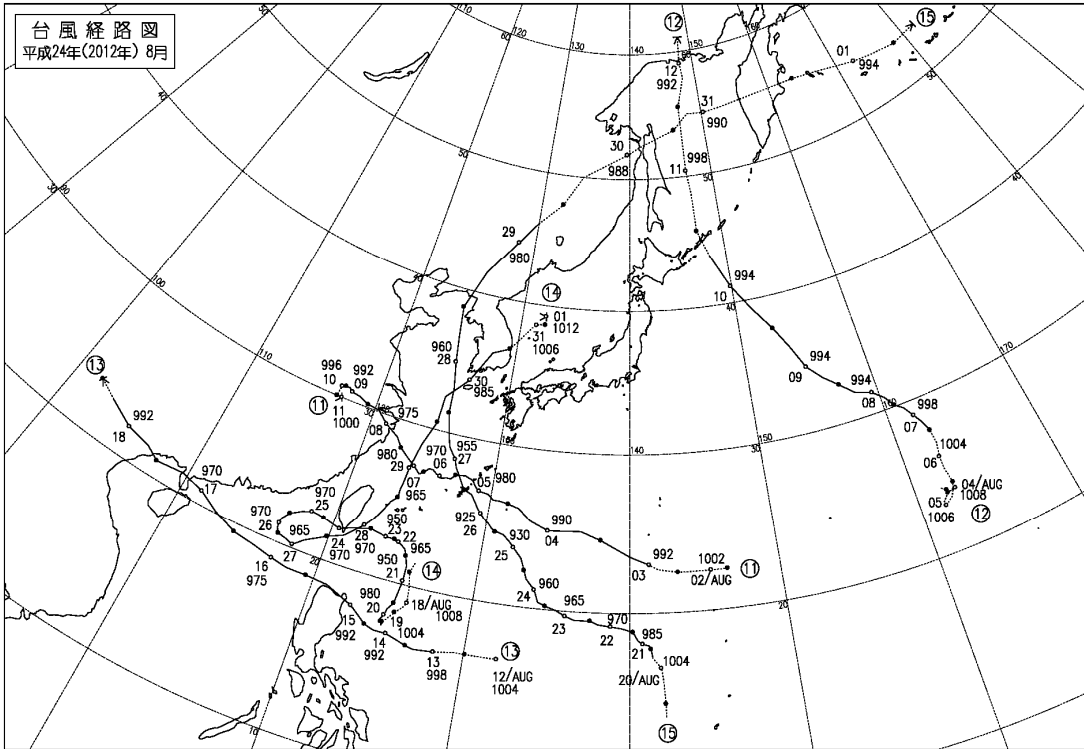


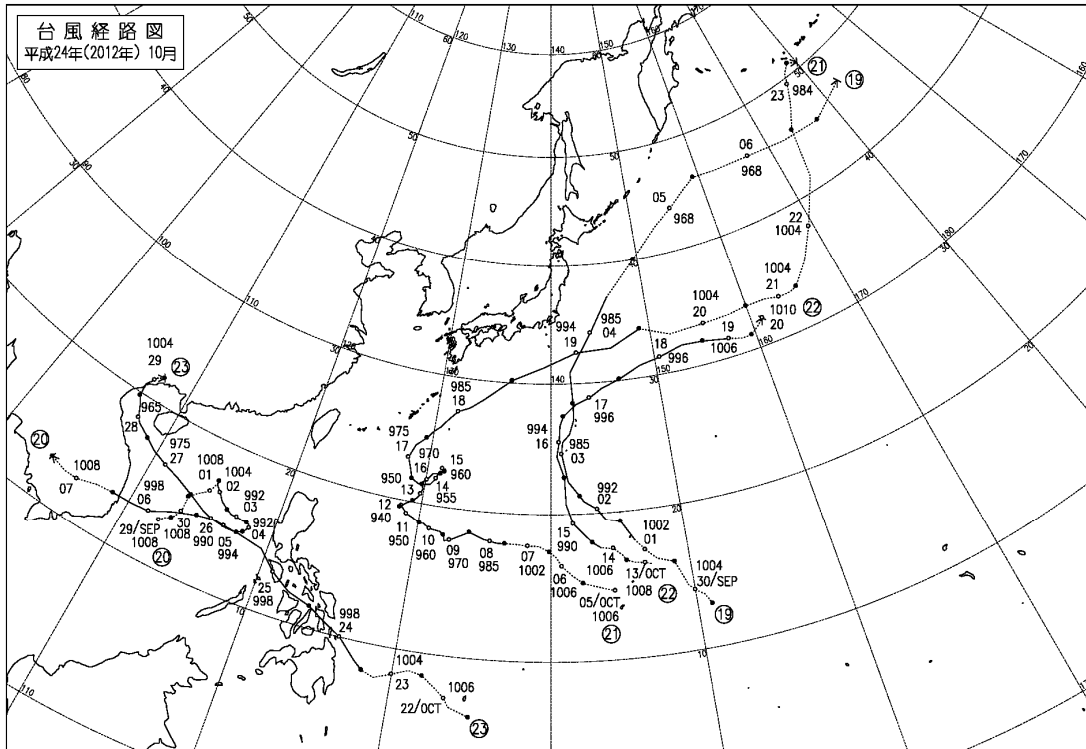
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。



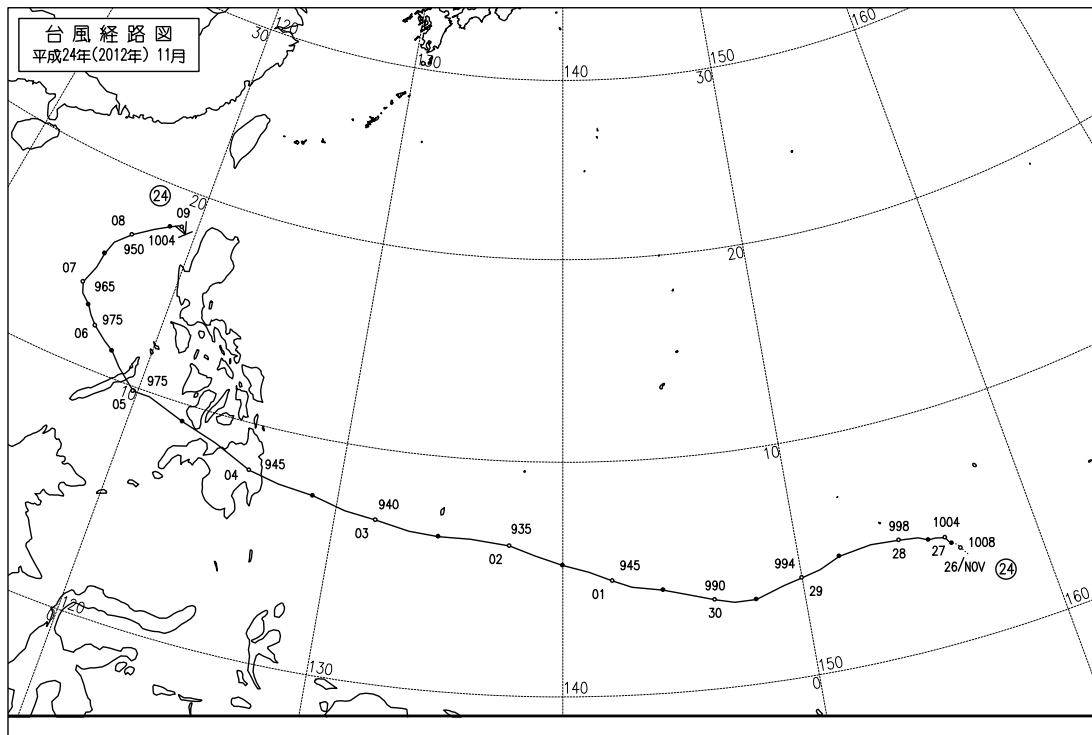
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



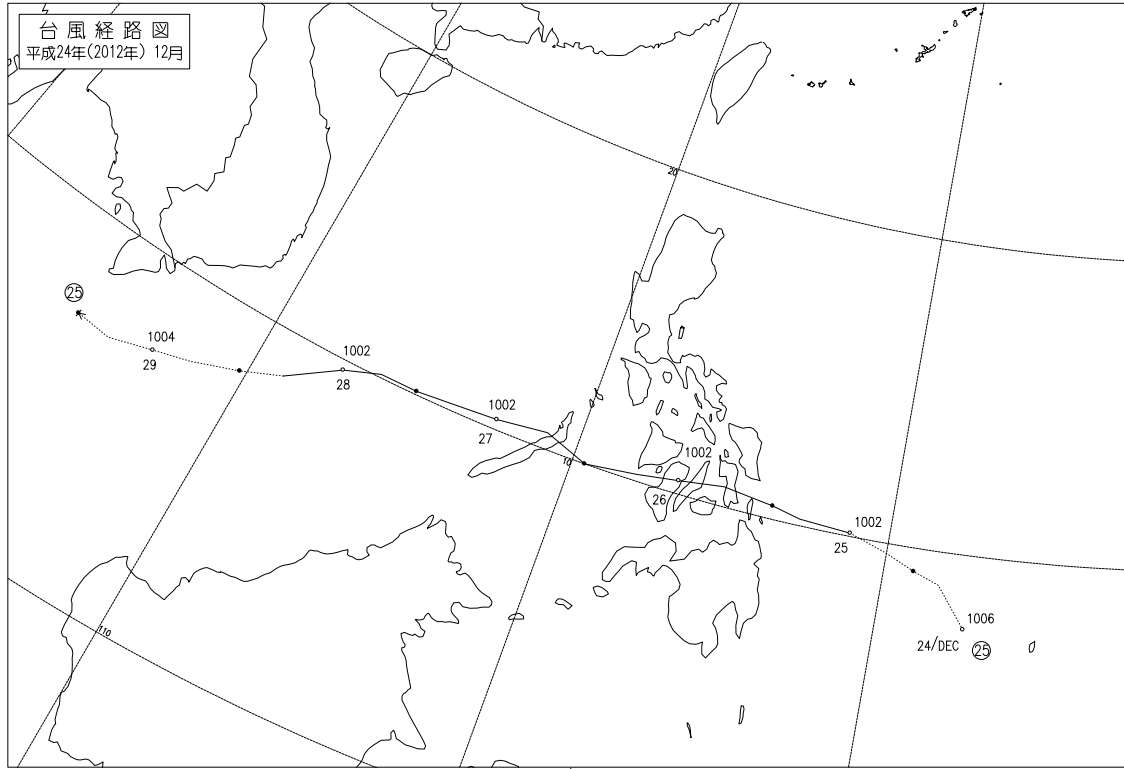




丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



3 平成24年(2012年)の天気概況

1月

冬型の気圧配置となり、東日本から北海道で大雪(1日~14日)

1日は、日本海中部の低気圧が北東に進み、前線が本州を通過した。このため、南西諸島および山陰から東北地方にかけての日本海側の一部と北海道の一部で雨や雪が降り、北陸の一部では雷を伴った。2日は、関東の東海上の低気圧が発達しながら北東に進み、日本付近は冬型の気圧配置(以下冬型と略す。)となった。山陰から東北地方にかけての日本海側と北海道で雨や雪が降り、中国地方の一部では雷を伴った。3日は、冬型となり、発達した低気圧が北海道の東海上を北東に進んだ。九州から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降り、北海道では強風となったところがあった。4日から5日にかけて、冬型となった。九州から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降り、一部で強風となった。中国地方から甲信および北陸にかけての一部では大雪となり、雷を伴ったところもあった。6日は、冬型が続き、また、日本海北部に低気圧が発生した。南西諸島および山陰から東北地方にかけての日本海側と北海道で、雨や雪が降り、北海道の一部では大雪となった。7日から8日にかけて冬型が続き、南西諸島および山陰から東北地方にかけての日本海側で雨や雪が降った。9日から10日にかけて、冬型が緩んだ。日本海西部に低気圧が発生して東に進んだ。南西諸島および山陰から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降り、北陸の一部で雷を伴った。11日は、関東の東海上と千島近海の低気圧がそれぞれ北東に進み、冬型が強まった。山陰から北海道にかけての日本海側および東北地方の太平洋側の一部で雨や雪が降り、強風となったところもあった。北陸から東北地方にかけての一部では大雪となった。12日は、冬型が一時的に緩んだが、日本海西部に低気圧が発生し東に進んだ影響で、山陰から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降った。13日から14日にかけて、冬型が強まり、山陰から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降った。北陸地方の一部では雷を伴い、東北地方では大雪となったところもあった。また、北海道の一部では強風となった。

低気圧や前線が日本海や本州南岸を通過し、四国や関東で大雨(15日~21日)

15日は、東シナ海の低気圧と華南から日本の南海上へのびる前線が東へ進み、北日本中心の冬型となった。南西諸島から九州の南部にかけて雨が降り、山陰から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降った。北海道の一部では大雪となり、強風となったところもあった。16日から17日にかけて、低気圧と前線日本の南海上を東へ進み、南西諸島から東海地方にかけての太平洋側で雨または雪が降った。18日は、気圧の谷の影響で、九州北部で雨が降った。その他の地方は、高気圧に覆われ、概ね晴れた。19日は、九州の西海上に低気圧が発生し四国沖に進んだ。南西諸島から東日本にかけて雨や雪が降り、四国の一部では大雨となった。伊豆諸島では暴風や強風となったところがあった。20日は、四国沖の低気圧が東に進んだ。西日本から東日本にかけて雨や雪が降り、伊豆諸島では暴風や強風となったところもあった。21日は、四国沖と日本海中部に低気圧が発生して、それぞれ北東へ進んだため、四国から東北地方にかけて雨や雪が降った。伊豆諸島では大雨となったところがあった。

冬型の気圧配置になり、東日本から北日本で大雪(22日~31日)

22日は、東海沖と秋田沖の低気圧がそれぞれ北東へ進んだ後、冬型となった。関東から北海道にかけての太平洋側と、南西諸島および九州から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降り、北海道の一部では大雪となった。23日は、三陸沖の低気圧が北東へ進み、日本の南海上に発生した低気圧は東へ進み、冬型が強まった。南西諸島および関東と、山陰から東北地方にかけての日本海側および北海道で雨や雪が降り、近畿の一部では雷を伴った。24日は、冬型が続き、日本海西部に低気圧が発生し東に進んだ。また、伊豆諸島付近に低気圧が発生して北東へ進んだ。関東の一部と、山陰から北海道にかけての日本海側で雪が降った。25日は、冬型が続き、日本海西部に低気圧が発生し東に進んだ。また、関東の東海上の低気圧が北東へ進んだ。東北地方の一部と、九州

から北海道にかけての日本海側で雪が降った。北陸や東海の一部では大雪となり、北陸の一部は雷を伴った。九州では強風となったところもあった。26日から27日にかけて、西日本は次第に高気圧に覆われ、北日本中心の冬型となり、また、強い寒気の影響を受けた。山陰から北海道にかけての日本海側で雪が降り、北陸から東北地方にかけての一部では大雪となった。北陸では雷を伴ったところもあった。28日は、冬型が強まり、山陰から北海道にかけての日本海側で雪が降った。甲信の一部では大雪となった。また、奄美群島付近を東へ進む低気圧の影響で、南西諸島から九州南部にかけて雨が降った。29日から30日にかけて、冬型が続き、山陰から北海道にかけての日本海側で雪が降った。31日は、低気圧が日本海西部を東に進み、次第に冬型が緩んだ。山陰から北陸にかけてと北日本で、雪が降った。

2月

低気圧が日本海を通過し、西日本から北日本で暴風（1日～2日）

1日は、低気圧が日本海中部から三陸沖へ進み、前線が九州から東北地方を通過した。九州から東北地方にかけての日本海側を中心に雨や雪が降り、東北地方の一部で大雪となった。山陰から北陸にかけての一部では雷を伴った。四国から東北地方にかけて暴風や強風となったところもあった。2日は、冬型の気圧配置(以下冬型と略す。)となった。沖縄・奄美および九州から東北地方にかけての日本海側で雨や雪が降り、東北地方の一部で大雪となった。山陰から北陸にかけての一部では雷を伴い、九州の一部や東北地方の一部では暴風や強風となった。

低気圧や前線が本州南岸を通過し、沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側で大雨（3日～7日）

3日は、冬型が次第に緩んだ。山陰から北海道にかけての日本海側で雪が降り、北陸の一部では雷を伴った。4日は、気圧の谷の影響で北陸から北海道にかけての一部で雪が降り、北陸や東北地方の一部では雷を伴った。北海道では強風となったところもあった。5日は、東シナ海の低気圧が北東へ進み、前線が九州の南部を通過した。沖縄・奄美から四国にかけておよび近畿南部では雨や雪が降り、沖縄の一部では大雨となった。6日は、九州南部地方の低気圧が四国沖へ進み、前線が華中から九州の南部を通過して関東の東海上にのびた。沖縄・奄美から東北地方にかけて雨や雪が降り、九州の一部で大雨となった。7日は、低気圧が三陸沖から千島の東海上へ進み、前線が南西諸島を通過して東へ進んだ。全国的に雨や雪が降り、西日本から東日本にかけての太平洋側の一部で大雨となり、強風となったところもあった。

冬型の気圧配置となる（8日～12日）

8日から9日にかけて、強い冬型となった。山陰から北海道にかけての日本海側で雪が降り、北陸や東北地方の日本海側の一部で大雪となった。北陸地方の一部では雷を伴い、北日本では強風となったところもあった。10日から12日にかけても、冬型が続いた。南西諸島および山陰から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降り、北日本の一部では強風となった。

前線が本州南岸を通過した後、冬型の気圧配置となり、北陸や北海道で暴風（13日～19日）

13日は、東シナ海の前線が東海沖へのび、前線上の低気圧が東シナ海から四国沖へ進んだ。西日本から東日本にかけて雨や雪が降った。また、沿海州から東へ進む低気圧の影響で、北海道の日本海側で雪が降った。14日は、華南から九州の南部を通過して関東の東海上にのびる前線の影響により、西日本から東日本にかけて雨が降った。また、沿海州の低気圧が東へ進み、前線が北日本を通過したため、北海道の日本海側で雪が降った。15日は、東シナ海から日本の東海上にのびる前線が東へ進み、九州から四国にかけてと近畿南部で雨が降った。また、宗谷海峡の低気圧が千島近海へ進み、前線が北日本を通過したため、山陰から北海道にかけての日本海側で雪が降り、北海道では暴風や強風となったところもあった。16日は、冬型となった。また、関東の東海上に低気圧が発生して南東に進んだ。このため、沖縄・奄美から九州にかけての一部と山陰から北海道にか

けての日本海側および関東の太平洋側の一部で雨や雪が降った。北海道では強風となったところもあった。17日は、冬型となった。また、関東の東海上に低気圧が発生して北東に進んだ。山陰から北海道にかけての日本海側と関東から東北地方にかけての太平洋側で雨や雪が降り、近畿から北陸にかけての日本海側の一部では大雪となった。北陸の一部では雷を伴い、暴風や強風となったところもあった。18日は、冬型となった。山陰から北海道にかけての日本海側で雪が降り、山陰や東北地方の一部では雷を伴った。甲信地方の一部では大雪となった。19日は、冬型となり、九州から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降った。北陸の一部では雷を伴った。

低気圧がオホーツク海に進み、北日本で暴風雪（20日～21日）

20日は、沿海州の低気圧が北東へ進み、前線が北海道を通過した。北陸から北海道にかけての日本海側で雪が降り、北海道の一部では強風となった。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。21日は、サハリンの西海上の低気圧からのびる前線が北日本を通過した。北陸から北海道にかけての日本海側で雪が降り、東北地方の一部で雷を伴った。北海道の一部では強風となった。また、気圧の谷の影響で沖縄・奄美および西日本の一部で雨が降った。

前線が本州南岸を通過し西日本から東日本にかけての太平洋側で大雨（22日～25日）

22日は、華中から東海沖へのびる前線の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨または雪が降った。23日は、華中から関東の東海上へのびる前線と前線上の九州の西海上に中心を持つ低気圧が三陸沖へ進んだ。また、華南から日本の南海上の前線が東へ進んだ。このため、全国的に雨や雪が降った。沖縄から九州にかけての一部で雷を伴い、近畿から関東にかけての太平洋側の一部で大雨となった。24日は、東シナ海から日本の南海上にのびる前線の影響で、沖縄から九州の南部にかけて雨が降り、一部で雷を伴った。また、北海道の東海上の低気圧の影響で、北日本の一部で雪が降った。25日は、日本の南海上の前線と、前線を伴って東海沖から三陸沖へ進む低気圧の影響で、北海道を除く各地で雨や雪が降り、東海地方の一部では雷を伴った。

冬型の気圧配置となった後、前線が本州南岸を通過し西日本から東日本にかけての太平洋側で大雨、伊豆諸島で暴風（26日～29日）

26日から27日にかけて、冬型となり、日本海北部の低気圧が北海道を通過した。南西諸島および九州から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降った。28日は、九州の西海上に低気圧が発生し、東シナ海の前線と一体化して東へ進み、前線が南西諸島を通過した。沖縄・奄美から中国地方にかけて、および、四国と近畿南部で雨や雪が降った。沖縄・奄美の一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。29日は、種子島、屋久島付近の低気圧と東海沖に発生した低気圧が共に東へ進んだ。九州から東北南部にかけて雨や雪が降り、沖縄・奄美の一部で雷を伴った。伊豆諸島の一部では大雨となり、暴風や強風となったところもあった。

3月

低気圧や前線が本州南岸を通過し、近畿や伊豆諸島で大雨、伊豆諸島で暴風（1日～11日）

1日は、屋久島付近の低気圧が北東へ進んだ。沖縄・奄美から西日本の一部にかけて雨が降った。2日は、華南の前線が、南西諸島を通り日本の南海上へのびた。また、本州南岸を低気圧が通過した。沖縄から東北地方にかけて雨が降り、沖縄の一部で雷を伴った。3日は、沖縄の南海上から日本の南海上へのびる前線が東へ進んだ後、大陸の高気圧に覆われた。沖縄と東日本から北日本にかけての一部で雨が降り、沖縄では雷を伴ったところもあった。4日は、前線が華南から東シナ海を通り九州の南部に達した。沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降った。5日は、華南から関東の東海上にのびる前線が東へ進み、前線上の低気圧が四国沖から三陸沖に進んだ。九州から東北地方にかけて雨が降り、九州の一部では雷を伴った。近畿や伊豆諸島では大雨となったところもあった。6日は、低気圧が三陸沖から北海道の東海上へ進み、伴う前線が華南までのびた。全国で雨が降り、東日本の太平洋側の一部で雷を伴った。中国地方では強風となったところもあった。7日は、前線が

沖縄本島付近に停滞し、沖縄から九州の南部にかけて雨が降った。また、日本海北部の低気圧の影響で、北日本で雨や雪が降り、東北地方の一部で強風となった。8日は、関東の東海上の前線と沖縄本島付近に発生した前線の影響で、沖縄から九州の南部にかけて、および関東の一部で、雨が降った。9日は、沖縄本島付近の前線と本州南岸の前線の影響で、沖縄から東北地方にかけての太平洋側を中心に雨が降った。伊豆諸島の一部では暴風となった。10日は、沖縄の南海上へのびる前線と関東の東海上の低気圧がともに東へ進んだ。また、日本海中部に低気圧が発生した。南西諸島と本州で雨が降り、伊豆諸島の一部で暴風となった。11日は、日本海中部の低気圧と、関東の東海上に発生した低気圧の影響で、山陰から北陸にかけてと東北地方を中心に雨や雪が降り、雷を伴ったところもあった。九州の一部で強風となった。

高気圧に覆われる（12日～15日）

12日は、日本海中部の低気圧が三陸沖へ進んだ後、冬型の気圧配置（以下冬型と略す。）となった。山陰から北陸にかけておよび東北地方で雨や雪が降った。北陸の一部で雷を伴い、九州や北陸では強風となったところもあった。13日は、はじめ冬型で、その後次第に高気圧に覆われた。山陰から北陸にかけておよび東北地方で雨や雪が降った。14日は、日本海中部の低気圧の影響で東北地方の日本海側で雨や雪が降った。また、湿った空気の影響により南西諸島で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。15日は、一時的に冬型となり、南西諸島および山陰から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降り、一部で雷を伴った。

低気圧や前線が本州南岸を通過（16日～21日）

16日は、華中から九州の西海上へのびる前線が東へ進んだ。沖縄・奄美から西日本の一部にかけて雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。17日は、九州の西海上の前線が関東の東海上へのび、前線上の東海沖に低気圧が発生した。また、対馬海峡の低気圧が日本海中部へ進んだ。沖縄から東北地方にかけて雨が降り、西日本の一部で雷を伴った。18日は、関東の東海上から三陸沖に低気圧が北東へ進んだ。沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降り、九州の一部では雷を伴った。19日は、冬型となった。山陰から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降り、東北地方の一部では雷を伴った。北日本では強風となったところもあった。20日は、湿った空気の影響により、南西諸島で雨が降った。また、上空の寒気の影響により、北陸および北日本の一部で雨や雪が降り、北海道の一部で強風となった。21日は、上空の寒気の影響により、北陸および北日本の一部で雨や雪が降り、東北地方の一部で強風となった。

低気圧が本州を通過し、西日本から東日本にかけて大雨、西日本で暴風（22日～26日）

22日は、華南から九州の西海上へのびる前線の影響で、九州から山陰にかけての一部で雨が降った。また、日本海北部の低気圧の影響により、北日本の一部で雨や雪が降り、雷を伴ったところもあった。23日は、九州の西海上の低気圧が東海沖へ進み、伴う前線が沖縄・奄美から本州の太平洋側にかけて通過した。沖縄から東北地方にかけて雨や雪が降り、西日本から東日本にかけての一部で大雨となった。九州の一部では雷を伴った。24日は、関東の東海上の低気圧が北東へ進んだため、本州を中心に雨や雪が降った。沖縄・奄美から西日本にかけての一部で強風となった。西日本の一部では暴風となり、雷を伴ったところもあった。25日は、冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降り、一部で雷を伴った。西日本では強風となったところもあった。26日は、冬型が続き、山陰から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降り、一部で雷を伴った。

高気圧に覆われる（27日～29日）

27日は、中国東北区の低気圧が日本海中部へ進んだため、北日本の日本海側で雨や雪が降り、一部で雷を伴った。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。28日は、日本海北部の低気圧が北海道の東海上へ進んだため、近畿から東北地方にかけての一部で雨が降り、雷を伴ったところもあった。29日は、高気圧に覆われて概ね晴れた。

低気圧が日本海を通過し、西日本で暴風（30日～31日）

30日は、低気圧が黄海から日本海西部へ進み、伴う前線が北陸から華中へのびた。また、日本海北部の低気圧がオホーツク海へ進み、伴う前線が北日本に達した。西日本の一部および北日本の一部で雨が降り、東北地方の一部で雷を伴った。北海道の一部で強風となった。31日は、日本海中部の低気圧が千島近海へ進み、前線が沖縄から東北地方にかけて通過した。また、オホーツク海の低気圧に伴う前線が北日本を通過した。このため、全国的に雨や雪が降り、近畿の一部で雷を伴った。全国の一部で強風となり、西日本の一部では暴風となった。

4月

低気圧が発達しながら日本海を通過し、太平洋側で大雨、全国各地で暴風（1日～7日）

1日は、日本海中部の低気圧が寒気を伴って三陸沖へ進み、千島近海の発達した低気圧が北東へ進んだ。山陰から北陸にかけておよび北日本で雨や雪が降った。2日は、三陸沖の低気圧が北東へ進んだ後、日本付近は高気圧に覆われた。また、低気圧が黄海を東へ進んだ。沖縄から九州にかけての一部と、北陸から北海道にかけての一部で雨や雪が降った。3日は、低気圧が急速に発達しながら朝鮮半島から日本海中部へ進み、伴う前線が西日本から北日本を通過した。全国的に雨が降り、一部で雷を伴い、暴風や強風となったところもあった。西日本から東日本にかけての一部で大雨となった。4日は、発達した低気圧が日本海中部からオホーツク海へ進んだ。西日本から東日本にかけての一部および北日本で雨や雪が降り、暴風や強風となったところもあった。5日は、寒気を伴った気圧の谷の影響を受けた。全国の一部で雨や雪が降り、西日本から東日本の一部で雷を伴った。北海道の一部では強風となった。6日は、関東の東海上に発生した低気圧は北東へ進み、日本海中部の低気圧は北海道の東海上へ進んだ。西日本から北日本にかけての一部で雨や雪が降り、西日本から東日本にかけての一部で雷を伴った。7日は、一時的に冬型の気圧配置となった。山陰から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降り、北陸の一部では雷を伴った。西日本では強風となったところもあった。

高気圧に覆われる（8日～10日）

8日は、高気圧に覆われ概ね晴れた。9日は、日本海北部の低気圧が千島近海へ進み、西日本から北日本にかけての一部で雨や雪が降り、近畿の一部で雷を伴った。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。10日は、はじめ高気圧に覆われたが、次第に高気圧が東へ移動し、湿った空気の影響を受け、西日本の一部で雨が降った。

低気圧が本州南岸と日本海を通過し、西日本から東日本にかけて大雨、伊豆諸島で暴風（11日～14日）

11日は、九州の西海上と日本海西部に低気圧があつてそれぞれ東へ進み、伴う前線が日本を通過した。北海道の一部を除いて全国的に雨が降り、西日本から東日本にかけての一部で大雨となった。九州の一部では雷を伴った。12日は、関東の東海上の低気圧が北東に進んだ後、日本は高気圧に覆われた。南西諸島および東日本から北日本にかけての一部で雨が降り、東北地方の一部では雷を伴った。13日は、華中の低気圧が四国沖に進み、伴う前線が南西諸島を通過した。また、日本海北部の低気圧が東へ進んだ。沖縄・奄美から東日本にかけておよび北日本の一部で雨が降った。東北地方の一部では雷を伴い、強風となったところもあった。14日は、東海沖の低気圧が東へ進んだ。東日本を中心に雨が降り、伊豆諸島の一部では雷を伴い、暴風となったところもあった。

前線の影響により、沖縄・奄美で大雨（15日～20日）

15日は、低気圧が日本の東海上を東へ進み、伴う前線が華南までのびた。沖縄・奄美で雨が降り、一部で雷を伴った。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。16日は、華南から日本の東海上にのびる前線と気圧の谷の影響で、南西諸島と四国および近畿で雨が降り、一部で雷を伴った。17日は、寒気を伴った気圧の谷の影響で、西日本から北日本にかけての一部で雨が降り、雷を伴っ

たところもあった。18日は、湿った空気の影響で、沖縄で雨が降った。また、気圧の谷の影響で北海道の一部で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。19日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美から西日本にかけて雨が降り、近畿の一部で雷を伴った。20日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降り、沖縄の一部で大雨となった。

低気圧が本州南岸を通過し、九州から東海地方にかけて大雨、西日本で暴風（21日～27日）

21日は、華中の低気圧が九州の南海上へ進んだ。沖縄・奄美から西日本にかけて雨が降り、沖縄・奄美の一部で雷を伴った。九州の一部で大雨となり、暴風や強風となったところもあった。22日は、四国沖の低気圧が東へ進み、前線が沖縄・奄美を通過した。沖縄・奄美から東日本にかけておおよび東北地方の一部で雨が降り、九州から東海地方にかけて大雨となったところがあった。沖縄から九州にかけての一部で雷を伴った。北陸や西日本の一部では強風となった。23日は、寒気を伴う気圧の谷と、東海沖から関東の東海上へ進む低気圧の影響で、近畿地方の一部および東日本から北日本にかけて雨が降り、東海地方の一部で大雨となった。北陸の一部では雷を伴った。24日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降り、一部で雷を伴った。また、関東の東海上から三陸沖へ進む低気圧の影響で、関東から北海道にかけての一部で雨が降り、関東の一部で雷を伴った。25日は、華中の前線上に低気圧が発生し、九州付近へ進んだ。沖縄・奄美から西日本にかけて雨が降り、沖縄・奄美の一部では雷を伴った。九州の一部では大雨となり、暴風や強風となったところもあった。26日は、九州付近の低気圧が東海沖へ進んだ。また、日本海中部の低気圧が北東へ進んだ。北海道の一部を除いて全国的に雨が降り、沖縄・奄美の一部では雷を伴った。北陸や北海道では強風となったところもあった。27日は、東海沖の低気圧が東へ進んだ。また、釧路沖に低気圧が発生した。東日本から北日本にかけて雨が降った。

前線の影響で、南西諸島で大雨（28日～30日）

28日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降り、一部で大雨となり、雷を伴ったところもあった。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。29日は、華中の前線が九州の南海上へのび、沖縄・奄美から九州にかけて雨が降った。沖縄・奄美の一部では大雨となり、雷を伴ったところもあった。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。30日は、華中から日本の南海上へのびる前線上に低気圧が発生し、種子島付近から日本の南海上へ進んだ。沖縄・奄美から西日本にかけておおよび東日本の太平洋側の一部で雨が降り、沖縄・奄美と関東の一部では雷を伴った。九州では大雨となったところもあった。

5月

前線上の低気圧が本州南岸から三陸沖へ進み、太平洋側で大雨（1日～4日）

1日は、前線が華中から日本の南海上へのび、前線上に発生した低気圧が九州の西海上から東へ進んだ。沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側で雨が降り、沖縄・奄美の一部では雷を伴った。沖縄・奄美および東海地方では大雨となったところもあった。2日は、九州の南部付近の低気圧が東海沖へ進み、伴う前線が南西諸島を通過した。沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降り、大雨となったところもあった。沖縄・奄美の一部では雷を伴った。3日は、東海沖の低気圧が関東付近へ進んだ。また、日本海中部に低気圧が発生して北東へ進んだ。本州を中心に雨が降り、関東から東北地方にかけての一部では大雨となった。関東では雷を伴ったところもあった。4日は、関東付近の低気圧が三陸沖を北へ進んだ。また、日本海中部の低気圧が秋田沖に進み消滅した。山陰および東日本から北日本にかけて雨が降り、東日本の一部では雷を伴った。北日本では大雨となったところもあった。北海道の一部では強風となった。

低気圧および上空の寒気の影響をうける（5日～12日）

5日は、上空に寒気を伴った低気圧が日本海北部を北へ進んだ。近畿から北海道にかけての一部で雨が降り、近畿と東海地方の一部では雷を伴った。6日は、上空に寒気を伴った低気圧が日本海

西部から北海道付近へ進んだ。西日本から北日本にかけて雨が降り、一部で雷を伴った。7日は、上空の寒気の影響で、西日本の一部および北海道で雨が降り、西日本の一部では雷を伴った。8日は、上空の寒気の影響で、北日本の一部で雨が降った。9日は、華中から日本の南海上へのびる前線の影響で、沖縄・奄美で雨が降り、一部で雷を伴った。また、上空の寒気の影響で、中国地方から東北地方にかけて雨が降り、一部で雷を伴った。10日は、上空の寒気の影響で、東日本から北日本にかけての一部で雨が降り、東日本の一部では雷を伴った。11日は、上空の寒気の影響で、山陰から北陸にかけておよび北日本の一部で雨が降った。12日は、北海道の東海上の低気圧の影響で、山陰から東北地方にかけての日本海側で雨が降った。北海道の一部では雨や雪が降り、強風となったところもあった。

前線上の低気圧が本州を東へ進み、九州南部で大雨（13日～16日）

13日は、華中から沖縄本島付近にのびる前線の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。14日は、華中から東シナ海にのびる前線上に低気圧が発生して、東シナ海から九州の西海上へ進んだ。沖縄・奄美から西日本にかけて雨が降った。沖縄・奄美の一部では雷を伴い、大雨となったところもあった。15日は、九州付近の低気圧が、西日本を通過して関東付近へ進んだ。また、日本海西部に低気圧が発生して、東へ進んだ。全国的に雨が降り、沖縄・奄美の一部では雷を伴った。16日は、沖縄本島付近の前線の影響で、沖縄・奄美で雨が降り、一部で雷を伴った。また、三陸沖から北海道の東海上へ進む低気圧と、日本海北部からオホーツク海へ進む低気圧の影響で、北陸の一部および北日本の一部で雨が降った。

前線と上空の寒気の影響を受ける（17日～18日）

17日は、沖縄本島付近の前線と日本海西部の上空の寒気を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美および西日本から北日本にかけての一部で雨が降り、一部で雷を伴った。18日は、日本海中部の低気圧および、関東付近で発生し北東へ進んだ低気圧の影響により、東日本および東北地方の一部で雨が降り、東日本の一部では雷を伴った。

低気圧と前線が本州南岸を通過（19日～24日）

19日は、東シナ海の前線の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。20日は、華南から日本の南海上へのびる前線上の低気圧が沖縄本島付近を通過したため、沖縄・奄美から西日本の太平洋側にかけて雨が降り、沖縄・奄美の一部では大雨となった。21日は、低気圧が日本の南海上を北東へ進んだ。沖縄・奄美から西日本にかけての一部で雨が降った。22日は、日本の南海上の低気圧が北東へ進んだ。東海地方から東北地方にかけての太平洋側で雨が降り、関東の一部では雷を伴った。伊豆諸島では暴風や強風となったところもあった。23日は、関東の東海上の低気圧が北海道の東海上へ進んだ。関東から東北地方にかけての太平洋側および北海道の一部で雨が降った。24日は、北海道の東海上の低気圧が北東へ進み、北海道の一部で雨が降った。

上空の寒気や気圧の谷の影響を受ける（25日～31日）

25日は、気圧の谷の影響により九州から北海道にかけての一部で雨が降った。北日本の一部では雷を伴った。26日は、九州の南海上の低気圧の影響で、南西諸島で雨が降った。また、釧路沖に低気圧が発生して北東へ進み、北日本で雨が降り、北海道の一部では雷を伴った。27日は、九州の南海上の低気圧の影響で、沖縄・奄美の一部で雨が降った。また、大気の状態が不安定となり、西日本から北日本にかけての一部で雨が降り、雷を伴ったところもあった。28日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降り、一部で大雨となった。また、上空に寒気を伴った低気圧の影響で、近畿の一部および関東甲信から東北地方にかけて雨が降り、雷を伴ったところもあった。29日は、上空の寒気の影響で、西日本から北日本にかけての一部で雨が降り、西日本から東日本にかけての一部で雷を伴った。東日本では大雨となったところもあった。また、湿った空気の影響で、沖縄・奄美の一部で雨が降った。30日は、上空の寒気の影響で、関東の一部および北海道の一部で雨が降り、

雷を伴ったところもあった。また、気圧の谷の影響で、九州の一部で雨が降った。31日は、沖縄本島付近の前線の影響で、沖縄・奄美で雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。また、大気の状態が不安定となり、西日本から東日本にかけての一部で雨が降った。

6月

沖縄本島付近に停滞した前線と台風第3号の影響で、南西諸島で大雨、沖縄・奄美および伊豆諸島で暴風（1日～7日）

1日から3日は、先島諸島から沖縄本島付近にかけて前線が停滞したため、沖縄から東北地方にかけての一部で雨が降り、雷を伴ったところもあった。沖縄・奄美の一部では大雨となった。4日は、引き続き沖縄本島付近に前線が停滞し、また、台風第3号が沖縄の南海上に北へ進んだ。沖縄から九州にかけて雨が降り、沖縄・奄美の一部では大雨となった。5日は、台風第3号が沖縄の南海上から本州南岸へ進んだ。また、九州の南海上の前線が東海沖まで北上した。沖縄・奄美から東日本の太平洋側にかけて雨が降り、沖縄の一部では大雨となり、暴風や強風となったところもあった。6日は、台風第3号が関東の東海上で温帯低気圧に変わり、三陸沖を北東へ進んだ。東日本から北日本にかけて雨が降り、北日本の一部では雷を伴った。伊豆諸島では暴風や強風となったところもあった。7日は、三陸沖の低気圧が北東へ進み、また、前線が華中から九州の南海上へのびた。沖縄から九州にかけて、および北日本の一部で雨が降った。

本州南岸に前線が停滞し、前線上の低気圧が四国沖を東へ進み、南西諸島および四国で大雨（8日～10日）

8日は、華中から日本の南海上にのびる前線上に低気圧が発生し、四国沖を東へ進んだ。西日本から東日本にかけて雨が降り、一部で雷を伴った。西日本では大雨となったところがあった。9日は、華中から本州南岸にのびる前線上の低気圧が、東海沖から関東の東海上へ進んだ。沖縄から東北地方にかけて雨が降り、沖縄・奄美の一部では雷を伴い、大雨となったところもあった。10日は、沖縄・奄美に前線が停滞した影響で、沖縄・奄美で雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。また、低気圧が関東の東海上から三陸沖へ進み、東日本から北日本にかけて雨が降った。

沖縄本島付近に前線が停滞し、沖縄から九州にかけておよび伊豆諸島で大雨（11日～14日）

11日から12日は、前線が沖縄本島付近に停滞し、前線上に低気圧が発生して九州の南海上から本州南岸へ進んだ。沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側で雨が降り、沖縄・奄美から九州にかけての一部では雷を伴った。沖縄・奄美および伊豆諸島では大雨となったところもあった。13日から14日は、前線が華南から関東の東海上に停滞した。沖縄・奄美および東日本の一部で雨が降った。

前線を伴った低気圧が九州の西海上から日本海西部へ進み、西日本から東日本にかけて大雨（15日～17日）

15日は、華南から日本の南海上に前線がのび、前線上に発生した低気圧が九州の西海上から西日本へ進んだ。沖縄・奄美から西日本にかけて雨が降り、西日本の一部では雷を伴い、大雨となったところもあった。16日は、低気圧が西日本から日本海中部へ進み、伴う前線が西日本から東日本に達した。九州から東北地方にかけて雨が降り、九州から甲信地方にかけての一部では雷を伴い、大雨となったところもあった。17日は、日本海中部の低気圧が釧路沖へ進み、また、九州の西海上から関東の東海上に前線が停滞した。西日本から北日本にかけて雨が降り、九州の一部で大雨となった。

台風第4号と本州付近に停滞する前線の影響で、全国的に大雨、一部で暴風（18日～22日）

18日は、台風第4号が沖縄の南海上から沖縄本島付近へ進み、西日本付近に前線が停滞した。沖縄・奄美から西日本にかけて雨が降り、西日本の一部では雷を伴い、大雨となったところもあった。

沖縄の一部では暴風や強風となった。19日は、台風第4号が九州の南海上から北東へ進み、17時過ぎに和歌山県南部に上陸し、20時過ぎに愛知県東部に再上陸した。沖縄から東北地方にかけて雨が降り、一部で大雨となった。沖縄では雷を伴ったところもあった。沖縄・奄美から東日本にかけての一部では暴風や強風となった。20日は、台風第4号が三陸沖で温帯低気圧に変わり、本州南岸を通過して東シナ海へのびる前線を伴って北東へ進んだ。南西諸島および東日本から北日本にかけて雨が降り、一部で大雨となり、暴風や強風となったところもあった。21日は、東シナ海から東海沖へのびる前線上に低気圧が発生し、九州の西海上を東へ進んだ。沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降り、沖縄・奄美の一部では雷を伴い、沖縄・奄美から西日本にかけて大雨となったところもあった。また、釧路沖の低気圧の影響で、北日本の一部では雨が降った。22日は、東海沖の低気圧が東シナ海へのびる前線を伴って三陸沖へ進んだ。沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降り、東日本の一部では大雨となった。

前線の影響により、西日本で大雨（23日～30日）

23日は、九州の南海上の前線が北上し、九州に達した。沖縄から九州にかけて雨が降り、雷を伴ったところがあった。また、九州の一部では大雨となった。24日から25日は、九州の西海上から日本の南海上に前線がほぼ停滞し、前線上の低気圧が九州の西海上から四国沖へ進んだ。西日本で雨が降り、九州では大雨となり、一部で雷を伴った。26日から27日は、前線が華中から九州を通過して日本の東海上へのび、ほぼ停滞した。沖縄・奄美から西日本にかけての太平洋側で雨が降り、沖縄・奄美の一部で雷を伴い、九州南部では大雨となった。28日は、華中から日本の東海上へのびる前線上に低気圧が発生して、四国沖から東海沖へ進んだ。西日本の太平洋側で雨が降った。29日から30日にかけて、華北から九州の西海上へのびる前線上に低気圧が発生し、華北から日本海西部へ進み、伴う前線が西日本を通過した。西日本で雨が降り、九州の一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。

7月

華中から関東の東海上へのびる前線の影響で、九州や東日本で大雨（1日～4日）

1日は、華中から関東の東海上へのびる前線の影響で、西日本から東日本にかけて雨が降った。九州の一部では雷を伴い、大雨となったところもあった。2日は、華中から関東の東海上に前線が停滞した。この前線上に発生した低気圧が東海沖から東へ進み、関東の東海上に達した。関東から東北地方にかけての一部や九州で雨が降り、九州の一部では雷を伴い、大雨となったところもあった。3日は、華中から関東の東海上に前線が停滞したため、西日本から東日本にかけて雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。4日は、華中から西日本に前線が停滞したため、西日本の一部や関東の一部で雨が降り、雷を伴ったところもあった。

西日本から東日本に前線が停滞したあと、九州の南海上まで南下し、全国各地で大雨（5日～9日）

5日は、華中から西日本に前線が停滞した。また、日本海中部に低気圧が発生して北海道へ進んだ。全国的に雨のところが多く、一部で雷を伴った。中国地方や東北地方では大雨となったところもあった。6日は、西日本から東日本にかけて前線が停滞した。また、低気圧が日本海西部で発生し、東へ進んだ。九州から東北地方にかけて雨が降り、西日本と東日本の一部では雷を伴い、大雨となったところもあった。7日は、西日本から東日本にかかる前線が本州南岸へ南下した。また、日本海中部の低気圧は東へ進んだあと消滅し、関東の東海上に低気圧が発生した。九州から東北地方にかけて雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。8日は、九州の南海上に停滞した前線の影響で、沖縄・奄美で雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。また、関東の東海上の低気圧の影響で、東日本から北日本にかけての一部で雨が降った。9日は、九州の南海上に停滞した前線の影響で、沖縄・奄美で雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。また、日本海北部から網走沖へ進んだ低気圧の影響で、北海道で雨が降った。

西日本から北日本に前線が停滞し、西日本から東日本にかけて、および北海道で大雨（10日～14日）

10日は、九州の南海上の前線が九州南部まで北上し、南西諸島で雨が降り、一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。11日は、前線が、九州南部から山陰沖まで北上した。西日本から東日本の一部にかけて雨が降り、九州の一部では雷を伴い、大雨となったところもあった。12日は、西日本から北日本にかけて前線が停滞したため、全国的に雨が降り、九州から関東にかけて、および北海道では大雨となったところがあった。また、西日本から東日本にかけての一部では雷を伴った。13日から14日にかけて、引き続き西日本から北日本にかけて前線が停滞した。北日本の一部や西日本から東日本にかけて雨が降り、一部で雷を伴った。九州の一部や東日本の一部では大雨となった。

西日本から北日本に停滞した前線と台風第7号の影響で、沖縄から九州にかけて、および東北地方で大雨（15日～19日）

15日は、西日本から北日本に前線が停滞した。近畿の一部から北陸にかけての一部および東北地方で雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。16日は、対馬海峡から北日本にかけて前線が停滞した。九州および東北地方で雨が降り、一部で大雨となった。九州では雷を伴ったところもあった。17日は、台風第7号が九州の南海上を北西へ進み、沖縄から九州の太平洋側にかけて雨が降り、一部で大雨となった。また、北日本に前線が停滞したため、関東から東北地方にかけて雨が降り、一部で雷を伴った。18日は、台風第7号が九州の西海上を北上した。沖縄から九州にかけて雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。また、湿った空気の影響で、関東の一部で雨が降り、雷を伴ったところもあった。19日は、湿った空気の影響で、沖縄から中国地方にかけて雨が降り、一部で雷を伴い、西日本では大雨となったところがあった。

湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけて大雨（20日～22日）

20日は、湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけて雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。21日から22日にかけても、湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけて雨がふり、大雨となったところもあった。西日本の一部では雷を伴った。

湿った空気の影響を受ける（23日～30日）

23日は、湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけての一部で雨が降り、九州では雷を伴ったところもあった。24日から25日にかけて、大気の状態が不安定となり、西日本の一部で雨が降り、雷を伴ったところもあった。また、上空の気圧の谷の影響で、北日本の一部で雨が降った。26日は、大気の状態が不安定となり、沖縄から東北にかけての一部で雨が降り、近畿では雷を伴ったところもあった。その他の地方は概ね晴れた。27日は、湿った空気の影響で、沖縄から九州にかけての一部で雨が降り、九州では雷を伴ったところもあった。その他の地方は概ね晴れた。28日から29日にかけて、湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけての一部で雨が降り、雷を伴ったところもあった。その他の地方は概ね晴れた。30日は、湿った空気の影響で、西日本から北日本にかけての一部で雨が降り、雷を伴ったところもあった。

台風第9号の影響で沖縄・奄美で雨、前線の影響で北海道で大雨（31日）

31日は、台風第9号が沖縄の南海上を北上したため、沖縄・奄美で雨が降った。また、華中から渤海を通り千島近海にのびる前線の影響で、北海道で雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。

8月

台風第9号および台風第10号の影響で、西日本で大雨、沖縄・奄美および西日本で暴風（1日～2日）

1日は、台風第9号が沖縄の南海上を北上した。また、台風第10号が本州南岸を西北西へ進み、15時過ぎに鹿児島県屋久島付近を通過したあと、九州の西海上へ進んだ。沖縄・奄美および西日本の太平洋側で雨が降り、一部で大雨となり、暴風や強風となったところもあった。また、日本海中部から北海道を通過して千島の東海上にのびる前線の影響で、北海道で雨が降った。2日は、東シナ海を北西へ進む台風第9号と、九州の西海上から黄海へ進む台風第10号の影響で、沖縄・奄美および西日本の太平洋側で雨が降った。沖縄・奄美では暴風や強風となったところもあった。

台風第11号と北日本の前線の影響で沖縄と伊豆諸島および東北地方で大雨、沖縄・奄美で暴風（3日～7日）

3日は、台風第11号が日本の南海上で発生して西へ進み、4日に九州の南海上へ進んだ。沖縄・奄美および西日本の太平洋側の一部で雨が降った。5日は、台風第11号が九州の南海上を北西へ進んだ。沖縄・奄美および西日本の太平洋側で雨が降り、一部で大雨となった。沖縄・奄美では強風となったところがあった。また、日本海中部から北日本を通過して三陸沖へのびる前線の影響で、北海道で雨が降った。6日は、台風第11号が九州の南海上を北西へ進んだ。また、東海沖に低気圧が発生して北東へ進んだ。全国的に雨が降ったところが多く、一部で雷を伴った。沖縄・奄美および伊豆諸島と北日本では大雨となったところもあった。沖縄・奄美の一部では暴風や強風となった。7日は、台風第11号が東シナ海を北西へ進んだため、沖縄・奄美で雨が降った。また、大気の状態が不安定となり、全国的に雨が降ったところがあった。

湿った空気の影響を受け、西日本から東日本で大雨（8日～12日）

8日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美から九州にかけて雨が降り、一部で大雨となり、雷を伴ったところもあった。9日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美から九州にかけて雨が降り、雷を伴ったところもあった。また、日本の東海上の台風第12号が北西へ進み、東北地方から北海道にかけての一部で雨が降った。10日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけての一部で雨が降り、大雨となったところや、雷を伴ったところもあった。また、台風第12号は15時に千島近海で温帯低気圧に変わりオホーツク海へ進んだため、北海道で雨が降った。11日は、上空の寒気と湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。12日は、湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけての一部で雨が降り、西日本の一部で雷を伴った。

本州付近の前線の影響で、西日本から東日本で大雨（13日～19日）

13日は、黄海から東北地方を通過して三陸沖へのびる前線の影響で、九州から北海道にかけての日本海側で雨が降り、一部で雷を伴った。西日本から東日本にかけての一部では大雨となった。14日は、本州に前線が停滞したため、九州から東北地方にかけて雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。15日は、東日本に停滞していた前線が北海道まで北上した。東日本を中心に雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。16日は、前線が北日本を通過したため、北日本で雨が降った。また、湿った空気の影響で、沖縄で雨が降り、一部で雷を伴った。17日は、上空の寒気の影響で全国的に雨の降ったところがあり、雷を伴ったところもあった。18日は、気圧の谷の影響で、近畿から東北にかけてを中心に雨が降り、一部で雷を伴った。19日は、湿った空気の影響により、沖縄・奄美から東日本にかけての一部で雨が降り、西日本の一部では雷を伴った。

湿った空気や北日本の前線の影響で西日本および北日本で大雨（20日～23日）

20日は、湿った空気の影響により、沖縄・奄美から西日本にかけての一部で雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。また、日本海北部から北海道を通過して千島の東海上へのびる前

線の影響で、北日本で雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。21日から22日にかけて、湿った空気の影響により、沖縄・奄美および西日本の太平洋側で雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。23日は、日本海西部から北日本を通過して北海道の東海上へのびる前線の影響で、北日本で雨が降り、一部で雷を伴った。また、湿った空気の影響により、沖縄・奄美および西日本の太平洋側で雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。

台風第15号の影響で沖縄・奄美から西日本にかけて大雨、沖縄・奄美で暴風（24日～28日）

24日は、日本の南海上を北西へ進む台風第15号から湿った空気が流れ込み、沖縄・奄美および西日本の太平洋側で雨が降り、一部で雷を伴った。また、気圧の谷の影響により、北日本の一部で雨が降り、雷を伴ったところもあった。25日から26日にかけて、台風第15号が日本の南海上を北西に進み、26日21時頃に沖縄県沖縄本島付近を通過した。沖縄・奄美および西日本の太平洋側で雨が降り、沖縄・奄美の一部では大雨となり、暴風や強風となったところがあった。また、大気の状態が不安定となり、北日本で雨が降り、雷を伴ったところもあった。27日から28日にかけて、台風第15号が九州の南海上から朝鮮半島へ進み、台風第14号が沖縄の南海上を北東へ進んだ。沖縄・奄美および西日本の太平洋側で雨が降り、一部で大雨となった。沖縄から九州にかけて暴風や強風となったところもあった。

台風第14号の影響を受ける（29日～31日）

29日は、台風第14号が東シナ海を北上した。沖縄・奄美から西日本にかけて雨が降り、九州の一部では雷を伴った。30日は、台風第14号が九州の西海上から北東へ進み、朝鮮半島で温帯低気圧に変わった。九州から東北地方にかけての日本海側で雨が降り、一部で雷を伴った。31日は、日本海西部を東へ進む低気圧の影響で、西日本から東日本にかけての一部で雨が降り、雷を伴ったところもあった。

9月

湿った空気と上空の寒気の影響を受けて関東で大雨（1日～4日）

1日は、湿った空気と上空の寒気の影響で、西日本から東日本にかけて雨が降り、近畿や北陸の一部では雷を伴い、関東の一部では大雨となった。2日から3日にかけては、上空の寒気の影響で、九州から東北地方にかけて雨が降り、一部で雷を伴った。関東の一部では大雨となったところもあった。4日は、湿った空気と上空の寒気の影響で、西日本の一部および東日本から北日本にかけて雨が降った。また、西日本から北日本にかけての一部で雷を伴った。

前線の影響により各地で大雨（5日～11日）

5日は、前線が東シナ海から対馬海峡を通り日本海中部にかけてのびた。沖縄から近畿にかけて雨が降り、雷を伴ったところがあった。九州の一部では大雨となった。また、上空の寒気の影響で北日本でも雨が降り、一部で雷を伴った。6日は、西日本から北日本にかけて前線が通過したため、全国的に雨が降り、一部で雷を伴った。北陸では大雨となったところもあった。7日は、上空の寒気の影響で、西日本から東日本にかけての一部で雨が降り、西日本の一部では雷を伴った。8日は、華中から日本海中部にかけて前線がのび、九州から近畿にかけて雨が降り、雷を伴ったところもあった。九州の一部では大雨となった。9日は、華中から対馬海峡を通り北日本にかけて前線がのびた。西日本の一部および北日本で雨が降り、近畿の一部で雷を伴った。九州の一部および北日本の一部では大雨となったところがあった。10日は、西日本から北日本にかけて前線が停滞した。九州北部から北陸にかけて、および北日本で雨が降り、西日本の一部で雷を伴った。北日本では大雨となったところがあった。11日は、低気圧が日本海中部から北海道付近へ進んだ。西日本、および北陸から北海道にかけて雨が降り、雷を伴ったところがあった。四国の一部では大雨となった。

関東の東海上を熱帯低気圧が北へ進む（12日～13日）

12日は、関東の東海上を熱帯低気圧が北へ進んだ。また、北海道付近の低気圧がほとんど停滞したあと消滅した。関東から東北地方にかけての太平洋側と北海道で雨が降り、雷を伴ったところがあった。13日は、関東の東海上を北へ進んだ熱帯低気圧と湿った空気の影響で、四国の一部や北海道の一部で雨が降った。

台風第16号で沖縄・奄美から東日本にかけて大雨や暴風、前線の影響により北海道で大雨（14日～19日）

14日は、前線が東シナ海から日本海北部にかけてのびた。また、台風第16号がフィリピンの東海上を北へ進んだ。沖縄から東海地方にかけて雨が降り、一部で雷を伴った。四国では大雨となったところもあった。15日は、前線が東シナ海から北海道にのび、台風第16号が沖縄の南海上を北上した。沖縄・奄美から近畿にかけて雨が降り、雷を伴い、大雨となったところもあった。また、沖縄・奄美では、暴風や強風となったところがあった。16日は、台風第16号が沖縄近海を北上し、07時半頃沖縄本島付近を通過した後も北上を続け、九州の西海上に達した。また、前線が黄海から千島近海にのびた。沖縄から関東にかけて、および北海道で雨が降り、一部で大雨となった。沖縄・奄美では、暴風や強風となったところがあった。17日は、台風第16号が九州の西海上から日本海西部へ進んだ。九州から関東にかけて雨が降り、一部で大雨となり、暴風や強風となったところがあった。また、雷を伴ったところがあった。北海道は前線の影響で雨の降ったところがあった。18日は、台風第16号が沿海州で温帯低気圧に変わり、前線が西日本から千島近海にのびた。四国から関東にかけて雨が降り、一部で雷を伴い、大雨となったところもあった。19日は、山陰沖から千島近海にのびる前線の影響で、東日本から北日本にかけて雨が降り、大雨となったところがあった。関東の一部では雷を伴った。

本州南岸を進む低気圧や北海道付近の低気圧により、東日本から北日本にかけて大雨（20日～25日）

20日は、気圧の谷の影響により北日本で雨が降った。21日は、気圧の谷の影響で、近畿から東北地方にかけて雨が降り、関東の一部で雷を伴った。22日は、華南から日本の南海上に前線がのび、前線上の九州の南海上に低気圧が発生し、北東へ進んだ。沖縄・奄美から関東にかけての太平洋側を中心に雨が降った。23日は、低気圧が四国の南海上から関東の東海上へ進んだ。全国的に雨が降り、関東から東北地方にかけての一部では大雨となった。北海道では雷を伴ったところがあった。24日は、低気圧が関東の東海上から北海道の東海上へ進み、伴う前線が南西諸島にのびた。沖縄・奄美、および山陰から北海道にかけて雨が降り、一部で雷を伴った。25日は、北海道付近の低気圧がほとんど停滞した。北日本では雨が降り、雷を伴ったところがあった。北海道の一部では大雨となった。また、湿った空気の影響で関東でも雨が降った。

台風第17号と台風第18号により各地で大雨や暴風（26日～30日）

26日は、台風第18号が小笠原諸島を北東へ進み、伊豆諸島では前線が停滞した。伊豆諸島や小笠原諸島では雨が降り、強風となったところがあった。また、湿った空気の影響で北海道で雨が降った。27日は、台風第18号が関東の東海上を北へ進んだ。伊豆諸島や小笠原諸島では雨が降り、伊豆諸島では暴風や強風となったところがあった。28日は、台風第18号が関東の東海上を北東へ進み、関東から北海道にかけての太平洋側で雨が降り、伊豆諸島では暴風や強風となったところがあった。また、台風第17号が沖縄の南海上を北東へ進み、沖縄・奄美から九州にかけて雨が降り、沖縄では大雨、暴風や強風となったところがあった。29日は、台風第17号が沖縄本島付近から九州の南海上へ進み、沖縄から北陸にかけて雨が降り、沖縄から九州にかけての一部で大雨となり、暴風や強風となったところがあった。30日は、台風第17号が本州南岸を北東に進み、15時頃和歌山県潮岬付近を通過、17時半頃には三重県志摩半島付近を通過、19時頃愛知県東部に上陸したあ

と、東日本から北日本を北上した。全国的に雨が降り、大雨となったところがあった。また、暴風や強風となったところがあった。

10月

台風第17号の影響により北日本で大雨や暴風、その後高気圧に覆われる（1日～2日）

1日は、台風第17号が釧路沖から千島の東海上へ進んで温帯低気圧に変わり、また、前線が北日本を通過した。山陰から北陸にかけておよび北日本で雨が降り、北日本の一部では大雨や暴風、強風となった。2日は、気圧の谷の影響により北日本を中心に雨が降り、北海道の一部では大雨となった。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。

台風第19号の影響により、伊豆諸島で大雨や暴風（3日～4日）

3日は、台風第19号が小笠原諸島を北上した。山陰および、東日本から北日本にかけての一部で雨が降り、雷を伴ったところもあった。伊豆諸島の一部では大雨や強風となった。4日は、三陸沖で台風第19号が温帯低気圧に変わり、北海道の東海上へ進んだ。西日本から北日本にかけての一部で雨が降り、関東の一部では暴風となった。

寒気を伴った気圧の谷や低気圧により近畿から北海道で雨、その後高気圧に覆われる（5日～9日）

5日は、寒気を伴った気圧の谷が北日本を通過し、北日本の一部で雨が降った。6日は、本州南岸に低気圧が発生し、北東へ進んだ。近畿から北海道にかけて雨が降り、北海道の一部では雷を伴った。7日は、低気圧が関東の東海上から北海道の東海上へ進んだ。東日本から北日本にかけてを中心に雨が降り、北日本の一部では雷を伴った。8日から9日にかけて、高気圧に覆われ概ね晴れた。

低気圧が日本海を通過、北陸で大雨（10日～13日）

10日は、低気圧が朝鮮半島から日本海中部へ進んだ。西日本の一部や関東の一部、北海道の一部で雨が降り、北海道では雷を伴ったところもあった。11日は、日本海北部の低気圧が北東へ進み、伴う前線が西日本から北日本に達した。西日本から北日本にかけて雨が降り、北陸の一部では大雨となった。12日は、北海道の低気圧の影響で、北日本で雨が降り、北海道の一部では雷を伴った。13日は、北海道の低気圧の影響で、北日本で雨が降った。また、湿った空気の影響で、沖縄で雨が降り、一部で雷を伴った。

台風第21号や低気圧の影響により、沖縄・奄美から東日本にかけて大雨、暴風（14日～19日）

14日は、台風第21号が日本の南海上を北上し、南西諸島で雨が降り、一部で雷を伴った。また、日本海北部の低気圧がサハリンの西海上へ進み、伴う前線が北日本に達したため、北海道で雨が降った。15日は、台風第21号が日本の南海上でほぼ停滞し、南西諸島で雨が降り、一部で大雨となり強風となったところもあった。また、低気圧がサハリンの西海上を北へ進み、伴う前線が北日本を通過したため、北日本で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。16日は、台風第21号が日本の南海上でほぼ停滞し、前線が九州の南海上から日本の東海上へのびた。このため、沖縄から四国にかけての太平洋側で雨が降った。また、オホーツク海の低気圧の影響で、北海道の一部で雨が降り、一部で雷を伴った。17日は、台風第21号が沖縄の南海上を北上し、前線が九州の西海上から九州を通り、関東の東海上へのびた。また、日本海西部の低気圧が北東へ進み、伴う前線が北日本に達した。このため、全国的に雨が降り、沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側の一部で大雨となった。沖縄・奄美の一部では暴風や強風となった。18日は、台風第21号が九州の南海上から本州南岸へ進み、三陸沖から北海道の東海上へ進む低気圧に伴う前線が本州南岸にのびた。全国的に雨が降り、南西諸島および伊豆諸島の一部では大雨となった。南西諸島で

は暴風や強風となったところもあった。19日は、台風第21号が本州南岸から関東の東海上へ進み温帯低気圧に変わった。関東で雨が降り、暴風や強風となったところもあった。伊豆諸島の一部で大雨となった。また、北日本は冬型の気圧配置となり、北日本の日本海側で雨が降った。

低気圧が日本海を通過し、西日本から東日本にかけて大雨（20日～26日）

20日は、低気圧が日本海北部から網走沖へ進み、北日本で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。21日は、低気圧が網走沖から千島の東海上へ進み、伴う前線が北日本を通過した。北日本で雨が降り、一部で強風となった。22日は、黄海の低気圧が日本海中部へ進み、伴う前線が西日本および北海道に達した。西日本および北海道で雨が降り、近畿の一部で雷を伴い、北海道の一部では強風となった。23日は、日本海中部の低気圧が網走沖へ進み、伴う前線が西日本から北日本にかけて通過した。全国的に雨が降り、西日本から東日本にかけて大雨となったところもあった。近畿地方の一部では雷を伴い、北海道では強風となったところもあった。24日は、千島近海を北東に進む低気圧の影響により、北日本の日本海側で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。25日は、低気圧が沿海州から北海道へ進んだ影響で、北日本で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。26日は、北海道の東海上の低気圧の影響で、北日本で雨が降った。また、湿った空気の影響により、九州で雨が降った。

低気圧が日本海を通過し、西日本や北海道で大雨（27日～31日）

27日は、黄海の低気圧が日本海西部へ進んだ。西日本で雨が降り、九州の一部で大雨となった。28日は、日本海西部の低気圧が日本海北部へ進み、伴う前線が西日本から北日本を通過した。全国的に雨が降り、一部で大雨となった。北海道の一部では強風となった。29日は、日本海北部を北へ進む低気圧と東海沖から北東へ進む低気圧の影響で、東日本から北日本にかけて雨が降り、北海道の一部では強風となった。30日は、日本海西部の低気圧の影響で、山陰から北海道にかけての日本海側で雨が降った。また、三陸沖を北東に進む低気圧の影響で、北海道の一部で雨が降った。31日は、日本海中部や関東の東海上に低気圧が発生して北東へ進んだ。西日本から北日本にかけての一部で雨が降った。

11月

低気圧の影響により北日本で暴風（1日～2日）

1日は、日本海中部の低気圧が北東に進み北海道付近に達し、伴う前線が西日本から北日本にかけて通過した。山陰から北陸にかけて、および北日本で雨が降り、北陸と北日本では雷を伴ったところがあった。2日は、北海道付近の低気圧がほとんど停滞した後消滅し、別の低気圧が釧路沖に発生し、北東へ進んだ。山陰から北陸にかけて、および北日本で雨が降った。北日本の一部では、暴風や強風となった。

前線や低気圧の影響により、各地で大雨、北海道で強風（3日～9日）

3日は、千島近海の低気圧がほとんど停滞した。北陸から北海道にかけての日本海側で雨が降り、北海道の一部では強風となった。4日は、東シナ海から沖縄の南海上にかけて前線がのびた。対馬海峡に低気圧が発生し、伴う前線が西日本に達した。また、千島近海の低気圧が南東へ進んだ。沖縄・奄美から九州にかけておよび北日本の一部では雨が降り、沖縄・奄美から九州にかけて、大雨となったところがあった。北海道の一部では強風となった。5日は、東シナ海から日本の南海上に前線が停滞した。また、本州南岸と日本海西部を低気圧が北東へ進んだ。沖縄・奄美から近畿にかけて雨が降り、一部で雷を伴った。6日は、日本の南海上の前線上に低気圧が発生して東へ進み、沖縄奄美で雨が降った。また、本州南岸と日本海の低気圧の影響で、近畿から北海道にかけて雨が降り、雷を伴ったところがあった。また、関東から北海道にかけての一部で大雨となった。7日は、関東の東海上の低気圧が北東へ進み、北海道付近に達した。また、日本海中部の低気圧が南東に進んだ。中国地方から北陸にかけての日本海側と北日本で雨が降った。北海道では一部で大雨となり、強風

となったところもあった。8日から9日にかけて、北日本付近にある低気圧の影響で、北陸から北海道にかけて雨が降り、雷を伴ったところがあった。北海道の一部では大雨となった。

低気圧が本州南岸と日本海を進み、近畿と北海道で大雨、九州と北海道で強風（10日～12日）

10日は、華南から日本の南海上に前線がのび、黄海には低気圧が発生したため、沖縄・奄美から九州にかけて雨が降った。また、三陸沖の低気圧の影響で、北陸から東北地方にかけての日本海側を中心に雨が降った。11日は、東シナ海から四国沖にのびる前線上に低気圧が発生して、四国沖を東へ進んだ。また黄海の低気圧が北東へ進んで沿海州に達し、伴う前線が西日本を通過した。沖縄・奄美から東日本で雨が降り、近畿の一部で大雨となり、雷を伴ったところがあった。また、九州の一部で強風となった。12日は、沿海州の低気圧が北東へ進み、前線が西日本から北日本にかけて通過した。また、東海沖の低気圧が三陸沖に達した。東日本から北日本で雨が降り、北海道の一部で大雨や強風となった。

寒気を伴った気圧の谷や低気圧の影響で全国的に雨（13日～17日）

13日から15日にかけて、寒気を伴った気圧の谷の影響で、沖縄・奄美を除き全国的に雨が降り、雷を伴ったところがあった。北陸では強風となったところもあった。16日は、高気圧が朝鮮半島から関東の南海上に移動したため、西日本から東日本を中心に晴れたが、低気圧が黄海に進んできたため、九州の一部で雨が降った。17日は、九州の西海上の低気圧が関東の東海上に達し、日本海北部の低気圧がオホーツク海に進んだ。全国的に雨が降り、九州から東海地方にかけての一部で大雨となり、東海地方と関東では強風となったところがあった。

冬型の気圧配置で北日本や日本海側で雪（18日～21日）

18日は、三陸沖の低気圧がオホーツク海に進み、冬型の気圧配置(以下冬型と略す。)となった。近畿から北海道にかけての日本海側で雨や雪となり、東北地方では雷を伴ったところもあった。北日本の一部では強風となった。19日は、黄海から日本海中部に低気圧が進み、伴う前線が北日本を通過した。北陸から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降り、北陸では雷を伴ったところがあった。20日は、日本海中部の低気圧が北海道の東海上に進んだ影響で、近畿の日本海側から東北地方にかけて雨が降り、北海道では雪が降った。北陸の一部では雷を伴った。21日は、華中から九州の南海上に前線がのび、沖縄・奄美で雨が降った。北日本では冬型となり雪が降った。

低気圧と前線の影響で全国的に雨、北日本では雪（22日～25日）

22日は、華南から日本の南海上に前線がのび、前線上の九州の南海上に低気圧が発生した。沖縄・奄美、および九州から関東にかけての太平洋側で雨が降った。また、北日本は日本海に発生した低気圧の影響で雪や雨が降った。23日は、四国の南海上と釧路沖の低気圧が、それぞれ北東へ進んだ。全国的に雨が降り、北海道では雪が降った。24日は、気圧の谷の影響で、九州北部から中国地方にかけて雨が降った。また、冬型となり、北陸から北海道にかけての日本海側で雪や雨が降った。25日は、黄海の低気圧や、華南から東シナ海にのびる前線の影響で九州北部から中国地方にかけて雨が降った。また、冬型が続いた北日本では、日本海側で雪や雨が降った。

低気圧により雨や雪、北日本では暴風（26日～30日）

26日は、九州の西海上の低気圧が、前線を伴いながら、西日本を通過し、三陸沖に進んだ。また、前線を伴った低気圧が北日本を通過した。全国的に雨が降り、一部で大雨となった。北海道では雪が降った。西日本から東日本にかけての一部で強風となった。27日は、三陸沖の低気圧と千島近海の低気圧が北東に進んだ。また、日本海北部の低気圧が北海道を通過して千島近海に達した。近畿から東北地方にかけての日本海側、および北海道で雨や雪が降った。また、北日本の一部で、暴風や強風となり、北海道では雷を伴ったところもあった。28日は、沿海州の低気圧が北東に進み、伴う前線が北日本を通過した。北日本で雪や雨が降り、一部で雷を伴った。また、一部で強風となった。

29日は、日本海北部の低気圧が北東に進み、伴う前線が北日本を通過した。北陸から北海道にかけて雪や雨が降り、東北地方では雷を伴ったところがあった。また、北海道の一部では、暴風や強風となった。沖縄・奄美から九州にかけては、前線や低気圧の影響で雨が降った。30日は、湿った空気の影響により、沖縄・奄美から九州南部地方にかけて雨が降った。また、寒気の影響で近畿から北海道にかけての日本海側で雪や雨が降った。

12月

低気圧が日本海を通過し、関東や北海道で大雨、西日本から北日本にかけて暴風（1日～8日）

1日は、冬型の気圧配置（以下冬型と略す。）となった。山陰から北海道にかけての日本海側と関東で雨や雪が降り、関東の一部では暴風、北陸の一部では強風や大雪となった。また、先島諸島付近に前線が発生したため、沖縄・奄美で雨が降り、沖縄の一部で大雨となった。2日は、先島諸島付近の前線上に低気圧が発生し、東へ進み、沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側を中心に雨が降った。3日は、中国東北区で発生した低気圧が日本海西部へ進んだ。また、四国沖に低気圧が発生して東へ進んだ。沖縄・奄美から西日本にかけて、および関東で雨が降った。九州の一部では強風となった。4日は、日本海中部の低気圧が北東へ進んだ。東海沖の低気圧が三陸沖へ進んだ。西日本から北日本にかけて雪や雨が降った。北海道の一部では雷を伴い、北日本の一部では大雨となった。北陸の一部では暴風となり、西日本や北海道では強風となったところもあった。5日は、黄海の低気圧が日本海西部へ進み、伴う前線が西日本に達した。また、沖縄の南海上に前線が発生した。沖縄・奄美から西日本にかけて、および北陸から北日本にかけて雪や雨が降り、西日本の一部では雷を伴った。北海道では強風となったところもあった。6日は、日本海中部の低気圧が宗谷海峡へ進み、伴う前線が西日本から北日本を通過した。西日本から北日本にかけて雪や雨が降り、一部で雷を伴い、暴風や強風となったところもあった。7日は、山陰沖に低気圧が発生した。また、低気圧がサハリン付近を北上した。西日本、および北陸から北海道にかけての日本海側で雪や雨が降り、西日本や北陸の一部では雷を伴った。北海道では暴風や強風となったところもあった。8日は、日本海中部の低気圧が釧路沖へ進み、伴う前線が西日本から北日本を通過した。西日本から北日本にかけて雪や雨が降り、一部で雷を伴った。また、暴風や強風となったところもあった。

冬型の気圧配置で、北陸中心に大雪（9日～13日）

9日から10日にかけて、冬型となり、山陰から東北地方にかけての日本海側、および北海道で雪や雨が降り、北陸から東北地方にかけての一部で大雪となった。また、山陰から北陸にかけての一部では雷を伴った。西日本から北日本にかけての一部では強風となった。11日から12日にかけて、冬型が続き、沖縄・奄美、および山陰から北海道にかけての日本海側で雪や雨が降り、北陸の一部では雷を伴い、大雪となったところもあった。13日は、はじめ冬型で、次第に高気圧に覆われた。北陸から北海道にかけての日本海側で雪や雨が降った。

低気圧が日本海や日本の南海上を通過（14日～17日）

14日は、黄海の低気圧が日本海西部へ進み、伴う前線が西日本にのびた。また、宗谷海峡の低気圧が南東へ進み千島近海に達した。西日本および北日本の日本海側で雪や雨が降った。15日は、日本海西部の低気圧が秋田沖へ進み、伴う前線が西日本から北日本を通過した。沖縄・奄美、九州から東海地方にかけて、および東北地方で雨が降った。16日は、北日本を中心に冬型となり、北陸から東北地方にかけての日本海側および北海道で雨や雪が降った。また、沖縄本島付近に発生した前線の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。17日は、日本海西部に低気圧が発生して秋田沖へ進み、日本の南海上の前線上に発生した低気圧は東へ進んだ。西日本から北日本にかけて雨や雪が降った。

冬型の気圧配置で北陸を中心に大雪（18日～27日）

18日は、秋田沖の低気圧がオホーツク海へ進み、日本付近は冬型が強まった。沖縄・奄美、および山陰から北海道にかけて雨や雪が降った。19日から20日にかけて、冬型となり、山陰から北海道にかけて雨や雪が降った。21日は、東シナ海に発生した低気圧が西日本へ進み、伴う前線が南西諸島から九州を通過した。南西諸島から西日本にかけて雨が降った。22日は、四国沖の低気圧が三陸沖へ進み、沖縄本島付近の前線は東へ進んだため、全国的に雨が降った。23日は、日本海西部に発生した低気圧が関東の東海上へ進んだ。山陰から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降った。九州や北陸の一部では強風となった。24日は、冬型となり、山陰から東北地方にかけての日本海側で雨や雪が降り、北陸を中心に一部で大雪となった。25日は、日本海中部に発生した低気圧が釧路沖に進んだ。山陰から北陸および北日本で雨や雪が降り、北陸の一部では雷を伴った。北陸や北海道の一部では暴風や強風となった。26日は、冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側で雪や雨となり、北陸では大雪となったところがあった。北陸と北海道の一部で暴風となり、北日本の一部では強風となった。27日は、北日本では冬型が続いた。東北地方から北海道にかけての日本海側で雪が降り、北海道の一部では強風となった。その他の地方は、高気圧に覆われて概ね晴れた。

低気圧が本州南岸と日本海を通過（28日～31日）

28日は、九州の西海上の低気圧が東海沖へ進んだ。沖縄・奄美から関東にかけて雨が降った。29日は、東海沖の低気圧は東へ進んで日本の東海上に達した。東シナ海と日本海西部に低気圧が発生して共に北東へ進んだ。山陰および東日本で雨が降った。30日は、日本海西部の低気圧がサハリンの西海上へ進み、伴う前線が東日本から北日本を通過した。また、東シナ海の低気圧は発達しながら関東の東海上へ進んだ。全国的に雪や雨が降り、東海の一部では大雨となった。31日は、北海道の東海上の発達した低気圧が網走沖の低気圧と一体化してオホーツク海へ進み、日本は強い冬型の気圧配置となった。山陰から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降り、北陸の一部では雷を伴った。北海道では強風となったところもあった。